

山梨県韋崎市

三宮地遺跡

韋崎市文化ホール前通り線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

韋崎市遺跡調査会
韋崎市教育委員会

山梨県韋崎市

三宮地遺跡

韋崎市文化ホール前通り線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

韋崎市教育委員会
韋崎市遺跡調査会



1号配石土坑



3号土坑

序文

蘿崎市を貫流する塩川の右岸は、古来藤井平と呼ばれる肥沃な平地で歴史のある土地柄となっています。藤井平ではこれまでに県営圃場整備事業、市立小学校建設、雇用促進住宅建設、都市計画街路工事等々の公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査されて、貴重な文化財が相次いで発見されています。三宮地遺跡もこのような遺跡の宝庫である藤井平において発見されました。

三宮地遺跡は蘿崎市文化ホール前通り線の建設にともない、平成9年度に調査が実施され、道路の拡幅工事という性格上細長い調査区域で比較的狭い範囲でしたが、縄文時代中期前半・晚期前半、弥生時代、平安時代の遺構や遺物が多数発見されました。詳細は本報告書の本文以降に譲りますが、本遺跡から発見されたものは当時の生活や文化を知る上で貴重なものとなっています。発掘調査によって得られた資料は、文化財として永く後世に伝えて行かなければならぬものです。本報告書が原始・古代に生きた我々の先人の生活と歴史をときあかすための史料になればと願っております。

最後ですが、遺跡発掘調査並びに報告書作成に關係して、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第です。

平成10年3月31日

蘿崎市遺跡調査会

会長 秋山幸一

蘿崎市教育委員会

教育長 口野道男

例 言

- 1 本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条字三宮地39-1番地ほかに所在した三宮地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、韮崎市文化ホール前通り線建設工事に伴い行われた。
- 3 遺跡名は小字名を付けた。
- 4 発掘調査は、韮崎市から委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
- 5 航空写真測量は株式会社フジテクノの委託業務による。
- 6 整理作業及び報告書作成にかかる業務は韮崎市遺跡調査会が実施した。調査担当・調査員以外の整理業務参加者は、阿部由美子・石原ひろみ・岩崎満佐子・岩下雅美・上野理江・小野初美・斎藤春美・清水由美子・竜沢みち子・深沢真知子・保坂真澄である。
- 7 本報告書の編集は韮崎市遺跡調査会が実施し、執筆は、第Ⅰ章第1節・2節、第Ⅲ章第2節、第Ⅳ章第5節、第Ⅴ章を山下孝司、第Ⅱ章第1節・2節、第Ⅳ章第4節を秋山圭子、第Ⅲ章第1節、第Ⅳ章第1節・2節・3節を閔間俊明、第Ⅵ章を新山雅広・山形秀樹（パレオ・ラボ）が行った。
- 8 炭化物等の分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 9 発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただいた。一々御芳名を上げることは避けるが厚く御礼を申し上げる次第である。
- 10 発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

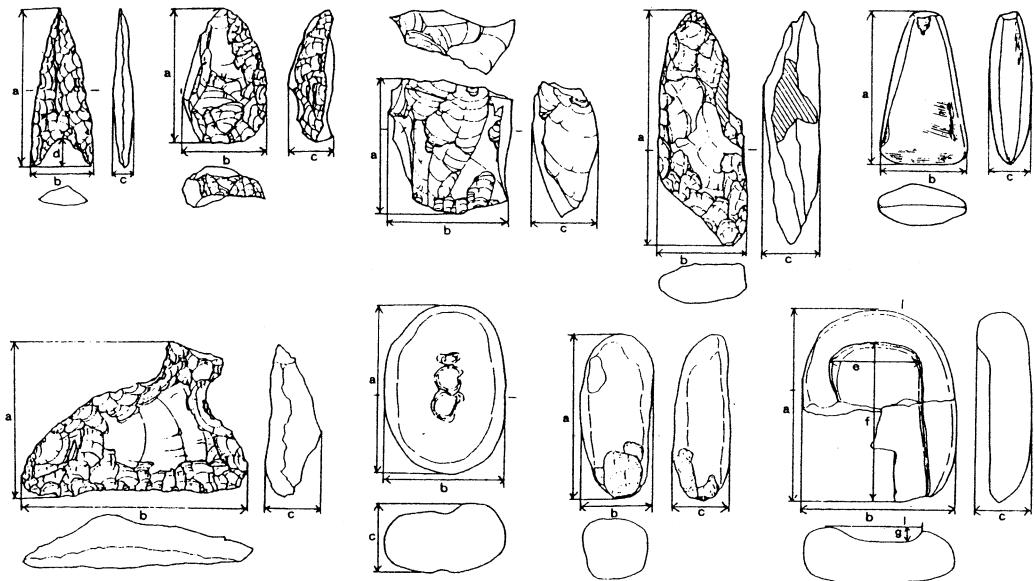
調査組織

- 1 調査主体 韮崎市遺跡調査会
- 2 調査担当 山下孝司・閔間俊明（韮崎市教育委員会社会教育課）
調査員 伊藤正彦（試掘）・秋山圭子（整理）（韮崎市遺跡調査会）
- 3 調査参加者
岡本嘉一・小沢高恵・小沢千代子・小沢治代・小沢久江・小田切昭子・岡本保枝・志村冴子・五味ゆき子・小沢栄子・乙黒きくゑ・大柴欣子・保坂実香子・守屋敏子・新藤澄江・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・清水由美子・上野理江・阿部由美子
- 4 事務局（韮崎市教育委員会社会教育課）
教育長 口野道男、課長 山本雄次、課長補佐 深沢義文、係長 藤巻明雄、野口文香、水上和樹

凡 例

- 1 遺構・遺物の縮尺は原則として各図ごとに示す。
- 2 石器計測の基準は以下に図示した通りである。

a. 長さ	b. 幅	c. 厚さ	d. 挟り長
e. 皿部長	f. 皿部幅	g. 皿部深さ	
- 3 遺物実測図には各図ごとに番号を付した。本文中の番号はこの番号による。なお、各地区的出土石器一覧表中の番号も同様である。
- 4 遺構断面図内に斜線で示した枠は石をあらわす。
- 5 石器実測図の斜線は節理面、網掛け部分は磨り面をあらわす。



目 次

卷頭カラ一

序 文

例 言

凡 例

目 次

挿 図 目 次

表 目 次

写 真 図 版 目 次

第Ⅰ章 調査の経緯と概要	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の概要	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	2
第1節 遺跡の立地	2
第2節 周辺の遺跡	3
第Ⅲ章 遺構	8
第1節 縄文時代の遺構	8
第2節 平安時代の遺構	20
第Ⅳ章 遺物	32
第1節 縄文時代の遺構内出土土器	32
第2節 縄文時代の土製品	41
第3節 弥生時代の土器	45
第4節 縄文時代の石器	47
第5節 平安時代の遺物	60
第Ⅴ章 まとめ	78
第Ⅵ章 付編 自然科学分析	79

写 真 図 版

挿 図 目 次

第1図	三宮地遺跡位置図	2
第2図	三宮地遺跡と周辺の遺跡および地形概念図	4
第3図	遺跡全体図	5
第4図	遺構配置図(1)	6
第5図	遺構配置図(2)	7
第6図	1号住居址平面・断面図	11
第7図	1号土坑平面・断面図(1/20)	12
第8図	2号土坑平面・断面図(1/20)	13
第9図	3号土坑確認状況図(1/20)	13
第10図	3号土坑平面・断面図(1/20)	14
第11図	3号土坑遺物出土状況図(1/20)	15
第12図	1号配石平面・断面図(1/20)	15
第13図	配石土坑群 碓出土状況図(1/40)	16
第14図	配石土坑群 配石下部状況図(1/40)	16
第15図	配石土坑群断面図(1/20)	17
第16図	配石土坑群遺物出土状況(1/40)	18
第17図	9号・1号配石土坑平面・断面図(1/20)	19
第18図	2号住居址平面・断面図	24
第19図	3号住居址平面・断面図	24
第20図	4号住居址平面・断面図	25
第21図	5号住居址平面・断面図	26
第22図	6号住居址平面・断面図	26
第23図	7号・9号住居址平面・断面図	27
第24図	8号住居址平面・断面図	27
第25図	10号・12号住居址平面・断面図	27
第26図	11号住居址平面・断面図	28
第27図	13号住居址平面・断面図	28
第28図	14号住居址平面・断面図	29
第29図	15号住居址平面・断面図	29
第30図	1号掘立柱建物址平面・断面図	29
第31図	2号掘立柱建物址平面・断面図	30
第32図	3号掘立柱建物址平面・断面図	30
第33図	4号掘立柱建物址平面・断面図	31
第34図	5号掘立柱建物址平面・断面図	31

第35図	1号住居址出土土器(1/4)	33
第36図	1号・2号・3号土坑出土土器(1/3)	34
第37図	2号・3号土坑、配石、配石土坑群出土土器(1/3)	36
第38図	1号配石土坑出土土器(1/6・1/3)	37
第39図	配石土坑群出土土器(1/3)	38
第40図	土偶(2/3)	43
第41図	土製品(2/3)	44
第42図	包含層出土弥生土器(1/3)	46
第43図	3・4・5・6・9・16号住居址出土石器	52
第44図	3号土坑出土石器	53
第45図	3号土坑・1号配石出土石器	54
第46図	配石土坑群出土石器(1)	55
第47図	配石土坑群出土石器(2)	56
第48図	遺構外出土石鏃・黒曜石	57
第49図	遺構外出土石器	58
第50図	遺構外出土石器	59
第51図	2号住居址出土遺物	69
第52図	3号住居址出土遺物	69
第53図	4号住居址出土遺物	69
第54図	5号住居址出土遺物	70
第55図	6号住居址出土遺物	71
第56図	7号住居址出土遺物	71
第57図	9号住居址出土遺物	71
第58図	10号住居址出土遺物	72
第59図	11号住居址出土遺物	72
第60図	11号住居址出土遺物	73
第61図	11号住居址出土遺物	74
第62図	12号住居址出土遺物	74
第63図	13号住居址出土遺物	75
第64図	14号住居址出土遺物	76
第65図	15号住居址出土遺物	76
第66図	4号掘立柱建物址出土遺物	76
第67図	5号掘立柱建物址出土遺物	76
第68図	遺構外出土遺物	77

表 目 次

第 1 表 遺構内出土土器觀察表(1)

第 2 表 遺構内出土土器觀察表(2)

第 3 表 出土土製品觀察表

第 4 表 出土弥生土器觀察表

第 5 表 出土石器一覽

第 6 表 3 号土坑出土石器

第 7 表 配石土坑群出土石器

第 8 表 石器分類表

写 真 図 版 目 次

巻頭カラー 1号配石土坑、3号土坑

- 図版1 1号住居址・炉、1号土坑遺物出土状況
- 図版2 2号土坑完掘状況、3号土坑礫出土状況・完掘状況
- 図版3 配石遺構群、1号配石土坑
- 図版4 真冬の調査区と茅ヶ岳、調査風景
- 図版5 1号住居址出土土器、1号配石土坑出土土器、1号土坑出土土器
- 図版6 土器、耳飾り、3号土坑出土トチの実
- 図版7 住居出土石器、3号土坑・1号配石出土石器、配石土坑群出土石器
- 図版8 遺構外出土石鎚、遺構外出土黒曜石
- 図版9 遺構外出土石器、遺構外出土石器
- 図版10 2号住居址、3号住居址、4号住居址
- 図版11 5号住居址、6号住居址、7号住居址
- 図版12 9号住居址、10号住居址、11号住居址
- 図版13 12号住居址、13号住居址、14号住居址
- 図版14 調査風景、15号住居址、2号掘立柱建物址
- 図版15 遺跡近景、3号掘立柱建物址、4号掘立柱建物址
- 図版16 5号掘立柱建物址、遺跡航空写真
- 図版17 7号住居址出土遺物、11号住居址出土遺物、13号住居址出土遺物
- 図版18 9号住居址出土石鎚、4号住居址出土土師器壺・墨書、13号住居址出土土師器壺・墨書
13号住居址出土綠釉陶器片、整理作業

第一章 発掘調査の経緯と概要

第1節 発掘調査にいたる経緯

平成7年3月、韮崎市より文化ホール前通り線建設工事にともない埋蔵文化財の有無確認依頼が出されたことを受けて、韮崎市教育委員会では現地踏査と埋蔵文化財有無確認の調査を実施した。調査は道路拡幅予定地において、地形等を考慮し任意に2m四方程の埋蔵文化財有無確認坑を設定し、重機により基本的に遺物包含層・遺構掘り込み面をとらえ、遺物出土の有無と遺構の確認作業を行った。その結果、遺物が出土し遺跡の存在が判明したため、韮崎市教育委員会と韮崎市開発部局とで協議を行い、路線内の遺跡が確認された2区域に関して緊急の埋蔵文化財発掘調査を実施することとした。

路線内東側において確認された一箇所については、調査面積約1,300m²を対象に、後田堂ノ前遺跡として平成8年度に韮崎市遺跡調査会により発掘調査されており、弥生時代後期の竪穴住居址6軒、古墳時代後期の竪穴住居址4軒、奈良・平安時代の竪穴住居址4軒、土坑4基、溝などが発見されている。その成果は平成9年3月31日発行の『後田堂ノ前遺跡』報告書としてまとめられている。

今回は残る区域で、路線内西端の部分において行われた。道路建設工事予定地内の拡幅部分約1,000m²を対象に、遺跡名を三宮地遺跡、調査主体を韮崎市遺跡調査会として、工事に先立ち発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

第2節 発掘調査の概要

発掘調査は路線内調査地の東側半分の区域から実施し、平成9年5月27日から開始し8月8日まで行った。その後一時中断して、西側区域には平成9年12月11に入り、最終的に調査が終了したのは平成10年2月13日であった。

調査地は道路用地として既に水田を埋め立ててあり、埋め土と旧耕作土を重機により取り除き、事前に行った埋蔵文化財有無確認調査結果に基づき、水田床土の下の暗灰褐色土層～黒褐色土層の遺物包含層面で遺構の確認作業を行った。遺構の埋没土と遺構構築土面の区別が困難な箇所では、隨時補助的に試掘溝を設定し遺構の確認作業を実施し、発掘調査を進めた。

基本的に調査区域はほぼ10m×100mの細長い範囲であり、発掘調査・遺構測量の基準として5m方眼を設定し、東から西方向に1・2・3・4………23、南から北方向にZ・A・B・Cとグリット番号を付けた。

各遺構は10分の1・20分の1で測量を行い、詳細図を作成し、全体図は航空写真測量によつて実施した。

調査の結果発見された遺構は、縄文時代中期前半の住居址1軒、縄文時代晚期の土坑3基・

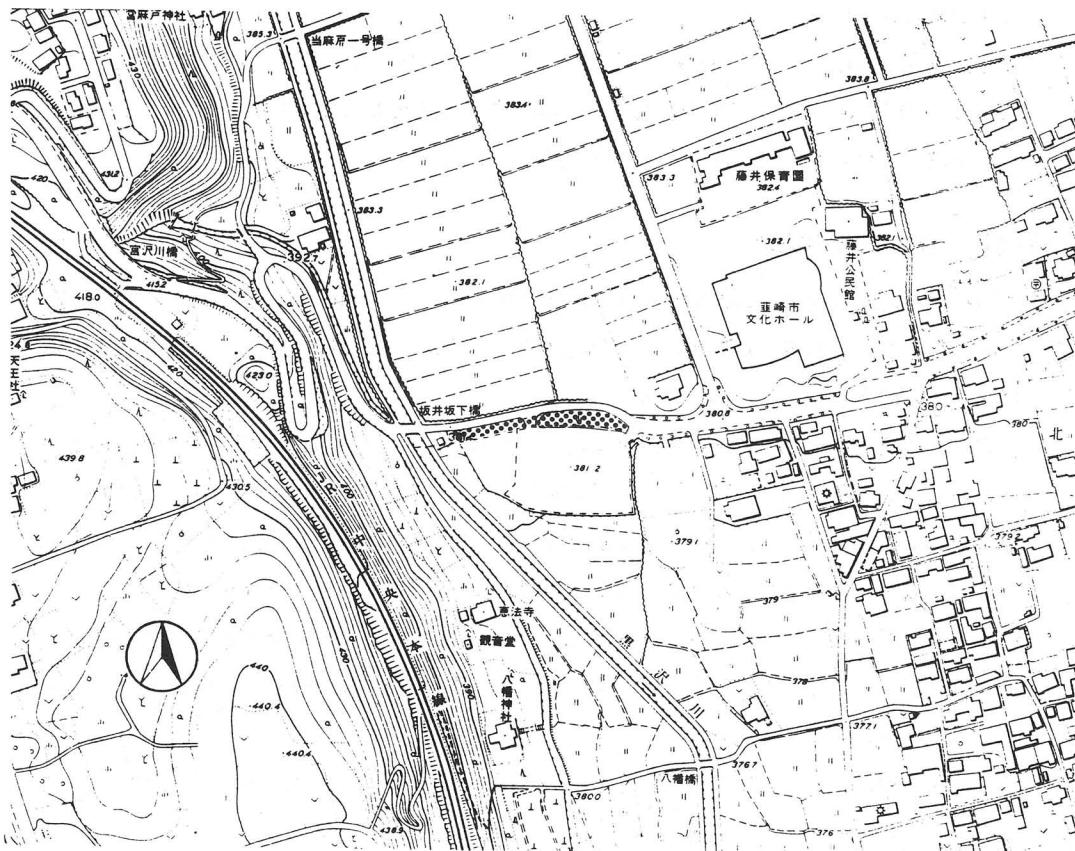
配石遺構1基・配石土坑9基、平安時代の竪穴住居址15軒・掘立柱建物址5棟、その他穴となっている。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地（第1図・第2図）

三宮地遺跡は山梨県韮崎市藤井町北下条字三宮地39-1に所在する。

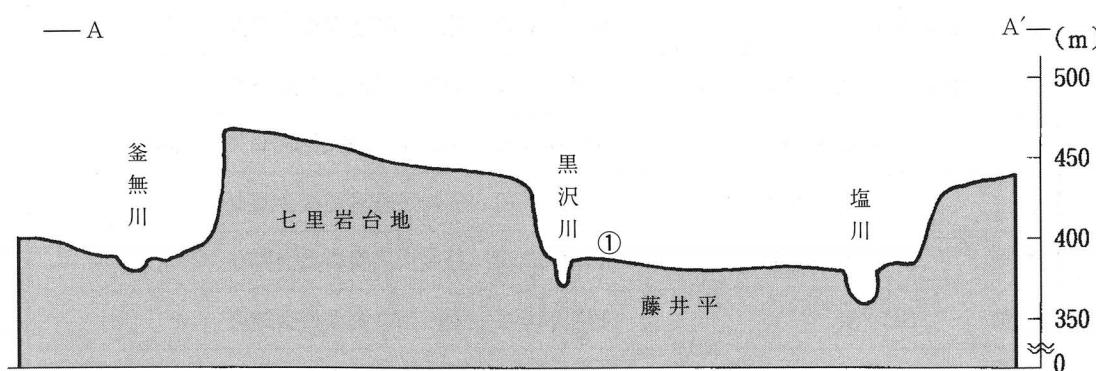
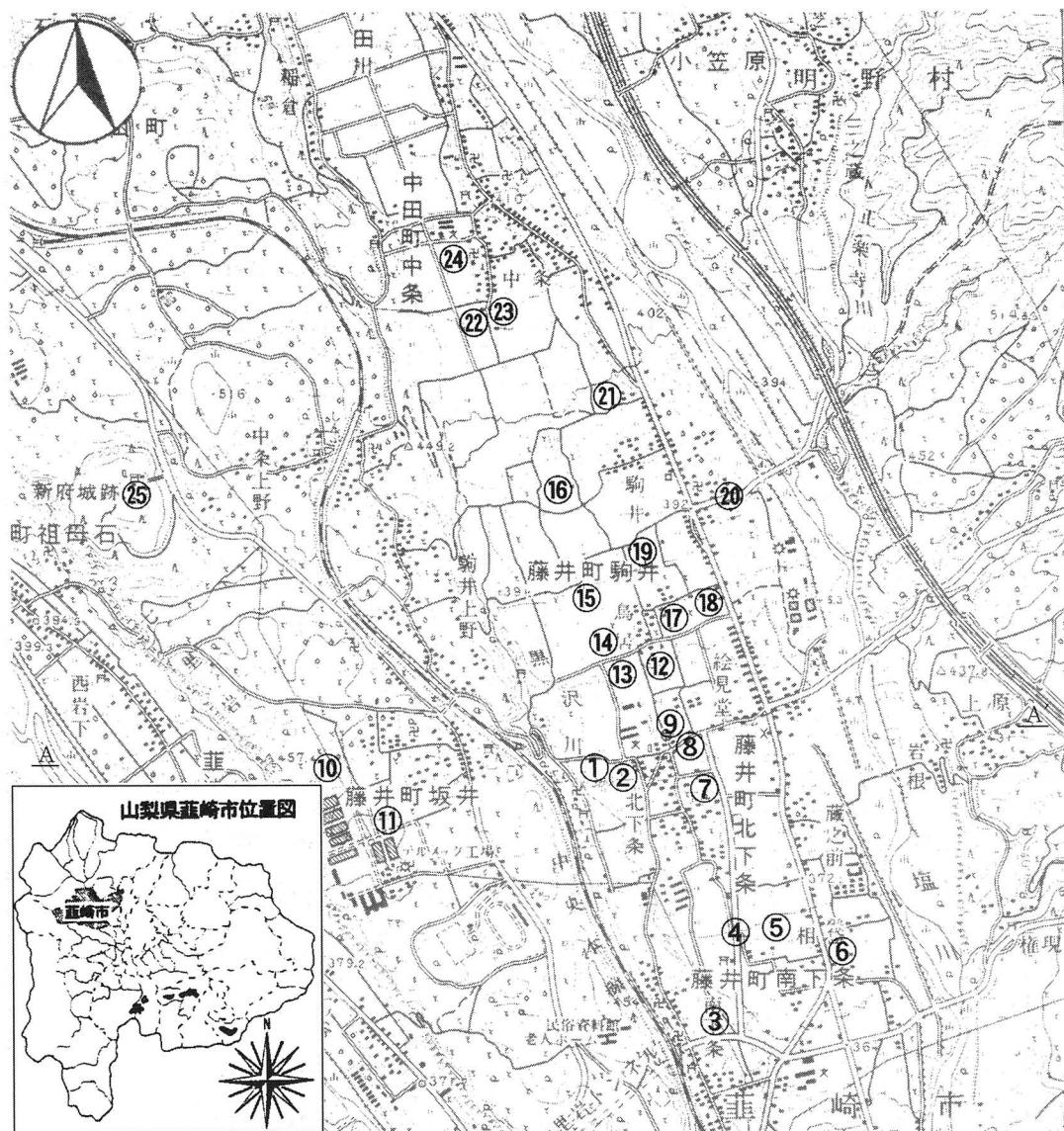
山梨県韮崎市は八ヶ岳と茅ヶ岳を臨む地にあり、釜無川と塩川によって大きく4つの地形に分かれる。三宮地遺跡の周辺は、塩川右岸の河岸段丘上に位置する。100~1,000mの幅で約9.5kmにわたって形成されたこの河岸段丘は藤井平と呼ばれ、古今肥沃な穀倉地帯でありつづけている。現在は平坦な氾濫原にみえるが、以前は塩川の流路の変化が激しく、そのため自然堤防状の埋没微高地が散在していることが分かっている。この埋没微高地には多くの遺跡が点在している。三宮地遺跡もこの埋没微高地に立地し、標高約381mを測る。遺跡は藤井平最西端のもっとも塩川に遠い地区にある。そのため遺跡東・北・南側も広大な藤井平の平地が広がっているが、遺跡西側は黒沢川が流れ、すぐに七里岩台地になる。台地との比高差は約50mあり、西を七里岩に隣接し三方がひらけた立地である。



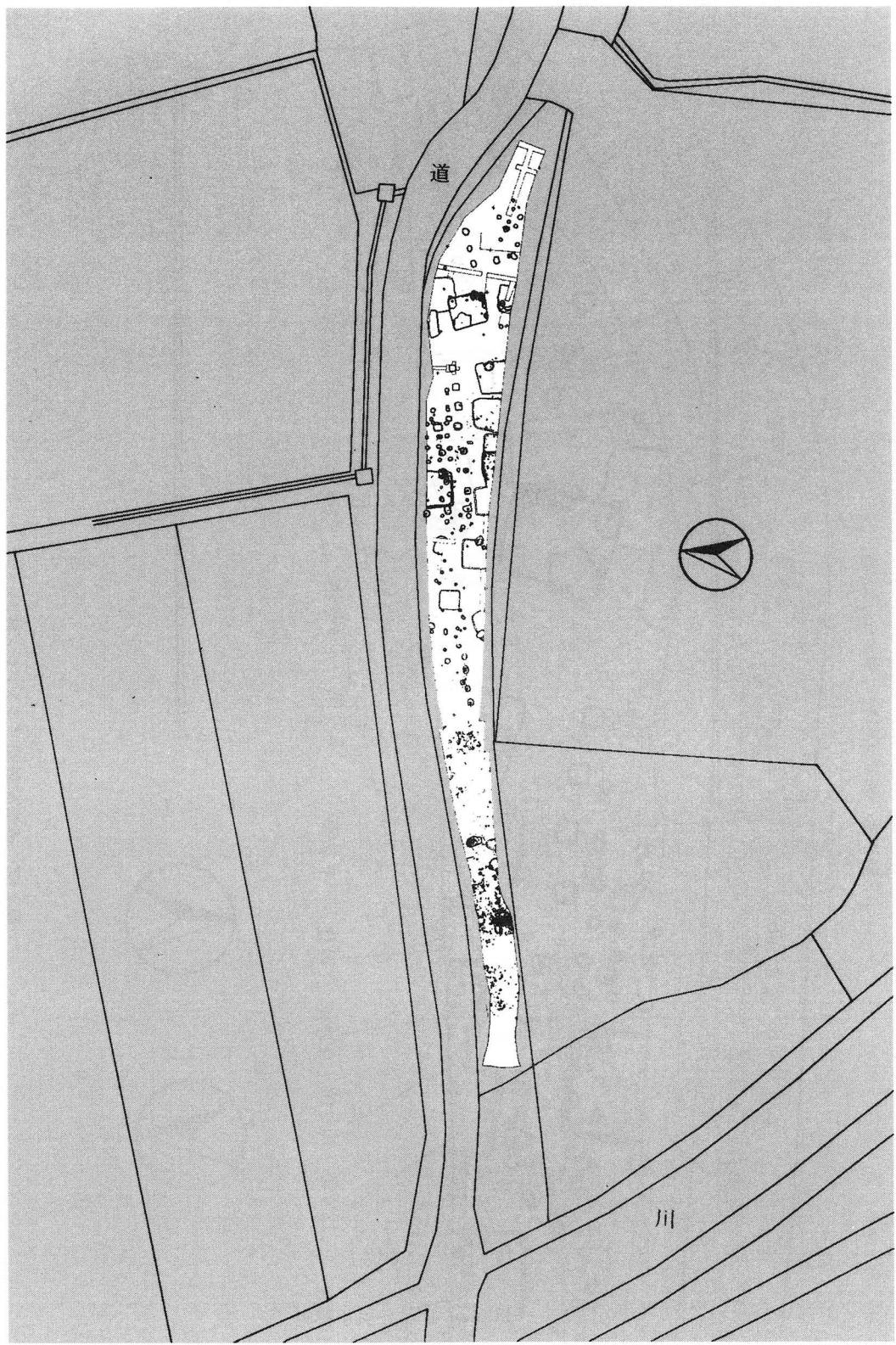
第1図 三宮地遺跡位置図 (1/5,000)

第2節 周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代区分	備考
①	三宮地	縄文・平安	平成8年度 菊崎市遺跡調査会調査
②	火雨塚古墳	古墳後期	
③	山影	縄文	平成5年度 菊崎市遺跡調査会調査
④	北下条	弥生後期・奈良・平安	昭和57年度 菊崎市教育委員会調査
⑤	下横屋	弥生・奈良・平安	平成元年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑥	枇杷塚	古墳	平成7年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑦	後田第2	縄文・弥生・古墳・平安	平成7年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑧	後田堂ノ前	弥生後期～平安	平成8年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑨	坂井堂ノ前	弥生・古墳・奈良	平成7年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑩	坂井	縄文・古墳・平安	志村淹蔵『坂井』 地方書院 昭和40年
⑪	坂井南	弥生・古墳・平安・中世	昭和57・58・60、平成6年度 菊崎市教育委員会調査 平成4・5・7年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑫	堂の前	弥生・平安	昭和61年度 菊崎市教育委員会調査
⑬	後田	縄文・古墳・奈良・平安	昭和63年度 菊崎市教育委員会調査
⑭	北後田	縄文・奈良・平安	平成元年度 菊崎市教育委員会調査
⑮	宮ノ前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～2年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑯	宮ノ前第2	奈良・平安・中世	平成2年度 菊崎市教育委員会調査
⑰	宮ノ前第3	奈良・平安	平成4年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑱	宮ノ前第4	奈良・平安	平成6年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑲	宮ノ前第5	縄文・奈良・平安	平成8年度 菊崎市遺跡調査会調査
⑳	駒井	奈良・平安	昭和60年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
㉑	立石	弥生・古墳・平安	平成5年度 菊崎市教育委員会調査
㉒	金山	中世～近世	昭和60年度 菊崎市教育委員会調査
㉓	前田	平安	昭和62年度 菊崎市教育委員会調査
㉔	中田小学校	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度 菊崎市教育委員会調査
㉕	新府城跡	中世	国指定史跡



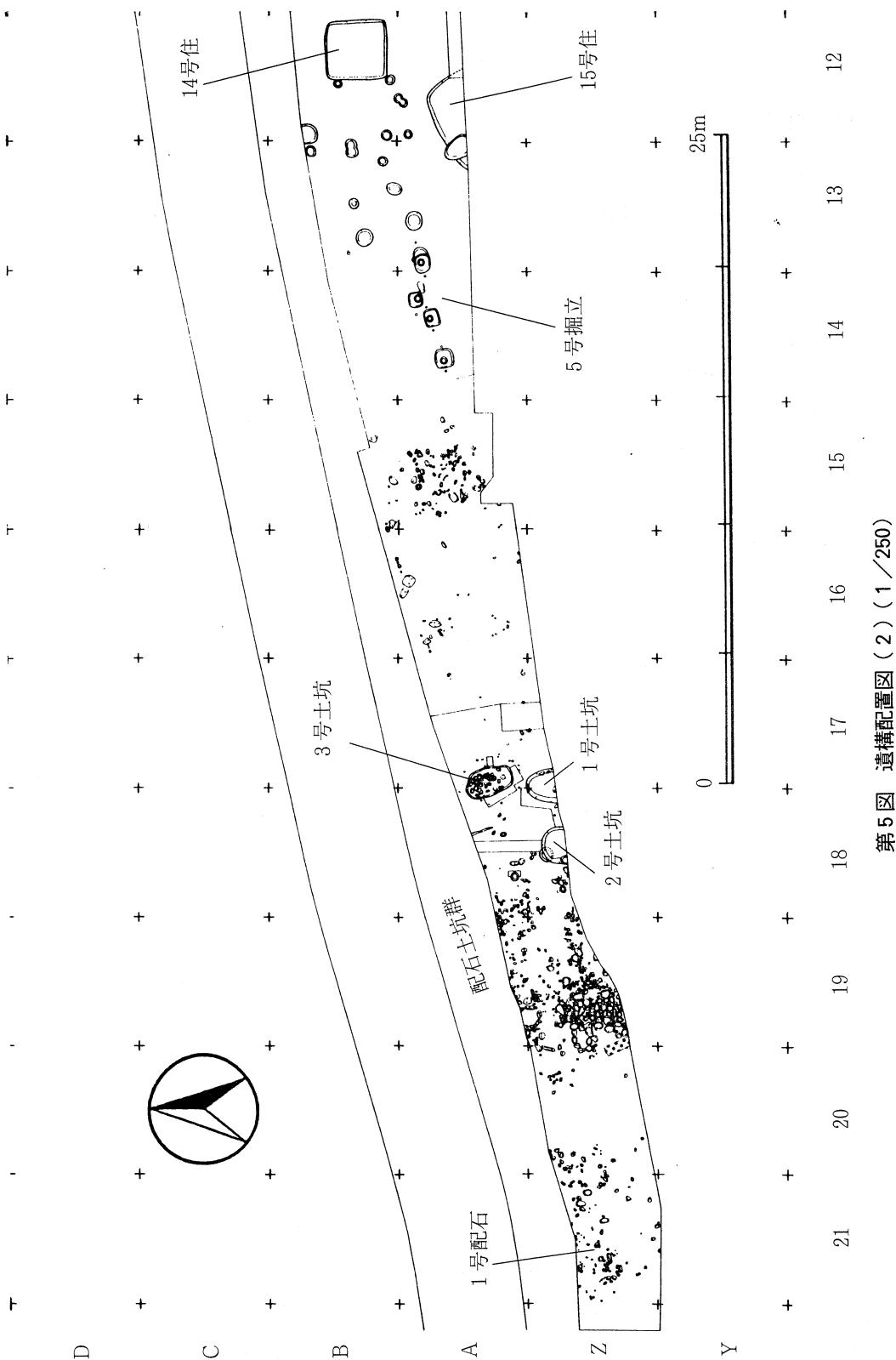
第2図 三宮地遺跡と周辺の遺跡及び地形概念図 (1/25,000)



第3図 遺跡全体図

第4図 遺構配置図(1) (1/250)





第5図 遺構配置図(2)(1/250)

第Ⅲ章 遺構

第1節 縄文時代の遺構

<1号住居址>（第6図）

A-3グリッドに位置し、南側は調査区外にのびる。竪穴の掘り込みは確認できていないが、直径推定4mの円形の平面形態をしていたものと考えられる。炉の周辺から9基のピットを確認しているが、規模が様々であり断定できないが、柱穴と考えられるものはP1から5が妥当であろう。炉は、住居のほぼ中央に構築され、1回の作り替えが行われている。旧段階では、50から60cmの礫を1辺約1mの方形に配し、深鉢形土器の胴部下半を欠いたものを埋設した石囲い埋甕炉が構築されている。新段階では、旧段階で埋設されていた炉石の一部が抜かれ、土器を壊して深鉢形土器の底部と口縁部を欠いたものを埋設した埋甕炉が構築されている。床面は極めて脆弱であり、住居内外の区別はつかない。炉内に新段階で埋設された土器が勝坂式前半（猪沢式）であることから、本住居はこの時期に所属するものと考えられる。

<1号土坑>（第7図）

Z-17からZ-18グリッドに位置し、南側は調査区外にのびる。長軸推定2m、短軸1m25cmの楕円形の平面形態で、深さ50cmで底面の平坦なものである。土坑北側に土器片が集中し、坑内中央付近に30から80cmの礫が集中し、また焼骨片が出土している。

<2号土坑>（第8図）

Z-18に位置し、南側は調査区外にのびる。確認段階では1基と考えられたが、完掘したところ2基の土坑（大型のものをa土坑、小型なものをb土坑とする）と1基のピットの重複したものであることが判明した。覆土の観察からb土坑→a土坑→ピットの順序で構築されていることを確認している。

a土坑は、長軸推定2m、短軸1m40cmの楕円形の平面形態で、深さ20cmで底面の平坦なものである。覆土上層（土坑確認面から5から10cm程度）から耳栓や磨製石斧が出土している。

b土坑は、長軸推定1m20cm、短軸1mのほぼ円形の平面形態で、深さ25cmでa土坑よりもやや深く底面が丸底を呈するものである。

ピットは、長軸推定80cm、短軸60cmのほぼ円形の平面形態で、深さ43cmで丸底を呈するものである。

<3号土坑>（第9・10・11図）

A-17からA-18グリッドに位置する。確認時には、焼土粒子や炭化物等を多く含む暗黒褐色土が直径約1mの範囲で確認できた（第9図）。覆土を観察しながら掘り進んだところ、結果的に長軸1m95cm、短軸1m15cmの楕円形の平面形態で、深さ30cmで底面のほぼ平坦な土坑であることを確認した。坑内からは、北側から坑内中央にかけて20cm前後の礫がまとめて出土し、そ

これらの礫と土坑底面の間には焼けて炭化した状態のトチの実がぎっしりとつまって出土している。坑内南側の底面には40cm前後の範囲で火床面を確認している（第10図）。土坑底面には、北壁から中央にかけて3つのピットが並んだ状態で確認している（第10図）。ピットの深さは北側から24cm、10cm、5cmである。なお、出土した礫はほとんどのものが熱を受けている。

＜1号配石＞（第12図）

B-21グリッドの南東に、長軸1m85cm、短軸1m20cmの楕円形の範囲に10から40cmの礫が配されたものである。礫の集中部からやや大型の土器片や土製耳飾り等の遺物が出土している。

＜配石土坑群＞（第13・14・15・16図）

Z-19グリッドを中心として配石が認められた。調査の結果、配石の下部に土坑の存在するものを7基および配石を伴わない3基の土坑を確認した。これらを配石土坑として報告する。

（1号配石土坑）（第17図）

25から40cm程度の礫が楕円形に並んだ状態の配石土坑である。土坑は、長軸1m5cm、短軸80cmの楕円形の平面形態で、深さ25cmで底面の平坦なものである。土坑底面に接する状態で、大型の甕を半割したものが口縁をややすらして埋設されていた。覆土1、2層から埋設されていた土器の破片等が出土している。なお、上面の礫は土坑内が完全に埋没した後に配されている。

（2号配石土坑）

10から20cm程度の礫が円形に配された状態の配石土坑である。土坑は、直径50cmの円形の平面形態で、深さ34cmで丸底を呈するものである。覆土から少量の土器片が出土している。なお、上面の礫は土坑内が完全に埋没した後に配されている。

（3号配石土坑）

10から20cm程度の礫が円形に配された状態の配石土坑である。土坑は、直径68cmの円形の平面形態で、深さ42cmで丸底を呈するものである。なお、上面の礫は土坑内が完全に埋没した後に配されている。

（4号配石土坑）

5号配石土坑と重複関係にあり、本土坑の方が後から構築されている。また、本土坑南西側は6号配石土坑と重複関係にあるが前後関係を押さえることはできなかった。南側は調査区外にある。周縁に40から60cm程度の礫がめぐり、その内側に20から50cm程度の礫がほぼ平坦に配されていた。土坑は、長軸現存で1m40cm、短軸1mの隅丸長方形の平面形態で、深さ30cmで底面の平坦なものである。土坑内西側の覆土から10から30cm程度の礫がややまとまって確認されている。また、少量の土器片が出土している。

（5号配石土坑）

4号配石土坑と重複関係にあり、本土坑の方が先に構築されている。土坑上面には、周縁に40から50cm程度の礫がめぐり、その内側に20から40cm程度の礫がほぼ平坦に配されていた。土坑は、長軸1m45cm、短軸90cmの長楕円形の平面形態で、深さ30cmで底面の平坦なものである。覆土か

ら少量の土器片が出土している。

(6 号配石土坑)

4号配石土坑および7号配石土坑と重複関係にあるが、その前後関係を押さえることはできなかった。直径50cmの円形の平面形態で、深さ50cmで丸底を呈するものである。覆土から少量の土器片が出土している。上面に配石が伴っていないことと形態が他の土坑と比較して小規模であることからピットと捉えるべきかもしれない。

(7 号配石土坑)

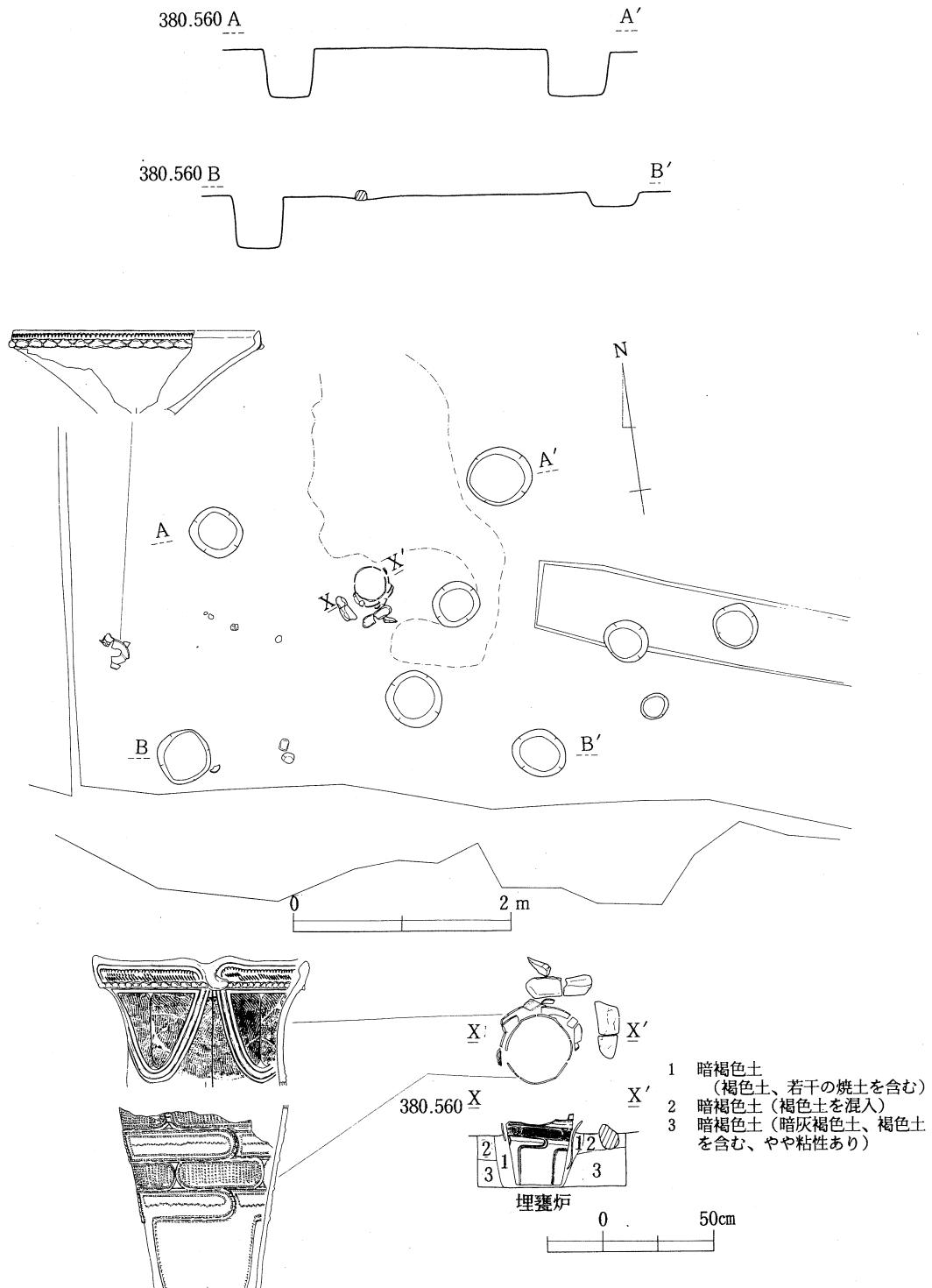
6号配石土坑と重複関係にあるが、その前後関係を押さえることはできなかった。直径50cmの円形の平面形態で、深さ50cmで丸底を呈するものである。坑内中位から直径23cm程度の平坦な円形礫が出土している。上面に配石が伴っていないことと形態が他の土坑と比較して小規模であることからピットと捉えるべきかもしれない。

(8 号配石土坑)

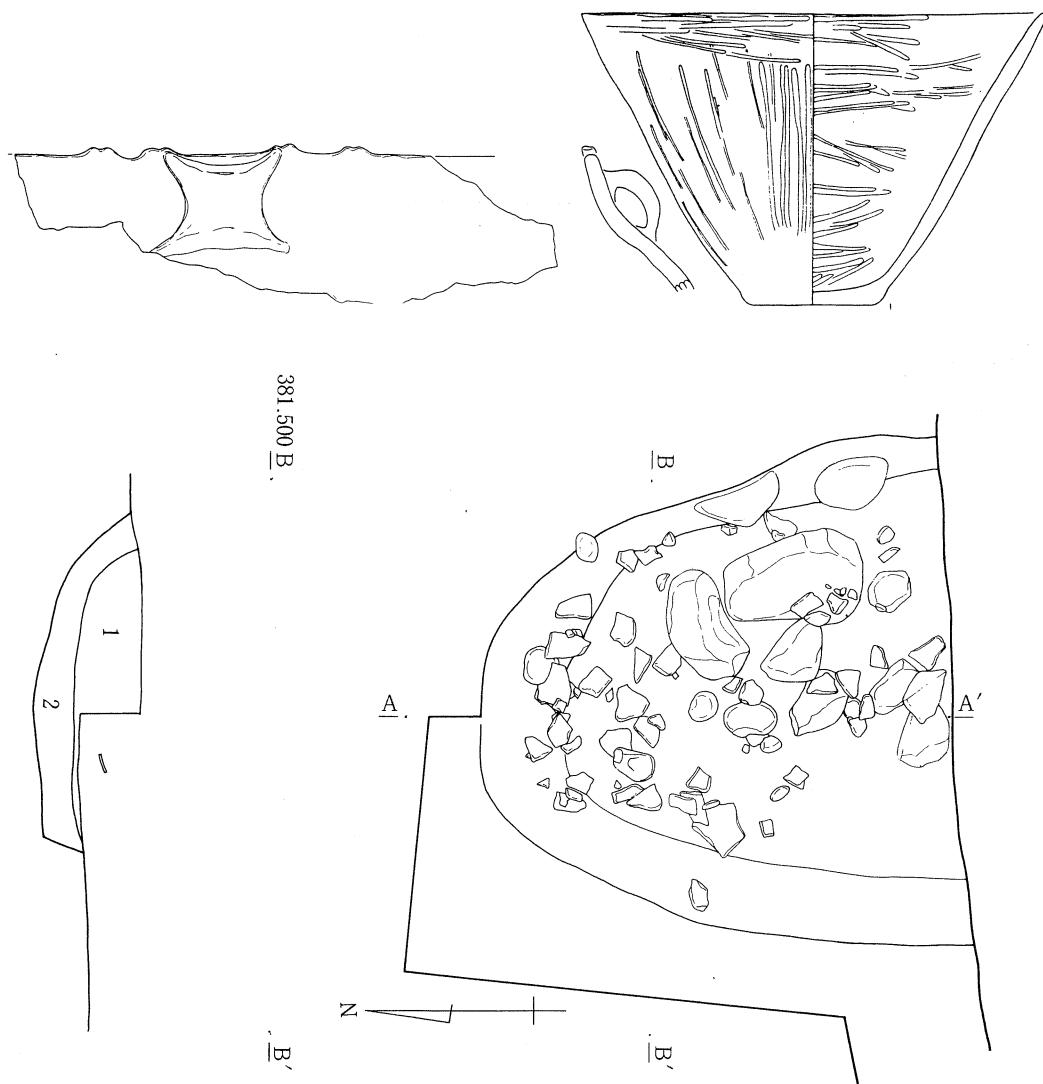
直径60cmの円形の平面形態で、深さ56cmで丸底を呈するものである。南側は調査区外にある。上面には配石が伴っていない。

(9 号配石土坑) (第17図)

30から45cm程度の礫が円形に配された状態の配石土坑である。土坑は直径90cmの円形の平面形態で、深さ20cmで底面が平坦なものである。覆土に他の配石土坑の覆土よりも炭化物粒子や焼土粒子がやや多く含まれていることと、土坑の周りに配された礫に、赤色化、黒色化、はじけやヒビなど被熱の結果と考えられる状態のものが多いことなどから炉の可能性もある。覆土から少量の土器片が出土している。また、本土坑の北東に土偶の胴部と小型の磨製石斧が近接して出土している。



第6図 1号住居址平面・断面図 (1/60・埋甕炉1/30)



381.500 A.

1層 黒色土 土器片等を多量に、 $\phi 1\text{ mm}$ 骨粉をやや多く含む

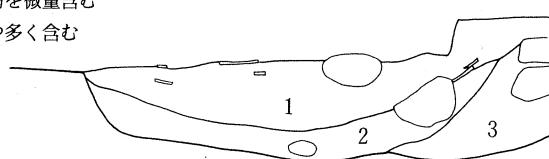
2層 黒褐色土 砂粒をやや多く、 $\phi 1\text{ mm}$ 骨粉を微量含む

3層 黒褐色土 2に似るが、 $\phi 1\text{ cm}$ 礫をやや多く含む

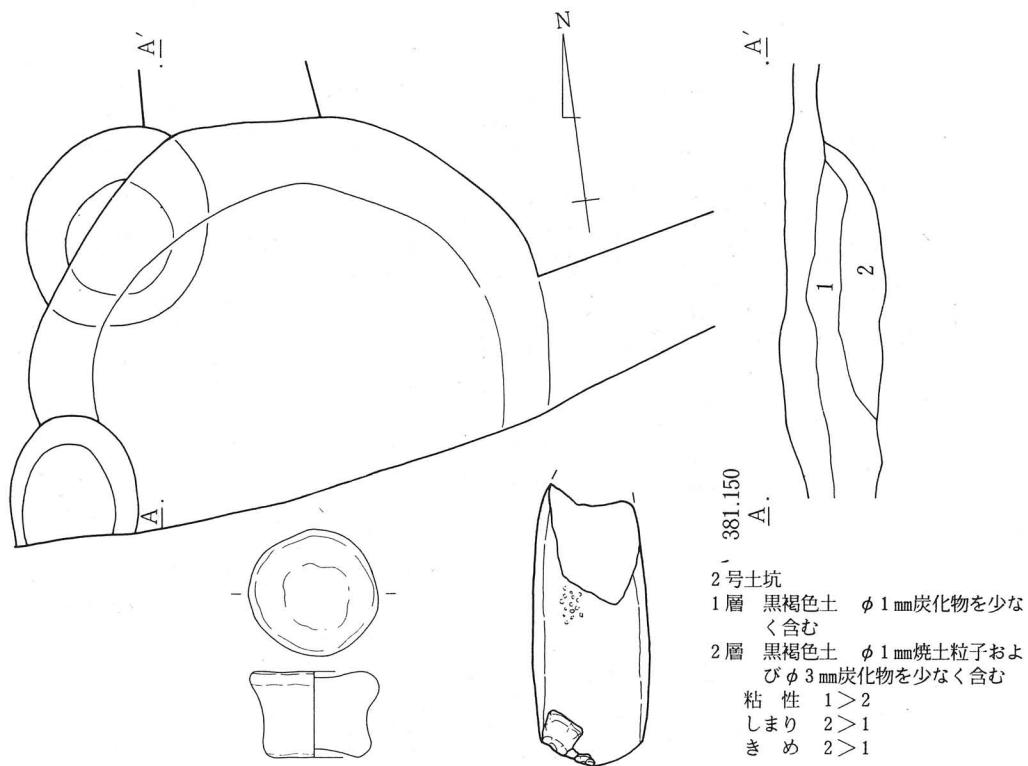
粘性 $2.3 > 1$

しまり $2 > 3 > 1$

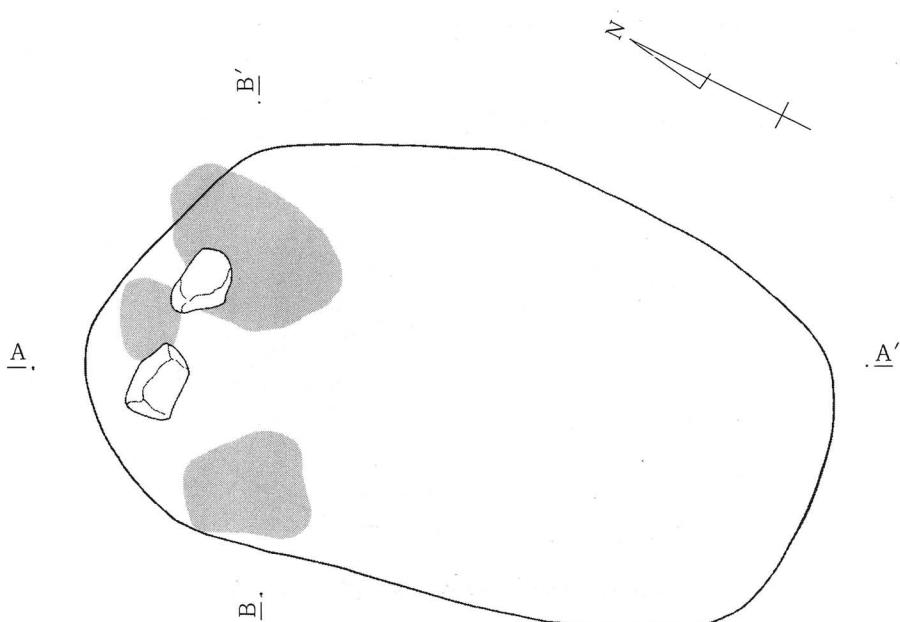
きめ $1 > 2 > 3$



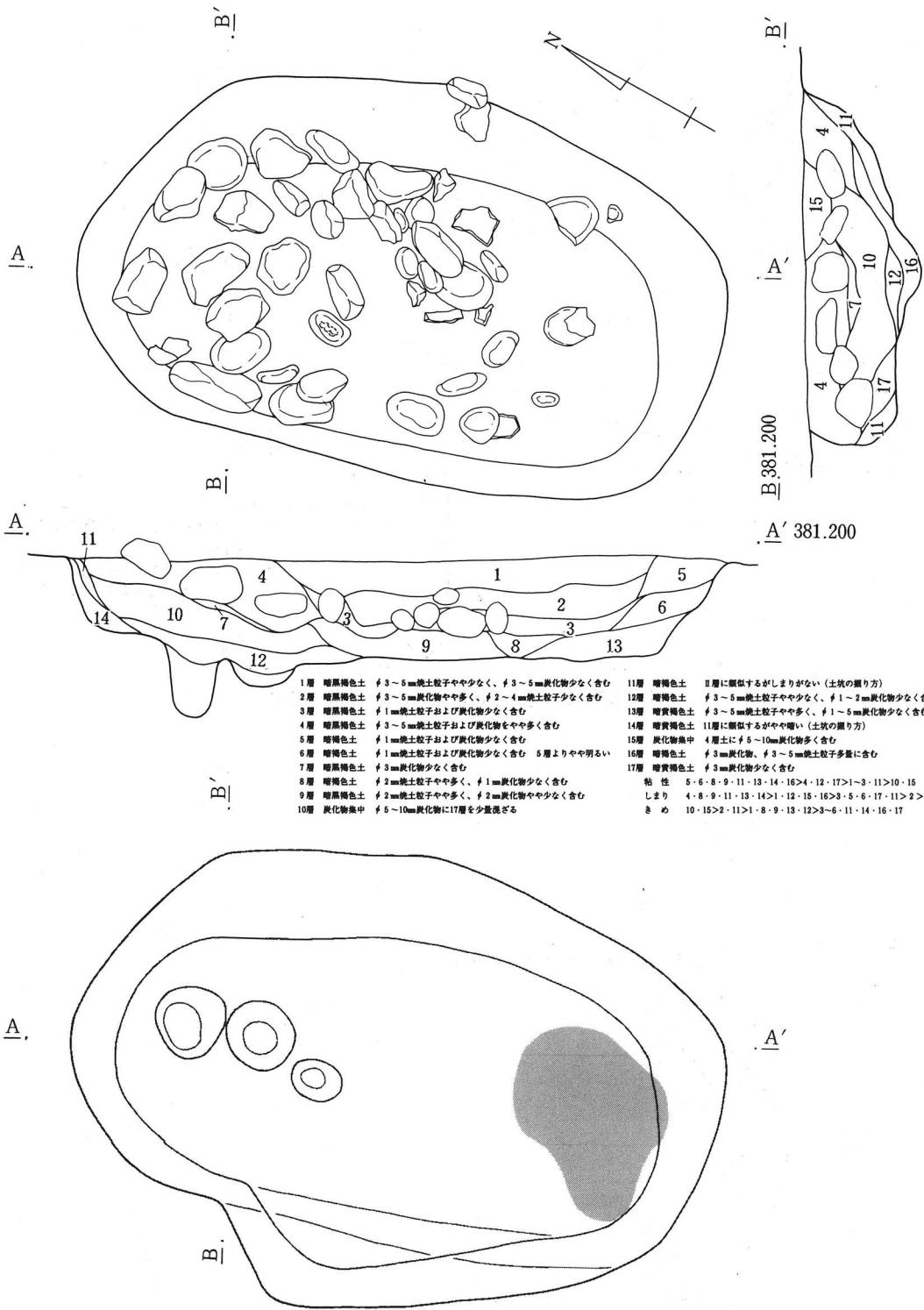
第7図 1号土坑平面・断面図 (1/20)



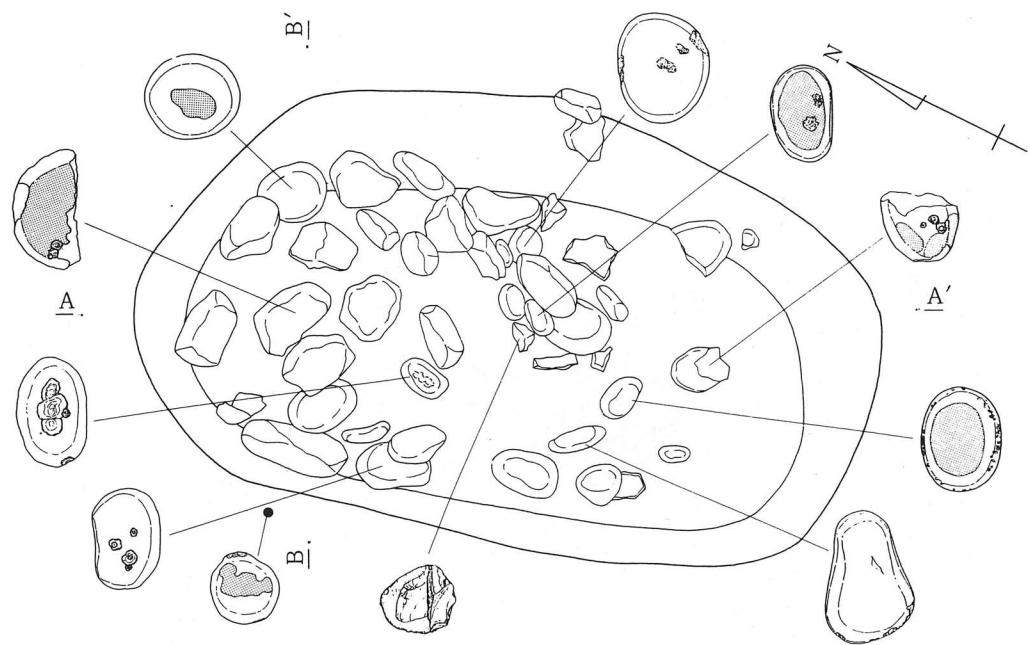
第8図 2号土坑平面・断面図 (1/20)



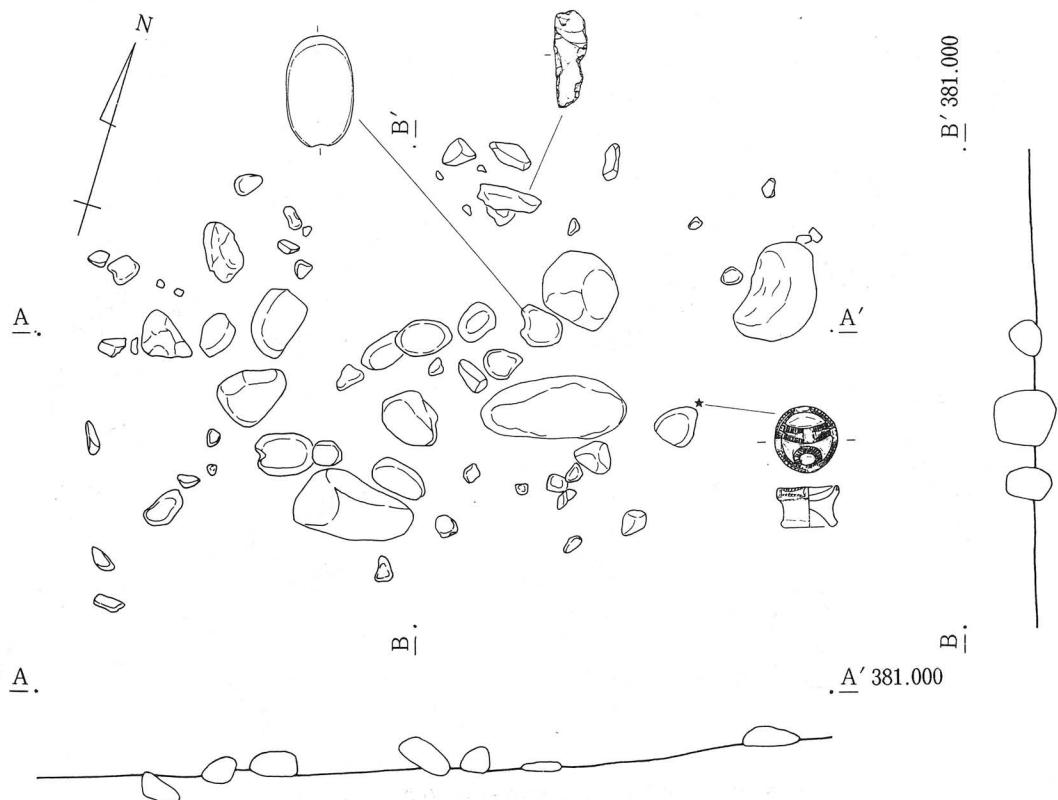
第9図 3号土坑確認状況図 (1/20)



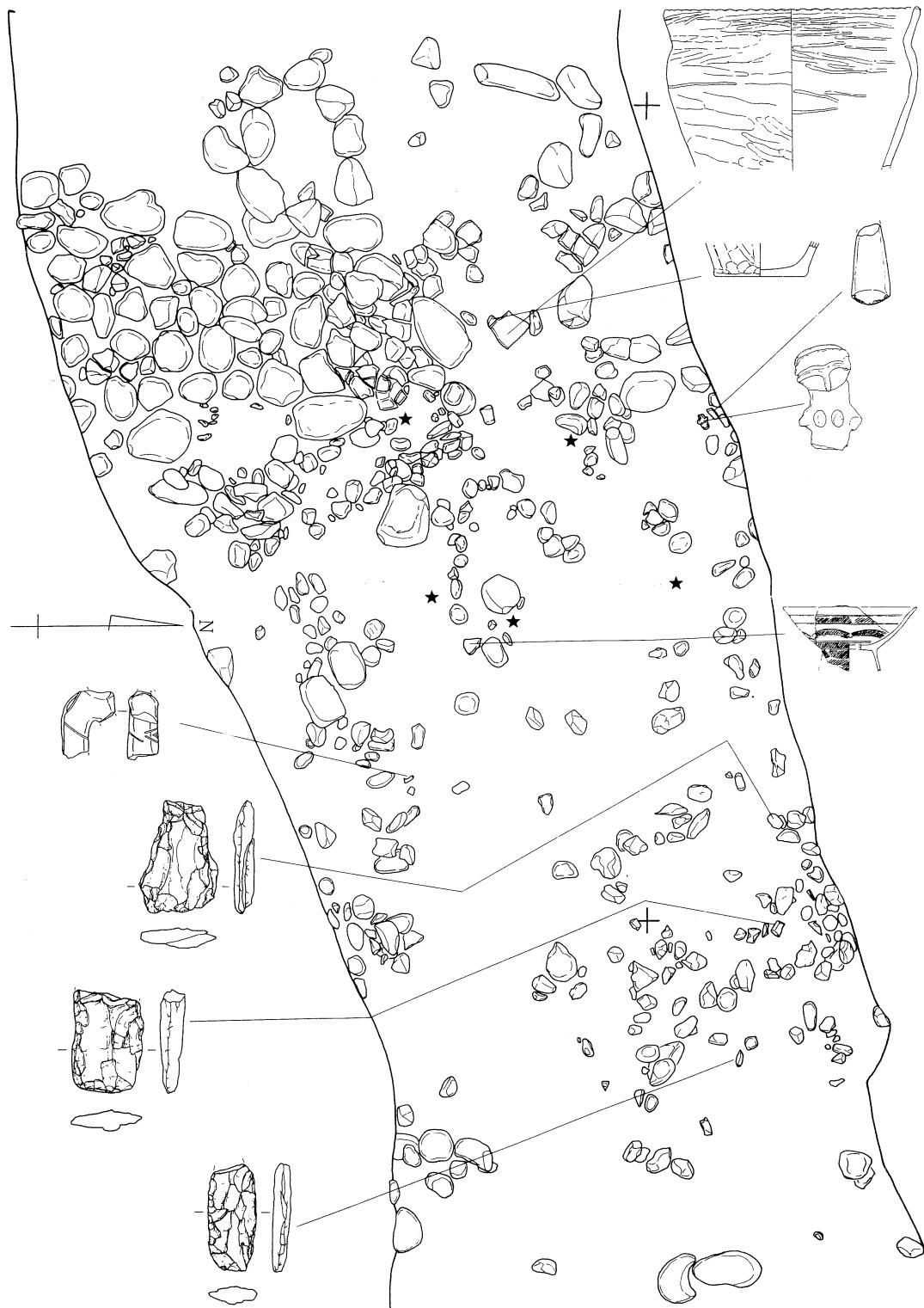
第10図 3号土坑平面・断面図 (1/20)



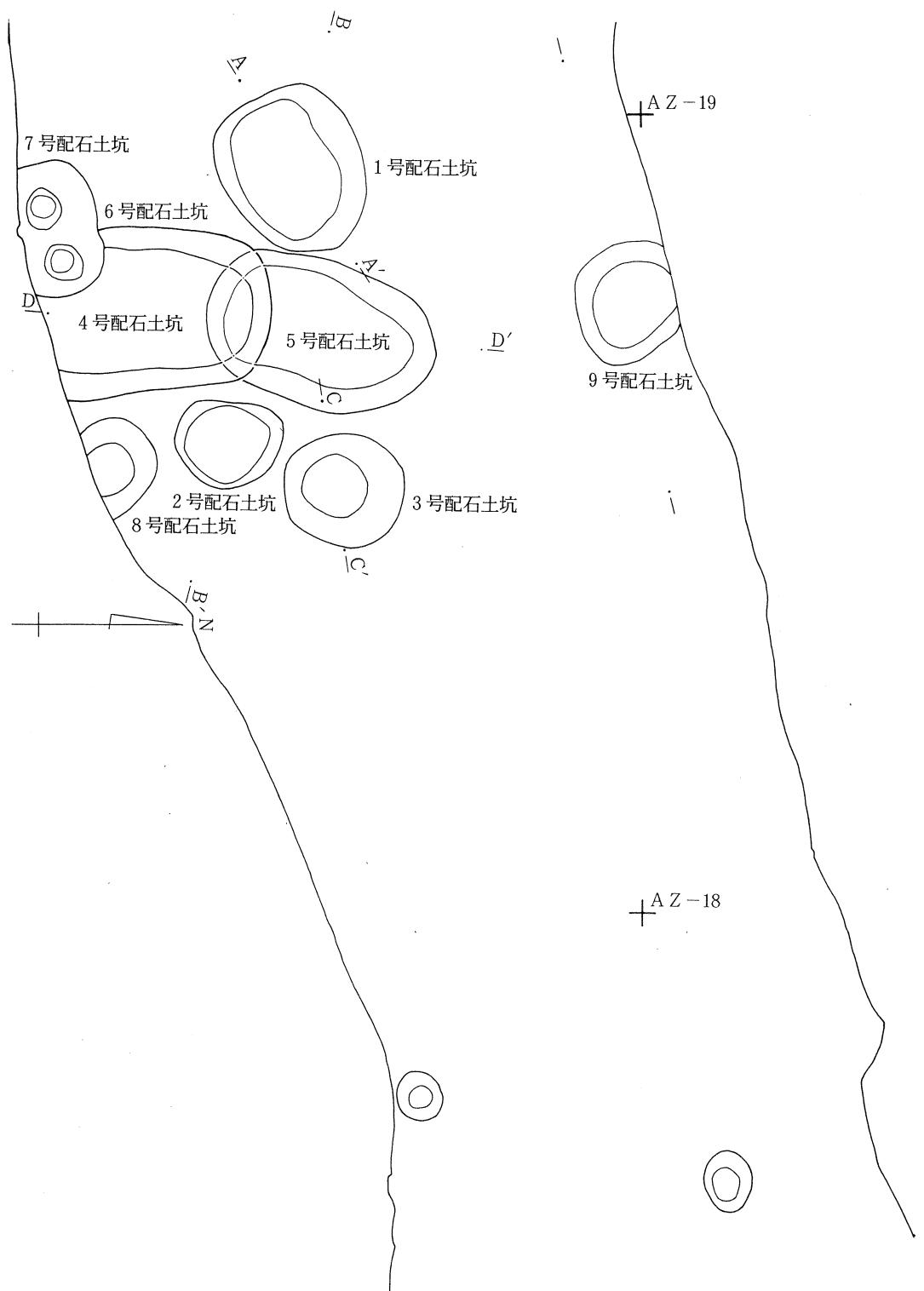
第11図 3号土坑遺物出土状況図 (1/20)



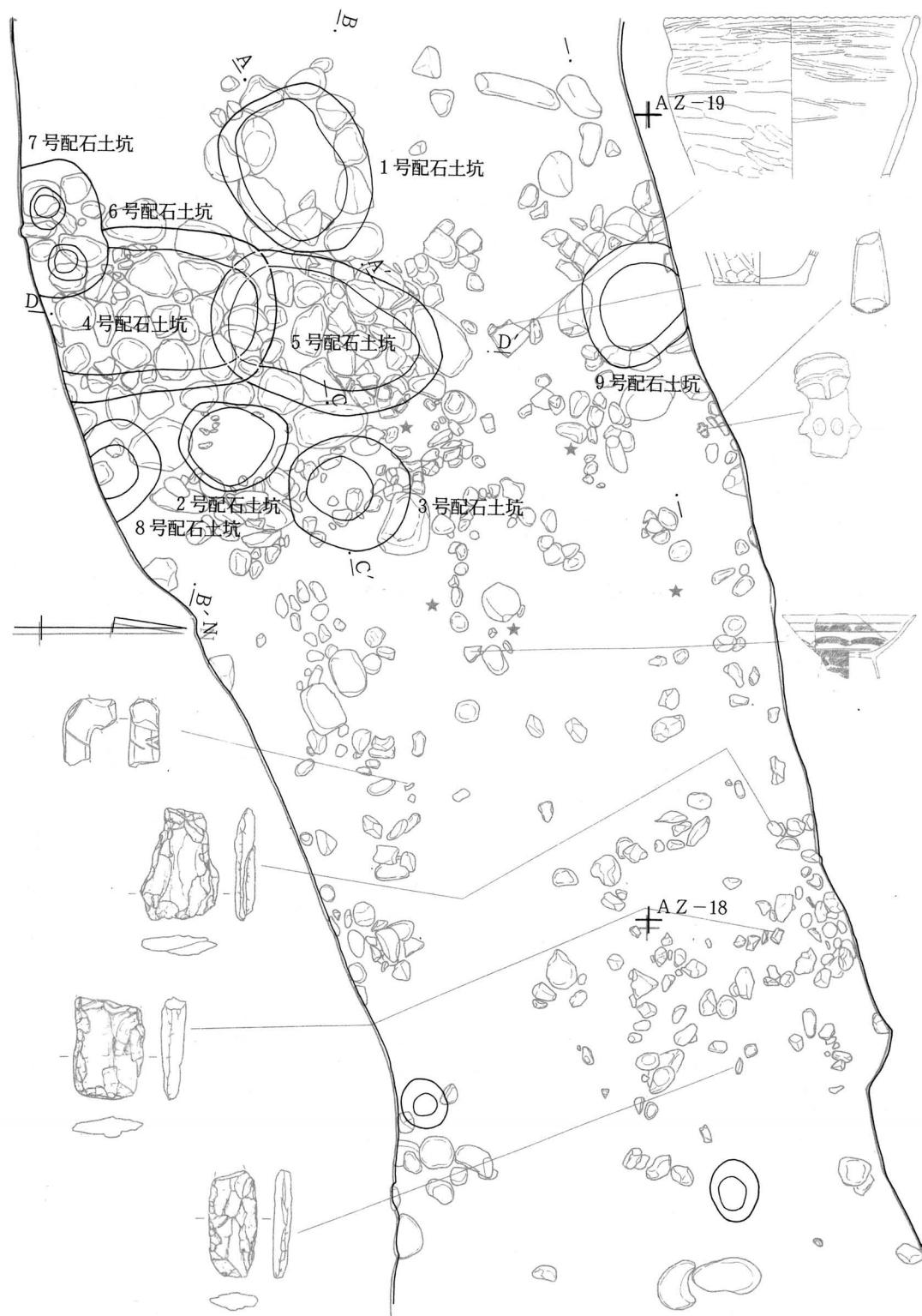
第12図 1号配石平面・断面図 (1/20)



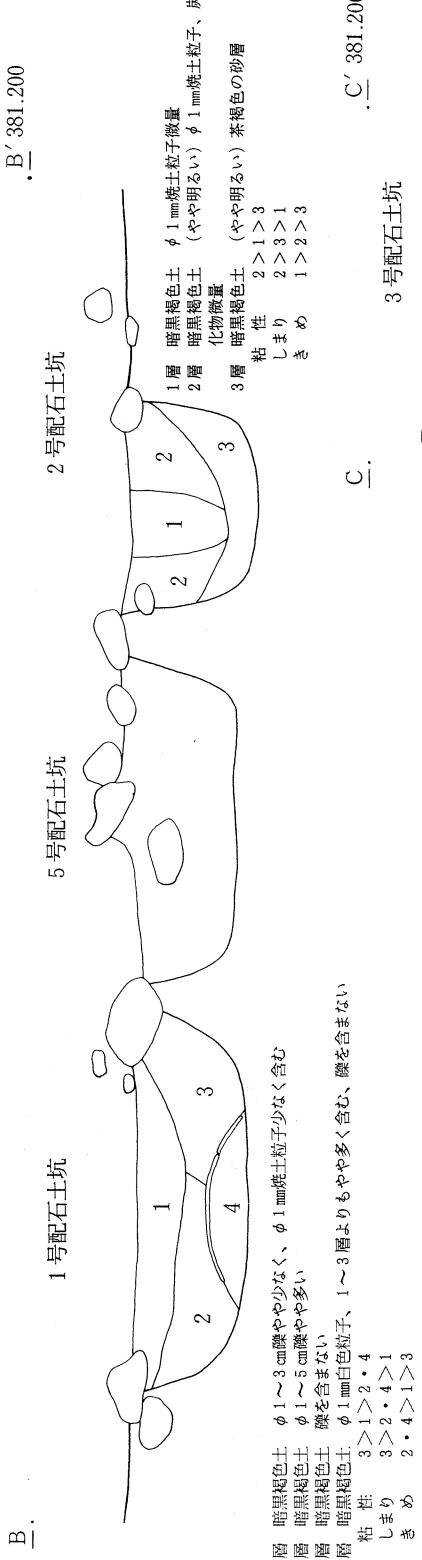
第13図 配石土坑群 磯出土状況図（1／40）



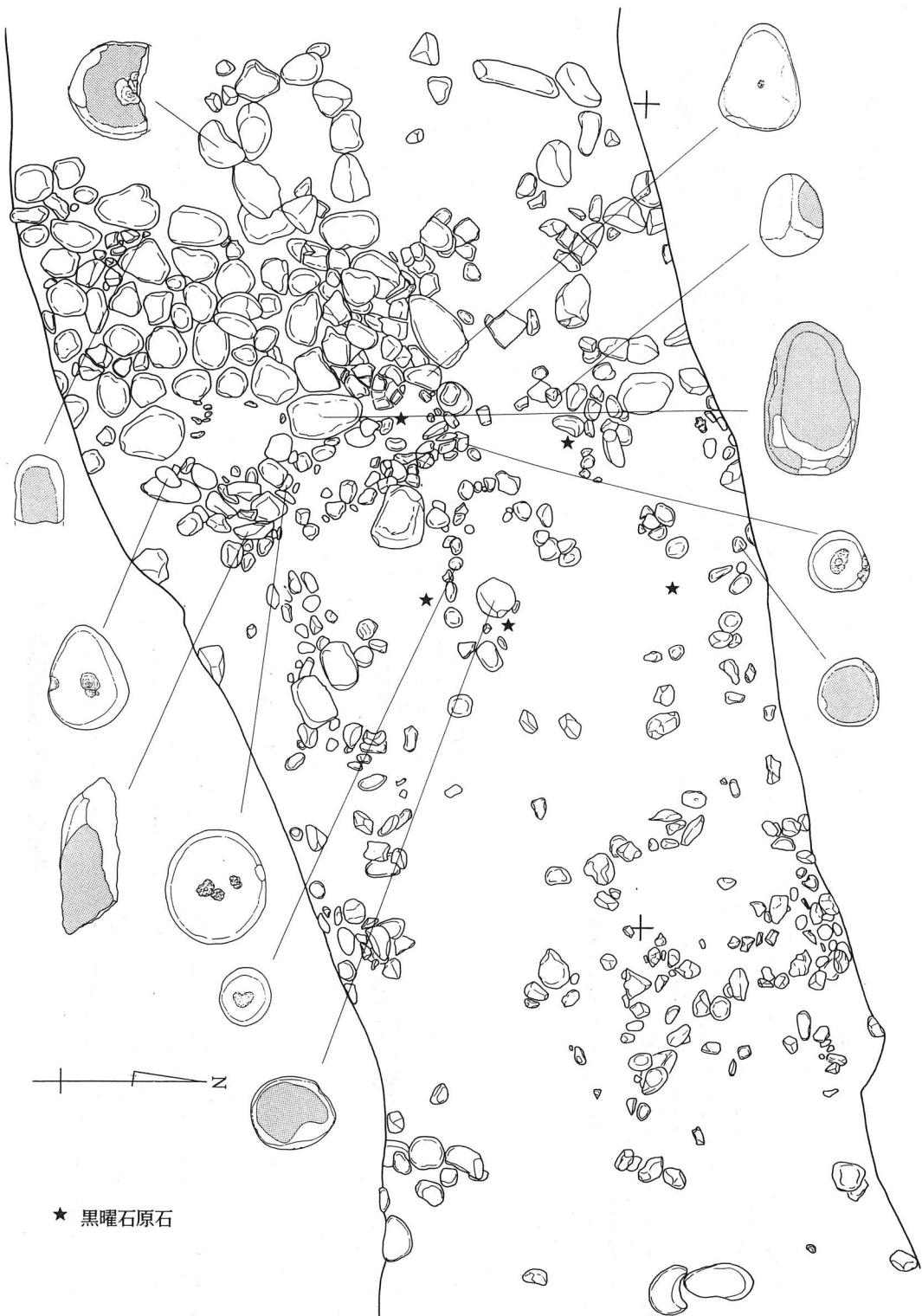
第14図 配石土坑群 配石下部状況図（1／40）



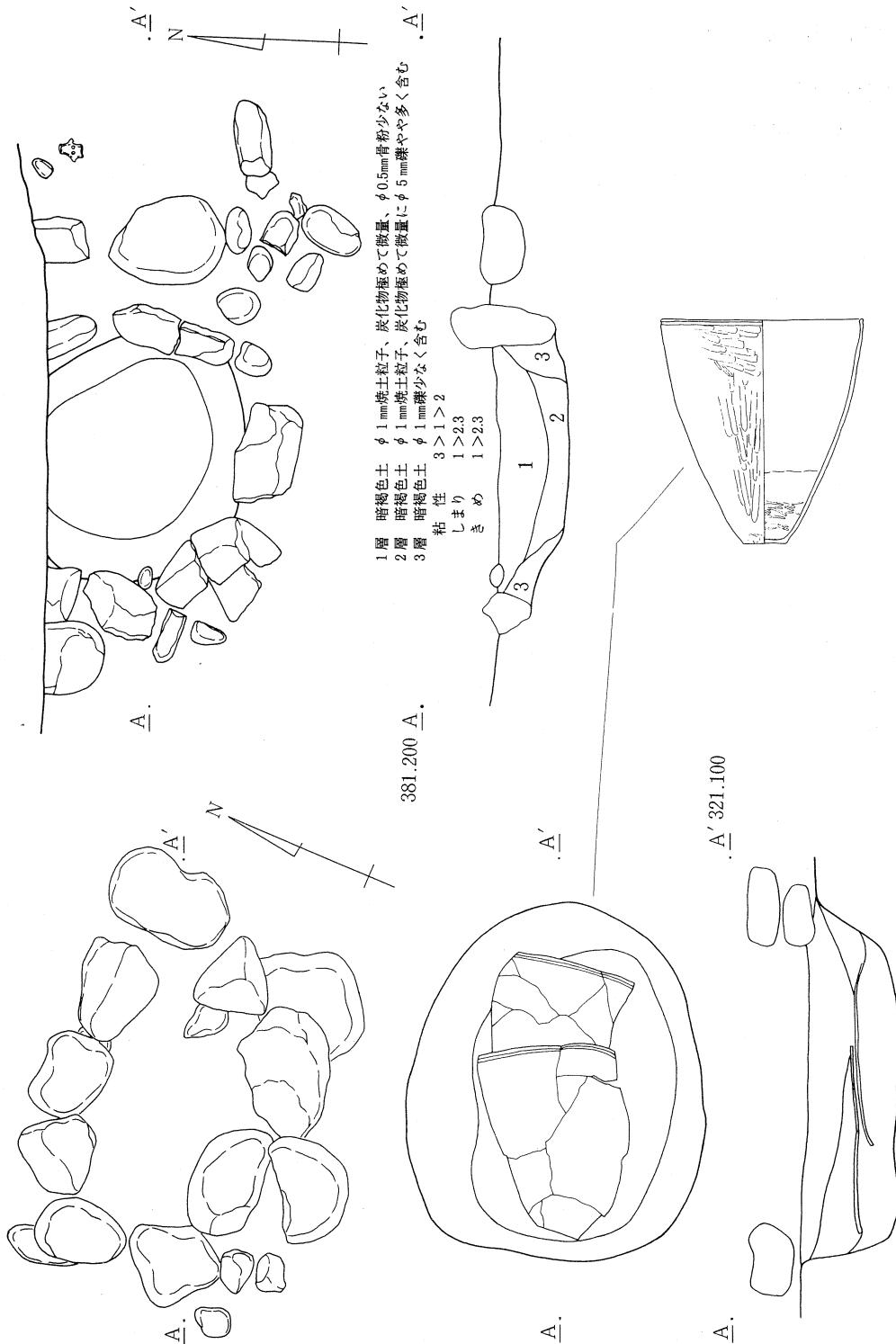
第14図 配石土坑群 配石下部状況図 (1/40)
第13図 配石土坑群 配石出土状況図 (1/40)



第15図 配石土坑群断面図(1/20)



第16図 配石土坑群遺物出土状況（1／40）



第17図 9号・1号配石土坑平面・断面図 (1/20)

第2節 平安時代の遺構

東西方向に細長い調査区域のなかで、平安時代の遺構は主に東側半分の微高地上に発見されており、竪穴住居址15軒、掘立柱建物址5棟と、このほかに、建物址のように規則的には並ばず、また土坑としても特定できない大小の穴がいくつか検出されている。以下、主要な遺構についてみていく。

<2号住居址>（第18図）

調査区域東側A 4～A 5グリッドに位置する。東西約3m 10cm程の規模があり、平面形は隅円正方形を呈すると思われるが、南側半分は調査区域外で完掘できなかった。確認面からの深さは30cm前後あり、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴等は確認されなかった。カマドは北側壁の西寄りに構築され、1m 10cm×1m 80cm程の規模がある。焼土の形成された燃床部は見られず、破壊されていた。カマド南側西壁際には、40cm×80cm床面からの深さ約10cmの不整長方形の凹みがみられた。

<3号住居址>（第19図）

調査区域東側B 4～B 5グリッドから北側に位置する。南西隅は4号住居址、北西側は8号住居址と重複しており、壁は不鮮明。北側は調査区域外で完掘できなかった。東西約4m程の規模があり、平面形は方形を呈していたと思われる。確認面からの深さは5cm～10cm前後と浅く、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。

<4号住居址>（第20図）

調査区域東側A 5グリッドに位置する。北東角は3号住居址を切っている。東西3m 80cm前後、南北4m 30cm前後の規模があり、平面形は隅円長方形を呈する。確認面からの深さは15cm前後あり、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。壙などの遺物は床面直上乃至若干浮上して出土。周溝は壁際にめぐり、西側中央南寄りは途切れしており入り口部分かもしれない。柱穴は確認されなかった。カマドは東側壁の南半分に構築され、80cm×1m 30cm程の規模がある。石を袖に用いていたと思われるが、破壊されていた。カマド南側には、径75cm前後深さ20cm程の不整の凹み、と直径35cm前後深さ40cm程の穴があり、南西隅には径50cm前後深さ20cm程の穴がみられた。なお、土層断面は周溝を全部掘る前の段階での観察であるので、図には周溝が無い部分がある。周溝を確認した北側では幅7cmの土の立ち上がりが確認されており、何らかの壁施設の痕跡と思われる。

<5号住居址>（第21図）

調査区域東側A 5～A 6グリッドに位置する。南側半分は調査区域外で完掘できなかった。北西側過半には大きな攪乱が入りこんでおり（一点鎖線より北西側）、この部分に関しては推測で壁を掘り出した。住居址の規模は掘り上げた状態で東西約3m 80cm程になったが、実際には東西

約3m50cm程の大きさと思われる。平面形は隅円正方形を呈するのであろう。確認面からの深さは約15cmあり、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴等は確認されなかった。カマドは東側壁に構築され、1m10cm×1m20cm程の規模がある。長さ18cm・厚さ3cmの焼土の形成された燃床部が見られた。

<6号住居址>（第22図）

調査区域東側A6～A7グリッドに位置する。南側部分は調査区域外で完掘できなかった。北東側過半には大きな攪乱が入り込んでおり（一点鎖線より北東側）、この部分に関しては推測で壁を掘り出した。東西3m80cm前後で、平面形は不整の方形を呈するものと思われる。確認面からの深さは東側が浅く西側が高く10cm～30cm前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。

<7号住居址>（第23図）

調査区域東側A8グリッドに位置する。西側で9号住居址に切られており、南側の大部分は調査区域外で完掘できなかった。確認面からの深さは20cm～25cm前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。元は方形の竪穴住居址と思われるが、遺存部分・発掘部分が狭いため住居の形態等を窺い知るには情報が少ない。

<8号住居址>（第24図）

調査区域東側C5グリッドに位置する。南東隅で3号住居址と重複している。北側の大部分は調査区域外で完掘できなかった。確認面からの深さは10cm～20cm前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。平面形は方形の竪穴住居址と思われるが、遺存部分・発掘部分が狭いため住居の形態等を窺い知るには情報が少ない。

<9号住居址>（第23図）

調査区域東側A8～A9グリッドにかけて位置する。東側で7号住居址を切っており、西側では断面観察により10号住居址に切られている。南側は調査区域外で完掘できなかった。確認面からの深さは約30cmで、壁は外傾しながら立ち上がる。床面の土部分はほぼ平坦であるが、石がごつごつ出ていた。壺などの遺物は床面よりも若干浮上して出土。東側壁際に石鎧が出土している。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。平面形は方形の竪穴住居址と思われるが、遺存部分・発掘部分が狭いため住居の形態等を窺い知るには情報が少ない。

<10号住居址>（第25図）

調査区域東側A9グリッドに位置する。土層断面観察により住居址と確認。東側で9号住居址、西側で12号住居址を切っている。南側は調査区域外で未調査であり、詳細は不明。東西2m40cmの規模があり、壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは35cm前後となっている。床面はほぼ平坦。発掘部分には周溝・柱穴・カマド等の施設は確認されなかった。

<11号住居址>（第26図）

調査区域東側B 9 グリッドに位置する。北側は調査区域外で完掘できなかった。西側壁は4号掘立柱建物柱穴を一部切っている。東西約4m40cm、北側が分からぬが平面形は隅円方形を呈すると思われる。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは15cm～25cm程である。床面は中央から東にかけてやや高くなっている。柱穴はなく、西側に周溝がめぐる。カマドは東壁南寄りに、1m10cm×1m20cm程の大きさで、袖に石を用いて構築されたと思われるが、破壊されていた。

<12号住居址>（第25図）

調査区域東側A 9～A 10グリッドにかけて位置する。東側壁の一部が10号住居址に切られ、南側は調査区域外で未調査。東西約3m40cmの規模で、南側が分からぬが平面形はほぼ方形を呈すると思われる。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは40cm程である。床面はほぼ平坦。発掘部分にはカマド・柱穴・周溝等の施設は確認されなかった。北側壁際に確認面よりも若干下がって土偶の頭部が出土している。

<13号住居址>（第27図）

調査区域東側A 10～A 11グリッドにかけて位置する。南側は調査区域外で未調査。東西約3m50cmの規模で、南側が不明であるが平面形はほぼ方形を呈すると思われる。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは30cm前後である。床面は平坦。発掘部分には柱穴・周溝はない。カマドは東壁南寄りに、1m×1m35cm程の大きさで、袖に石を用いて構築される。

<14号住居址>（第28図）

調査区域中央B 12グリッドに位置する。東西約2m30cm、南北約2m40cmの規模で、平面形は方形を呈する小規模な竪穴となっている。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは15cm～20cm程である。床面は中央部分がやや高い。カマド・柱穴・周溝等の施設はない。床面北東側に焼土がみられた。

<15号住居址>（第29図）

調査区域中央A 12～A 13グリッドに位置する。南側は調査区域外で未調査。東西3m30cm程の規模がある。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは40cm前後。床面は平坦。発掘部分には柱穴・周溝はない。カマドは北壁西寄りに、80cm×1m10cm程の大きさで構築されていたと思われるが、破壊が著しくカマドと確認せず遺構全体とともに掘り下げてしまい、最終的に焼土の散乱状況からカマドとした。

<1号掘立柱建物址>（第30図）

調査区域東端A 3・A 4・B 3・B 4 グリッドに位置する。東側は削平により柱穴は発見されなかったが、南北方向に長軸をもつ2間×3間の側柱建物と推定しておきたい。柱の直径は20cm～23cm前後（図中破線円）、柱間は北側の東西方向で1m58cmを測る。柱穴の掘り方は隅円方形～楕円形を呈する。確認面からの深さは20cm～40cm前後。

<2号掘立柱建物址>（第31図）

調査区域北東側B 6・B 7・B 8グリッドから北側に位置する。北側は調査区域外で未調査ではあるが、3間×3間の方形あるいは東西方向に長い2間×3間の側柱建物と思われる。柱の直径は30cm前後で、柱間は南側西2m5cm南側中央1m90cm南側東2m8cm、西側は1m95cmを測る。柱穴の掘り方は方形を呈する。確認面からの深さは20cm～40cm前後。

<3号掘立柱建物址>（第32図）

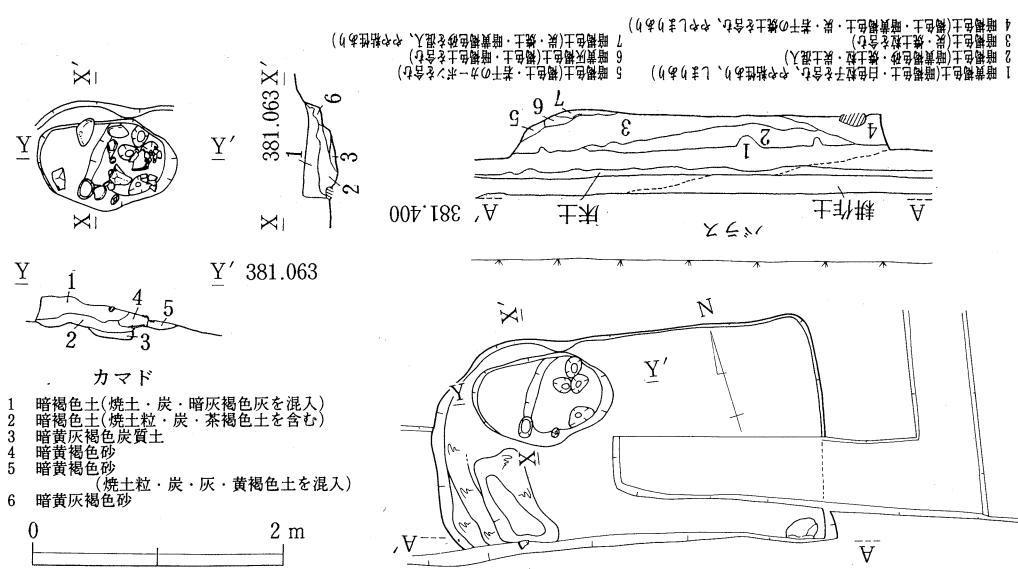
調査区域北東側B 8グリッドから北側に位置する。東西方向に長い2間×3間の総柱建物。柱穴の掘り方は不整な円形を呈し、直径30cm～50cm前後で確認面からの深さは10cm～25cm前後。

<4号掘立柱建物址>（第33図）

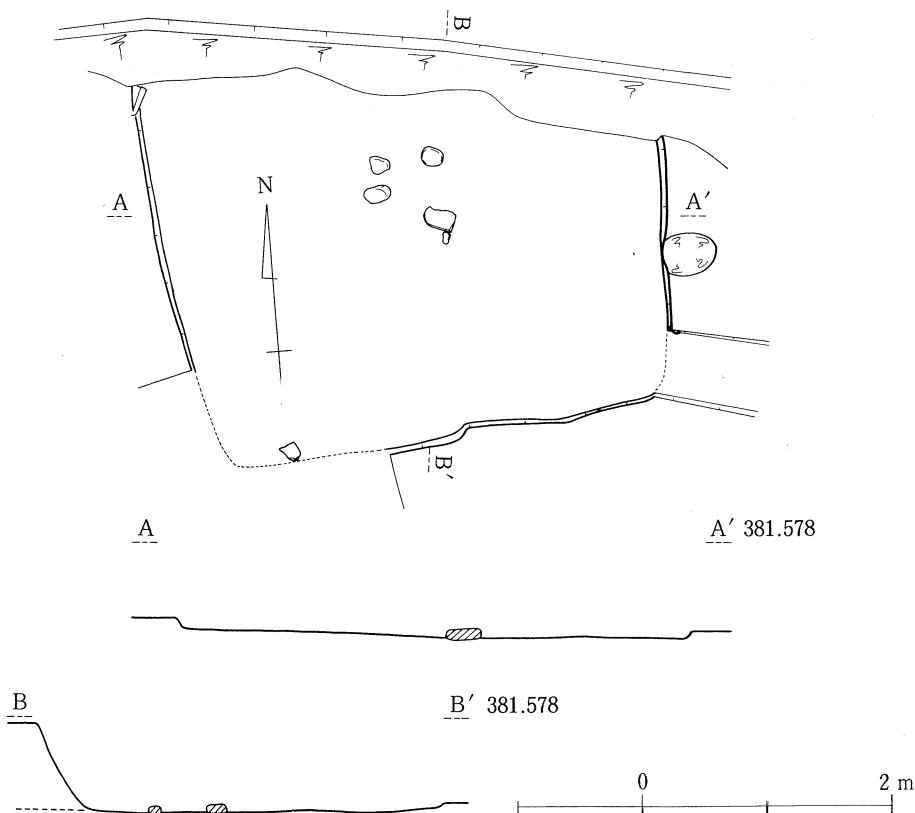
調査区域北東側B 8・B 9・B 10グリッドから北側に位置する。北側は調査区域外で未調査ではあるが、3間×3間の方形あるいは東西方向に長い2間×3間の側柱建物と思われる。中に11号住居址があり、西側柱穴が一部切られている。柱の直径はほぼ26cmで、柱間は南側西1m90cm南側中央2m17cm南側東2m、東側は2m33cmを測る。柱穴の掘り方は不整な方形を呈する。確認面からの深さは30cm前後。

<5号掘立柱建物址>（第34図）

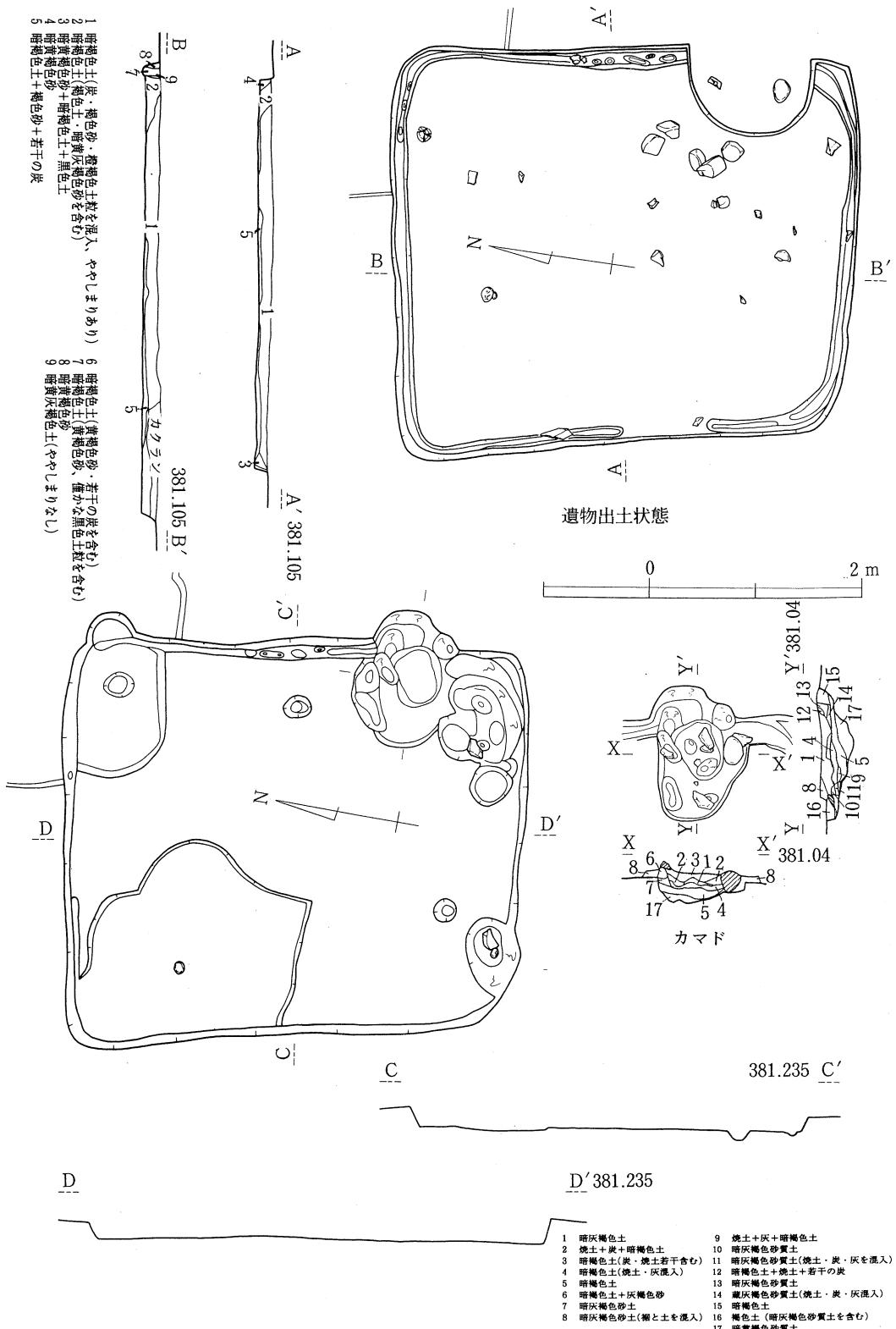
調査区域中央A 13・A 14グリッドから南側に位置する。南側は調査区域外で未調査ではあるが、柱穴は南に展開すると思われ、南北方向に長い2間×3間の側柱建物の可能性がある。柱の直径は26cm前後で、柱間は西が1m95cm、東が1m98cmを測る。柱穴は方形の掘り方を呈する。確認面からの深さは30cm前後。東端の柱穴からは土師器坏が出土している。



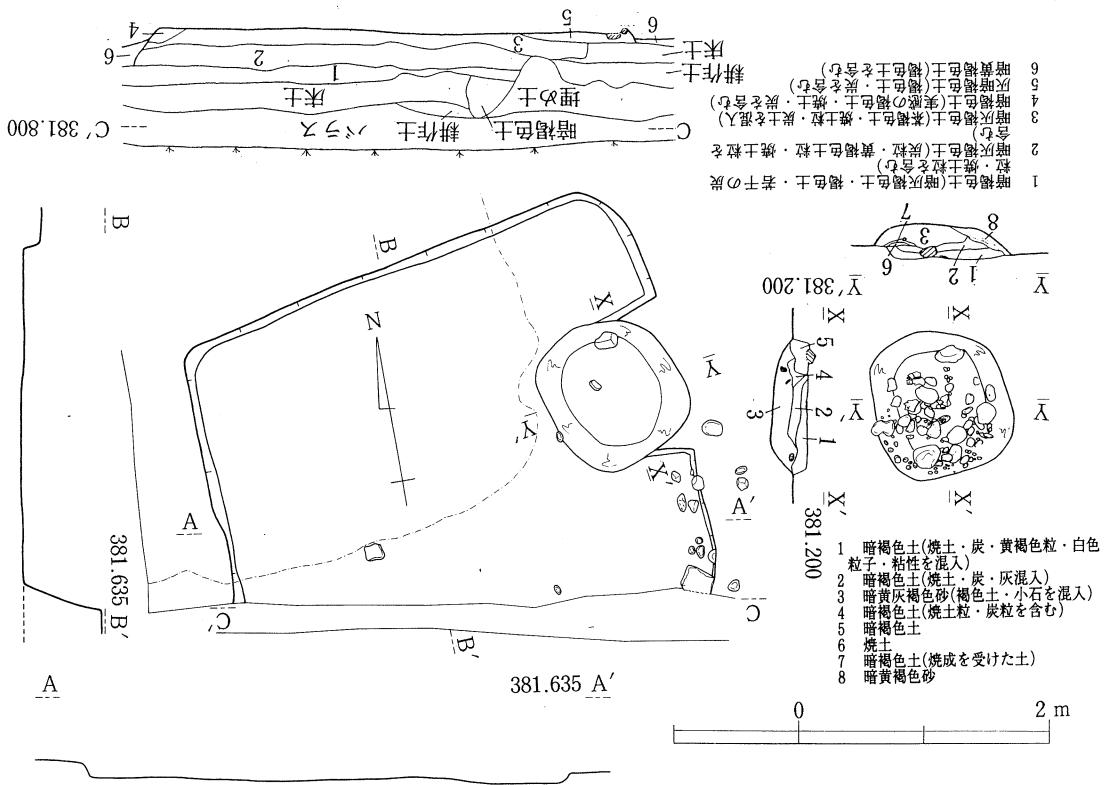
第18図 2号住居址平面・断面図 (1/60)



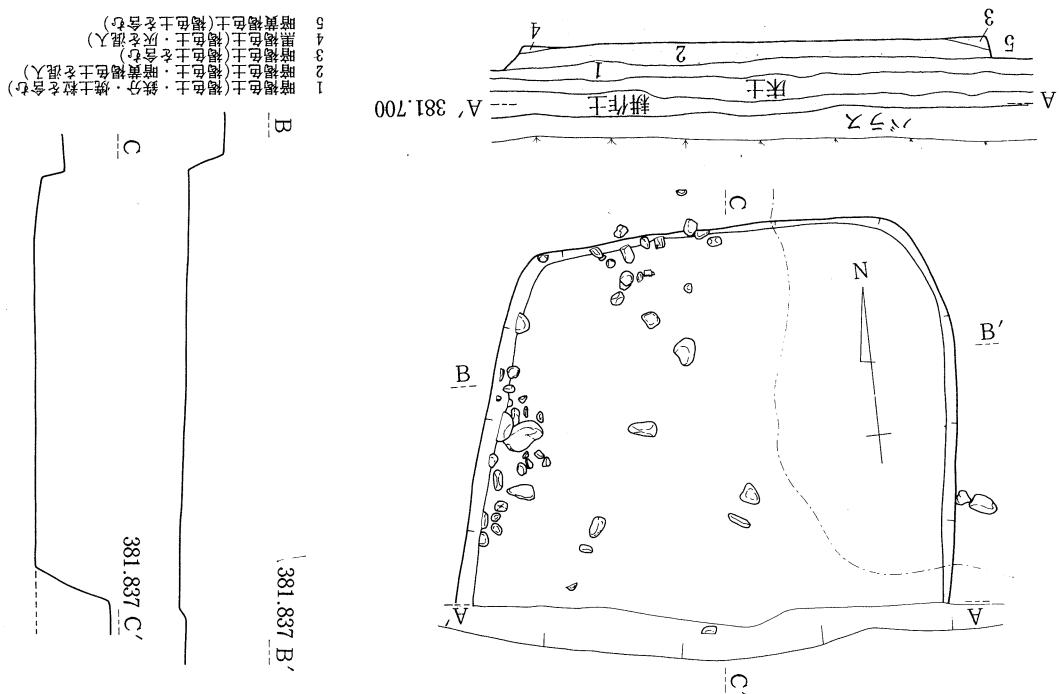
第19図 3号住居址平面・断面図 (1/60)



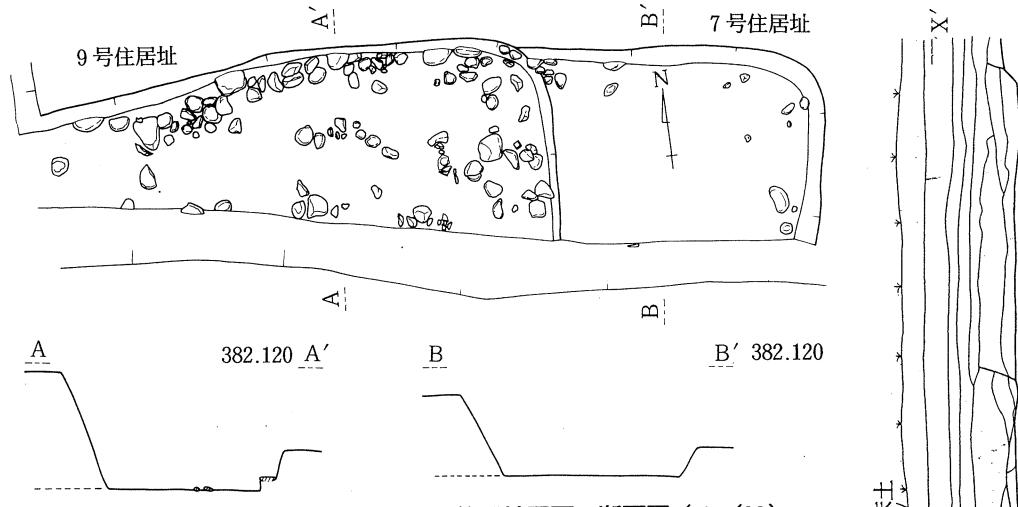
第20図 4号住居址平面・断面図 (1/60)



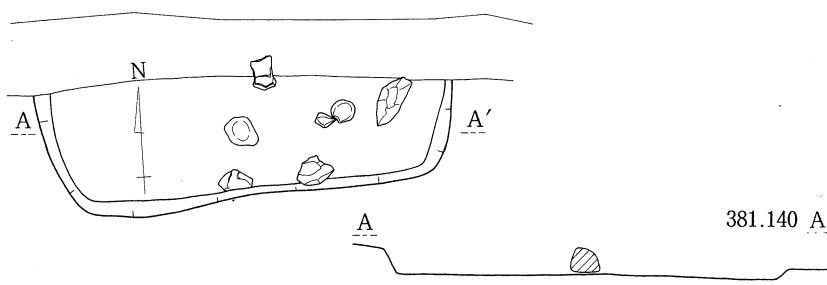
第21図 5号住居址平面・断面図 (1/60)



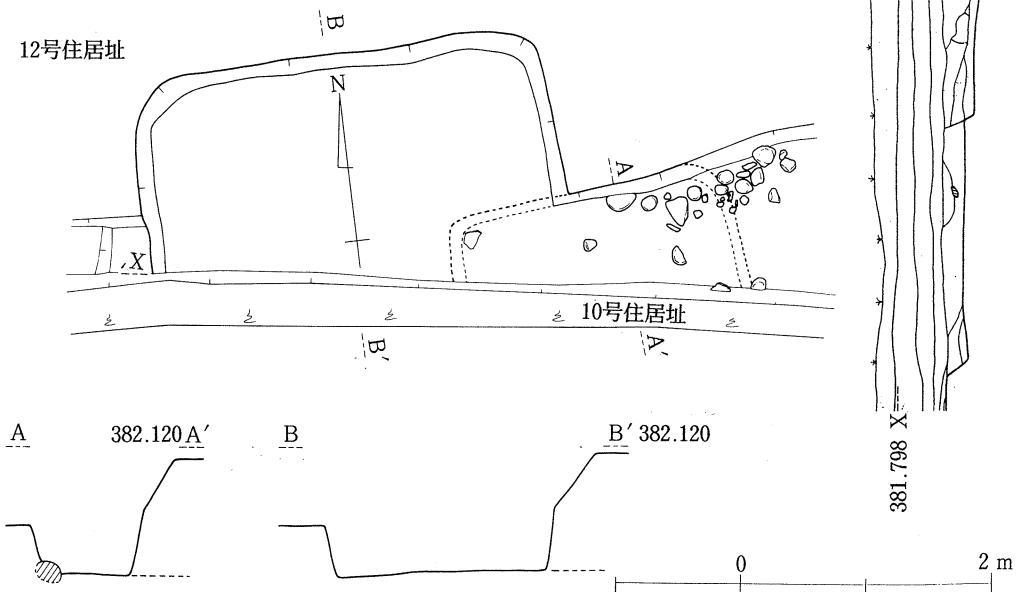
第22図 6号住居址平面・断面図 (1/60)



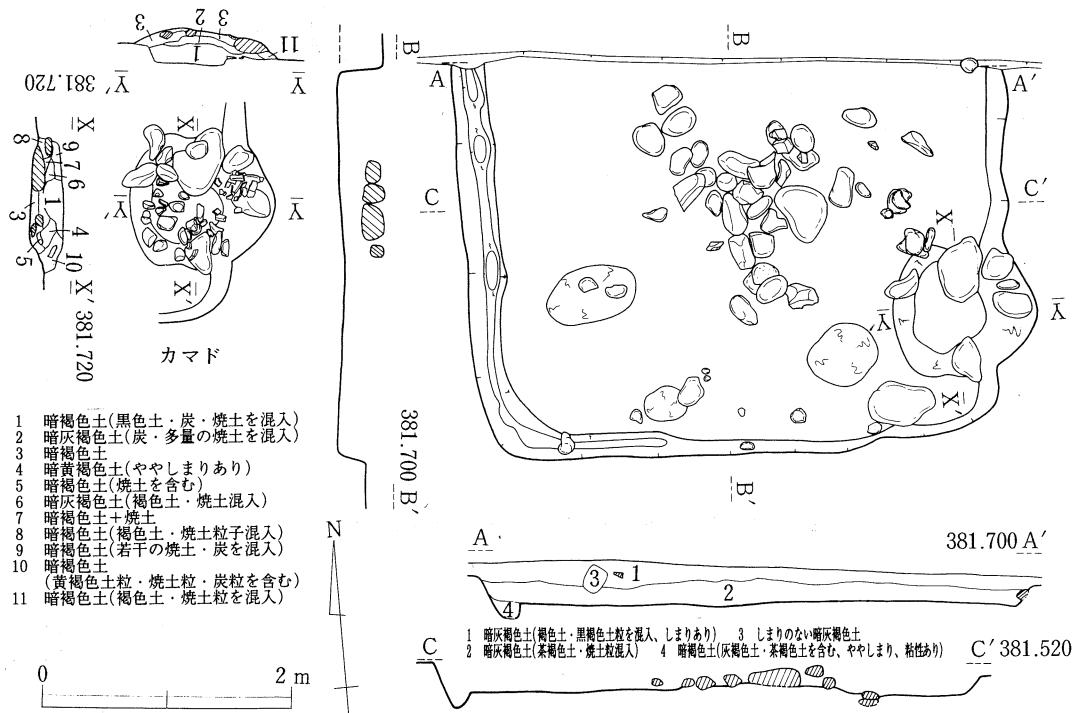
第23図 7号・9号住居址平面・断面図 (1/60)



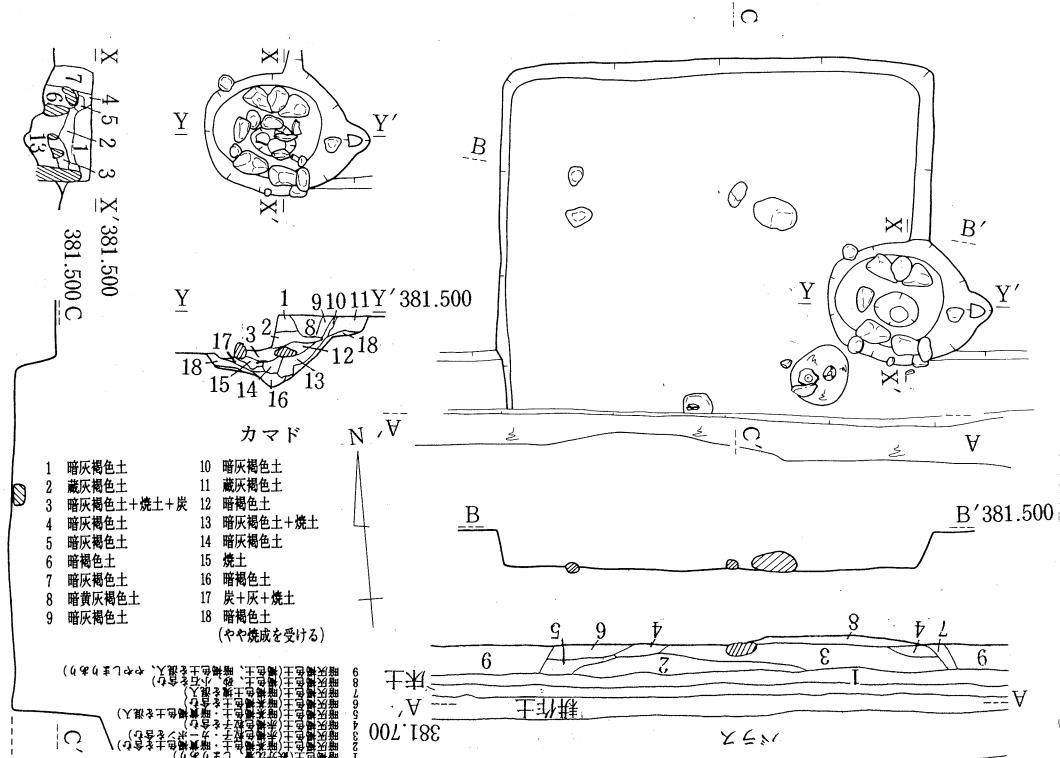
第24図 8号住居址平面・断面図 (1/60)



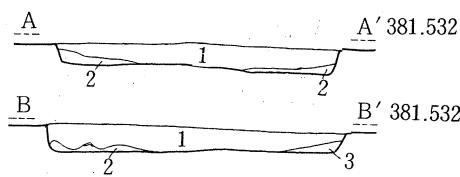
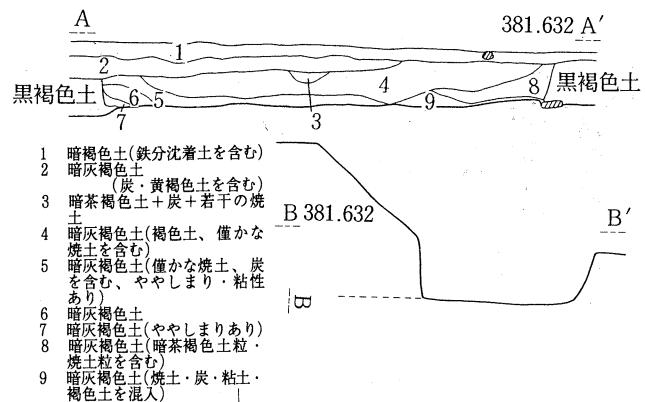
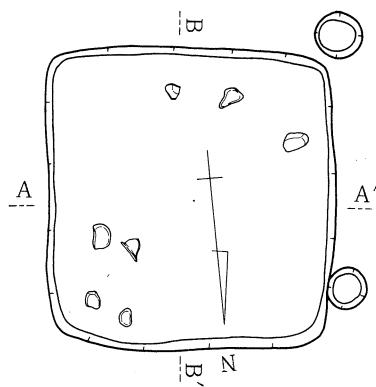
第25図 10号・12号住居址平面・断面図 (1/60)



第26図 11号住居址平面・断面図 (1/60)

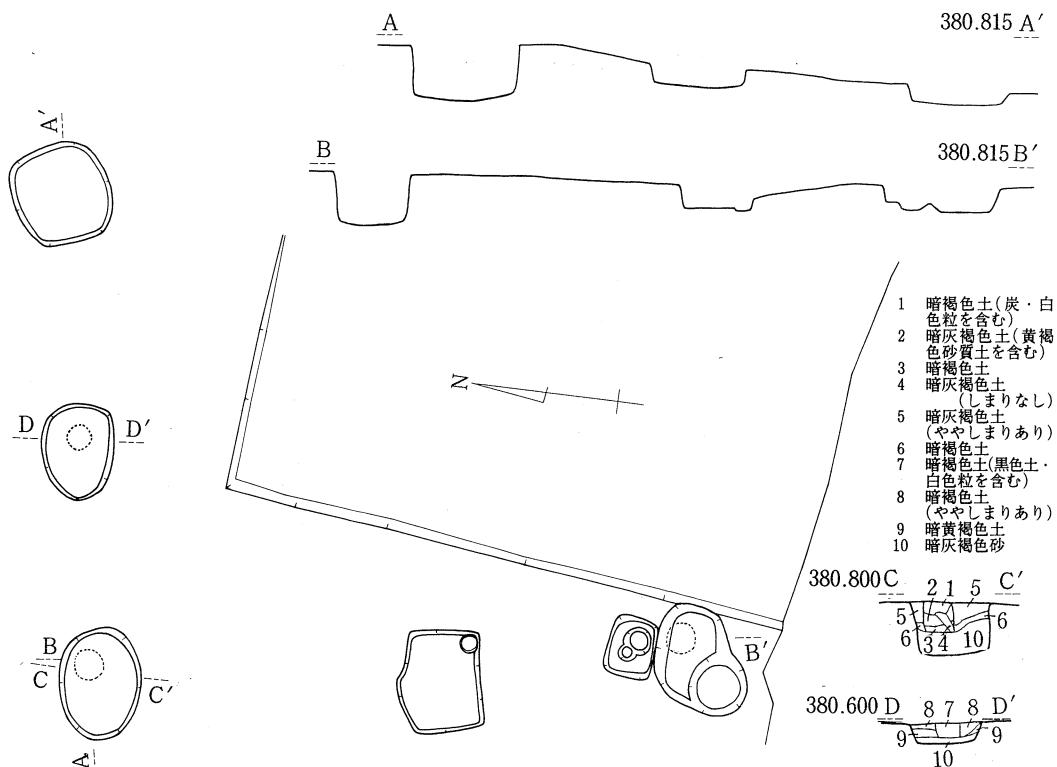


第27図 13号住居址平面・断面図 (1/60)



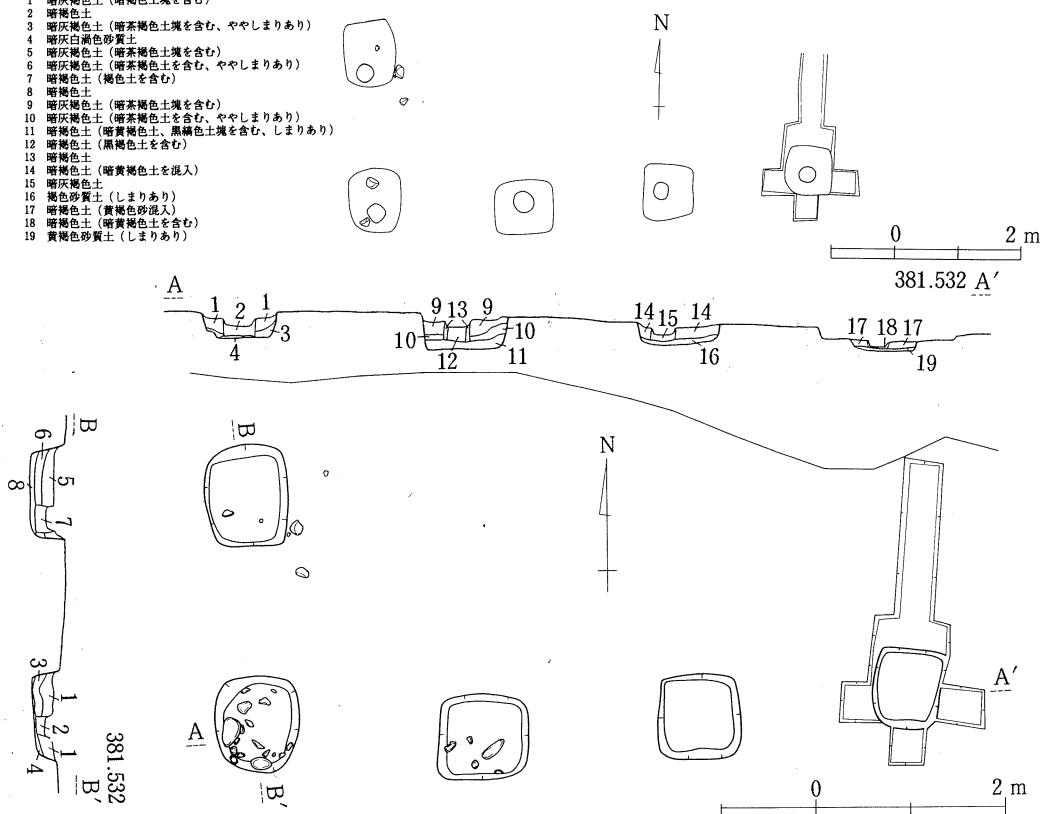
第28図 14号住居址平面・断面図(1/60)

第29図 15号住居址平面・断面図(1/60)

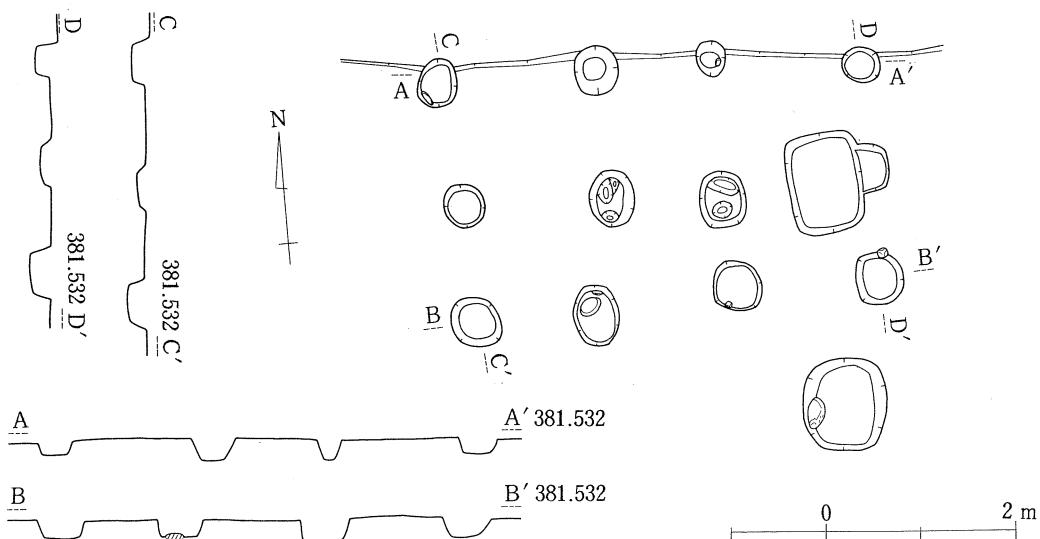


第30図 1号掘立柱建物址平面・断面図(1/60)

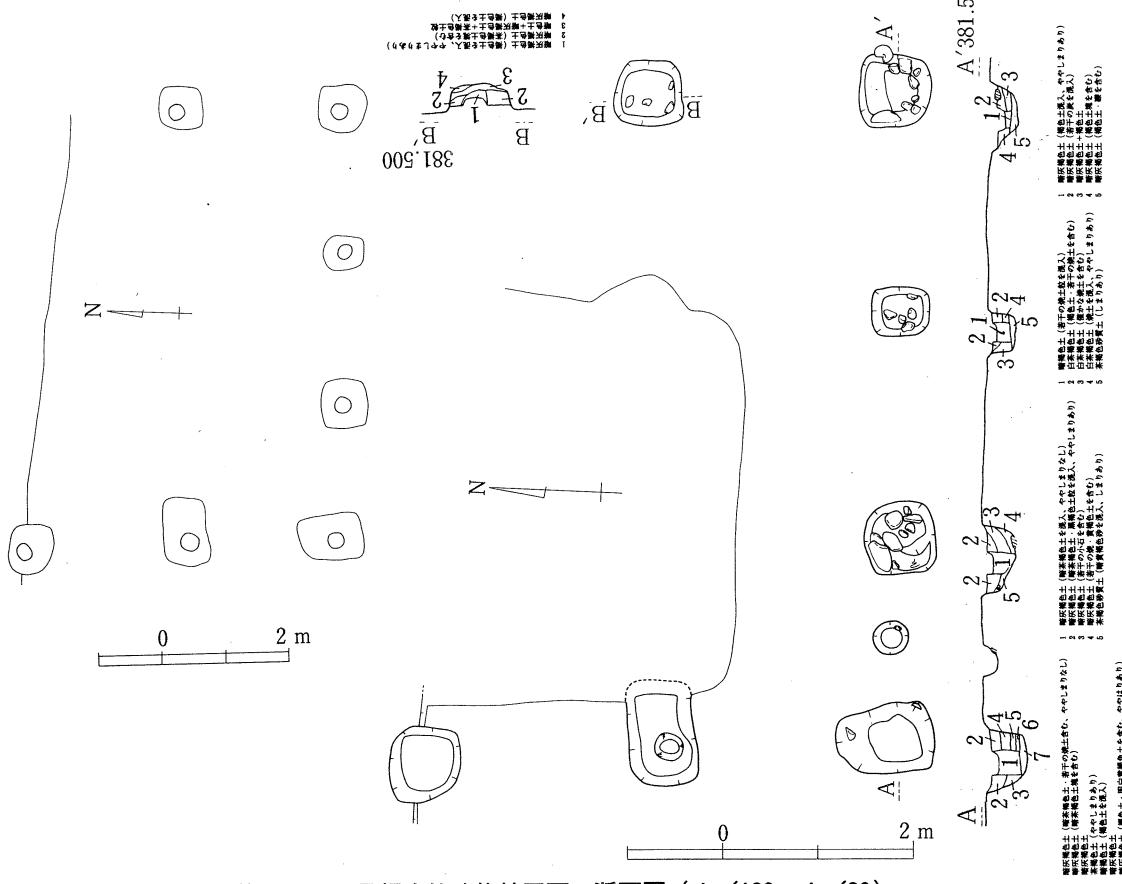
- 1 暗灰褐色土（暗褐色土塊を含む）
- 2 暗褐色土
- 3 暗灰褐色土（暗茶褐色土塊を含む、ややしまりあり）
- 4 暗灰白褐色砂質土
- 5 暗灰褐色土（暗茶褐色土塊を含む）
- 6 暗灰褐色土（暗茶褐色土を含む、ややしまりあり）
- 7 暗褐色土（褐色土を含む）
- 8 暗褐色土
- 9 暗褐色土（暗茶褐色土塊を含む）
- 10 暗灰褐色土（暗茶褐色土を含む、ややしまりあり）
- 11 暗褐色土（暗黃褐色土、黒褐色土塊を含む、しまりあり）
- 12 暗褐色土（黒褐色土を含む）
- 13 暗褐色土
- 14 暗褐色土（暗黃褐色土を混入）
- 15 暗灰褐色土
- 16 褐色砂質土（しまりあり）
- 17 暗褐色土（黃褐色砂混入）
- 18 暗褐色土（暗黃褐色土を含む）
- 19 黃褐色砂質土（しまりあり）



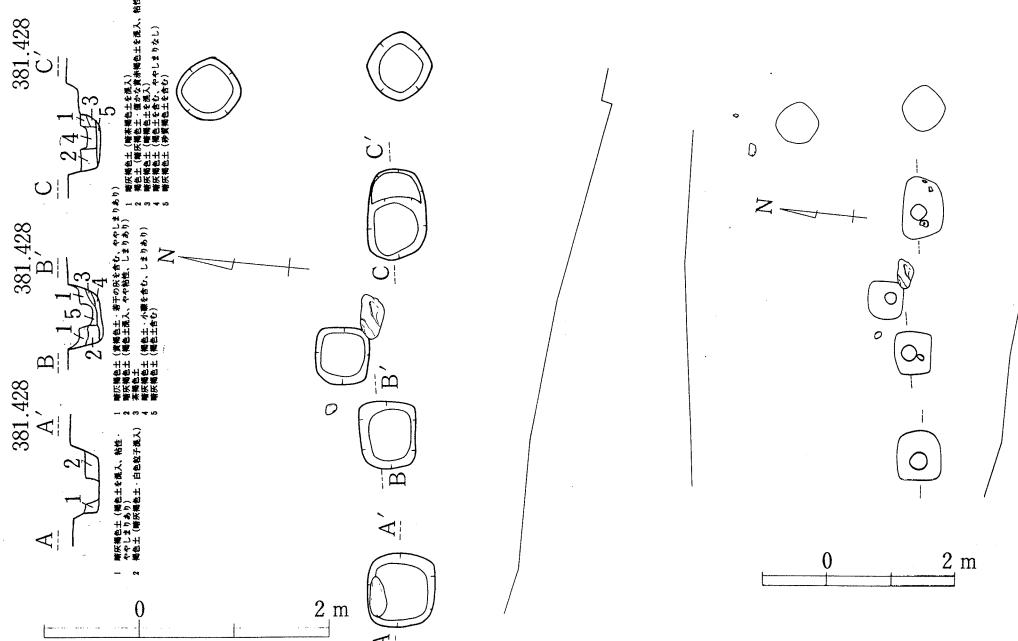
第31図 2号掘立柱建物址平面・断面図 (1/120・1/80)



第32図 3号掘立柱建物址平面・断面図 (1/80)



第33図 4号掘立柱建物址平面・断面図 (1/120・1/80)



第34図 5号掘立柱建物址平面・断面図 (1/120・1/80)

第IV章 遺物

第1節 繩文時代の遺構内出土土器

<1号住居址出土土器>（第35図、第1表）

1および2は、炉体土器である。その出土状況から、1が先行して炉体土器として使用された後に、2が埋設されていることがわかる。

1は、胴部中半でやや膨らみ口縁部の内湾する深鉢形土器である。口縁部は4単位に区画され、区画内には半截竹管によるU字状刺突文や単節RL繩文が施文されている。胴部は断面かまぼこ状の隆線によりU字状文が施文される。隆線側には半隆起状沈線がめぐり、区画内には単節RL繩文が施文された後にY字状印刻文が施文されている。

2は、底部から口縁部に向かって直線的に開く深鉢形土器で、胴部上半と底部を欠いたものである。断面三角形状の隆線により橢円区画文やクランク文が施文されている。隆線側および区画内には幅3から4mmの角押文が施文されている。

3は、住居址内東側から出土したものであり、おそらく床面に接した状態のものと考えられる。底部から口縁部に向かってやや外反しながら立ち上がり、口縁部が直立する浅鉢形土器である。口縁部には、半截竹管によるU字状刺突文および隆線を指頭押圧した連鎖状文が施文されている。これらの要素は1の口縁部文様の要素と非常に類似している。胴部は無文で内外面ともに横方向のミガキ調整が行われている。

<1号土坑出土土器>（第36図1～9、第1表）

1は土坑確認面から上層にかけて出土したものである。内面は横方向のミガキ調整が、外面胴部は縦方向、口唇部直下は横方向のミガキ調整が行われている。2は土坑確認面から上層にかけて出土したものである。口唇部上には突起が付され、口唇部直下には把手が付される大型の壺の口縁部である。1、2ともに胎土は緻密で砂粒を微量に含み、明赤褐色をしたものである。3から9はいずれも1、2とほぼ同様の出土状況である。3は隆帶文土器である。4は鍵の手（雷文）文土器である。6は羊歯状文の施文されたものである。

その他に、無文の胴部片800g・口縁部片190g、底部片240gが出土している。

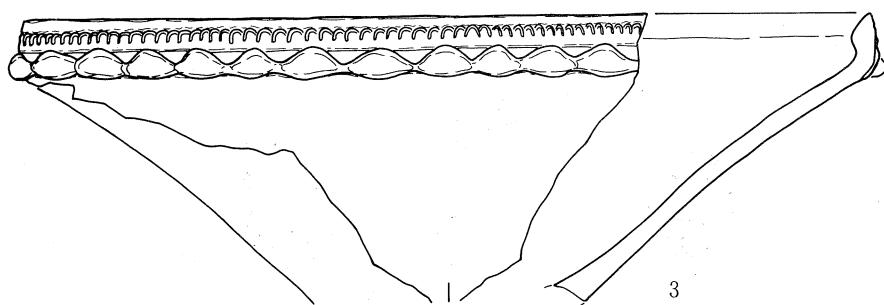
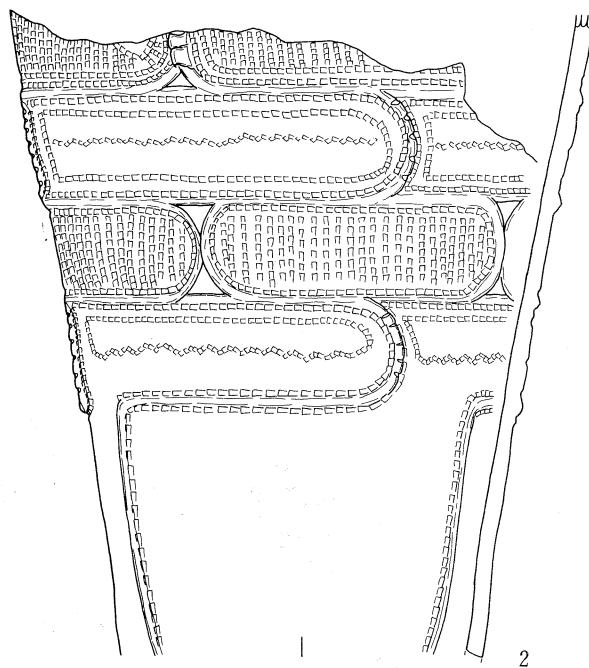
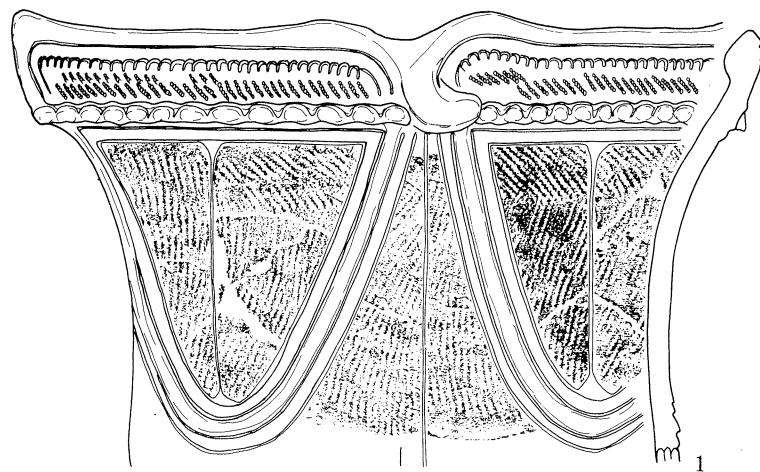
<2号土坑出土土器>（第36図13～17・第37図18～25・第1表）

すべて土坑の覆土中からの散逸した状況で出土したものである。13は鍵の手（雷文）文土器である。14はやや深い沈線により三叉文等の施文されたものである。17・24は隆帶文土器である。

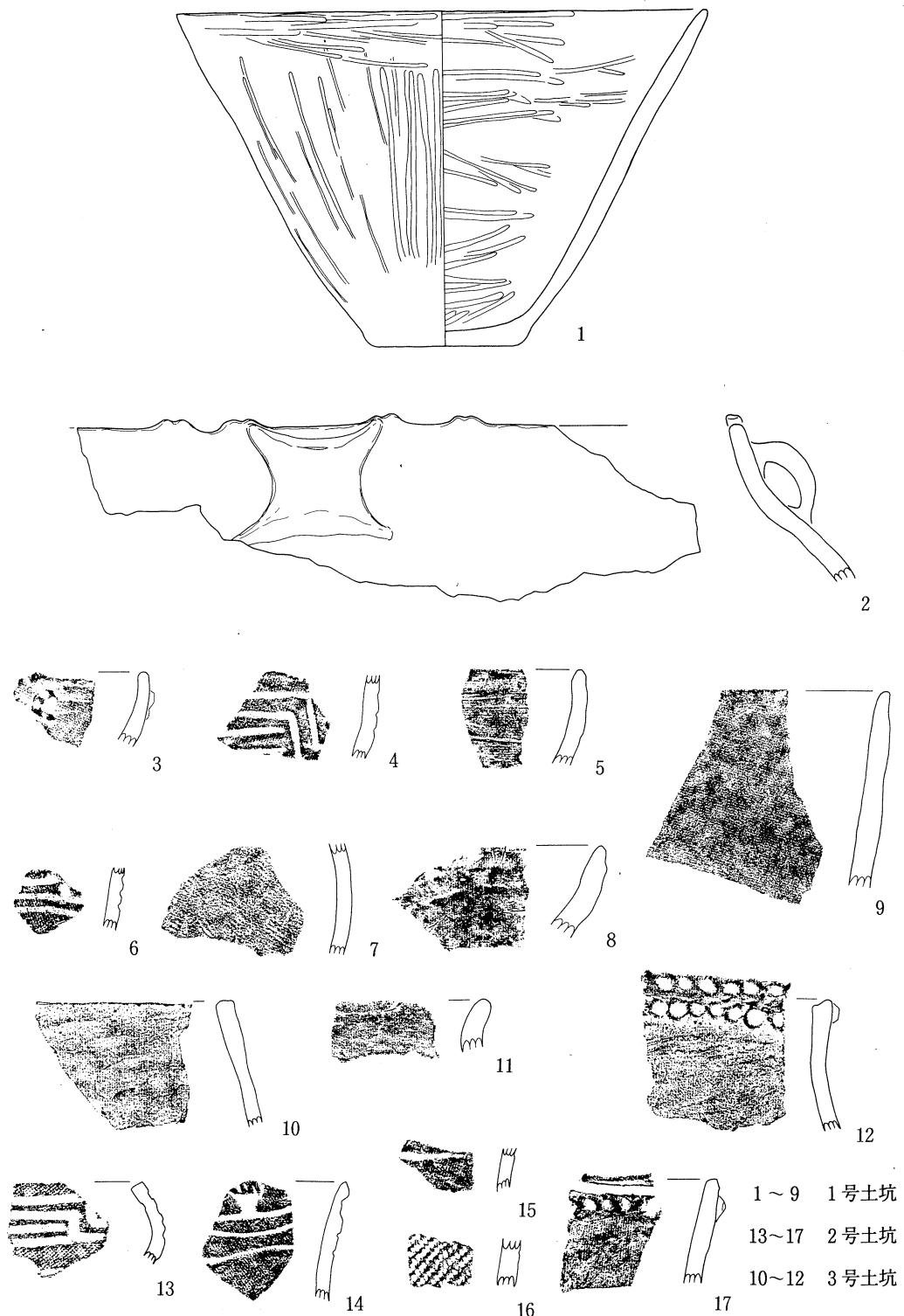
その他に、無文の胴部片1,300g・口縁部片280g、条痕文80g、底部片160gが出土している。

<3号土坑出土土器>（第36図10～12、第37図26～31、第1表・第2表）

10から12は土坑確認面付近で出土したものである。26から31は覆土中から出土したものである。26は鍵の手（雷文）文土器である。27はおそらく弧状文が施文されたものであろう。



第35図 1号住居址出土土器 (1／4)



第36図 1号・2号・3号土坑出土土器 (1/3)

その他に、無文の胴部片400 g・口縁部片200 g、底部片80 gが出土している。

<1号配石出土土器>（第37図32～37、第2表）

配石遺構を構成している礫の合間から出土したものである。32は玉抱三叉文の施文されたものである。33は隆帯文土器である。34・36は沈線による弧状文を組み合わせた文様を施文している。

その他に、無文胴部片320 g、底部片60 gが出土している。

<配石土坑群>

- ・1号配石土坑出土土器（第37図38～40・第38図50～52、第2表）

50は土坑底面から口縁部をややすらした状態で埋設されていたものである。底部から口縁部に向かってやや内湾する砲弾形の深鉢形土器である。外面の底部付近は横方向のヘラナデ調整、胴部は縦ミガキ調整、胴部上半から口縁部にかけては縦ミガキ調整後に横方向のヘラナデ調整が行われている。また、底部付近と胴部中位には黒斑が認められる。内面は横方向のミガキおよびヘラナデ調整が行われている。また、底部から胴部下半の内面には炭化物状の付着物が顕著である。

その他に、50よりも上の覆土中から無文胴部片430 g・口縁部片60 gが出土している。なお、これらの中には50と直接接合するものも含まれていることから、50の土器を切断したのは本遺構の近くであることが想定できよう。

- ・2号配石土坑出土土器

覆土から無文胴部片60 gが出土している。

- ・3号配石土坑出土土器

覆土から無文胴部片75 g、底部片40 gが出土している。

- ・4号配石土坑出土土器（第37図41、第2表）

41は補修孔のある口縁部破片である。

その他に、無文胴部片200 g、底部片28 gが出土している。

- ・5号配石土坑出土土器（第37図42、第2表）

42は単節R L縄文の施文された胴部片である。

その他に、無文胴部片260 g・口縁部片13 gが出土している。

- ・6号配石土坑出土土器（第37図43、第2表）

図示した43の他に、無文胴部片60 g・口縁部片18 gが出土している。

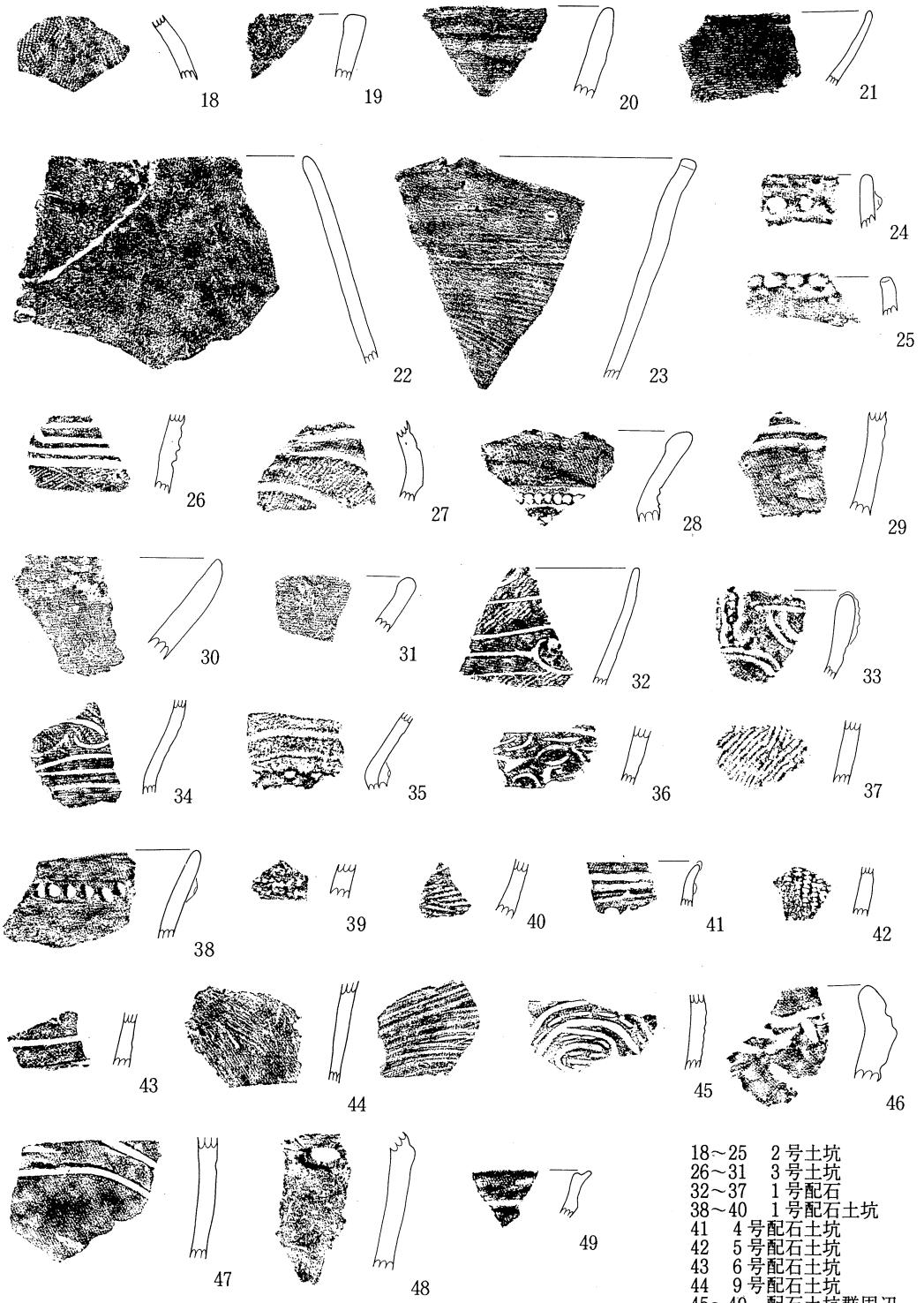
- ・7号配石土坑出土土器

土器は出土しなかった。

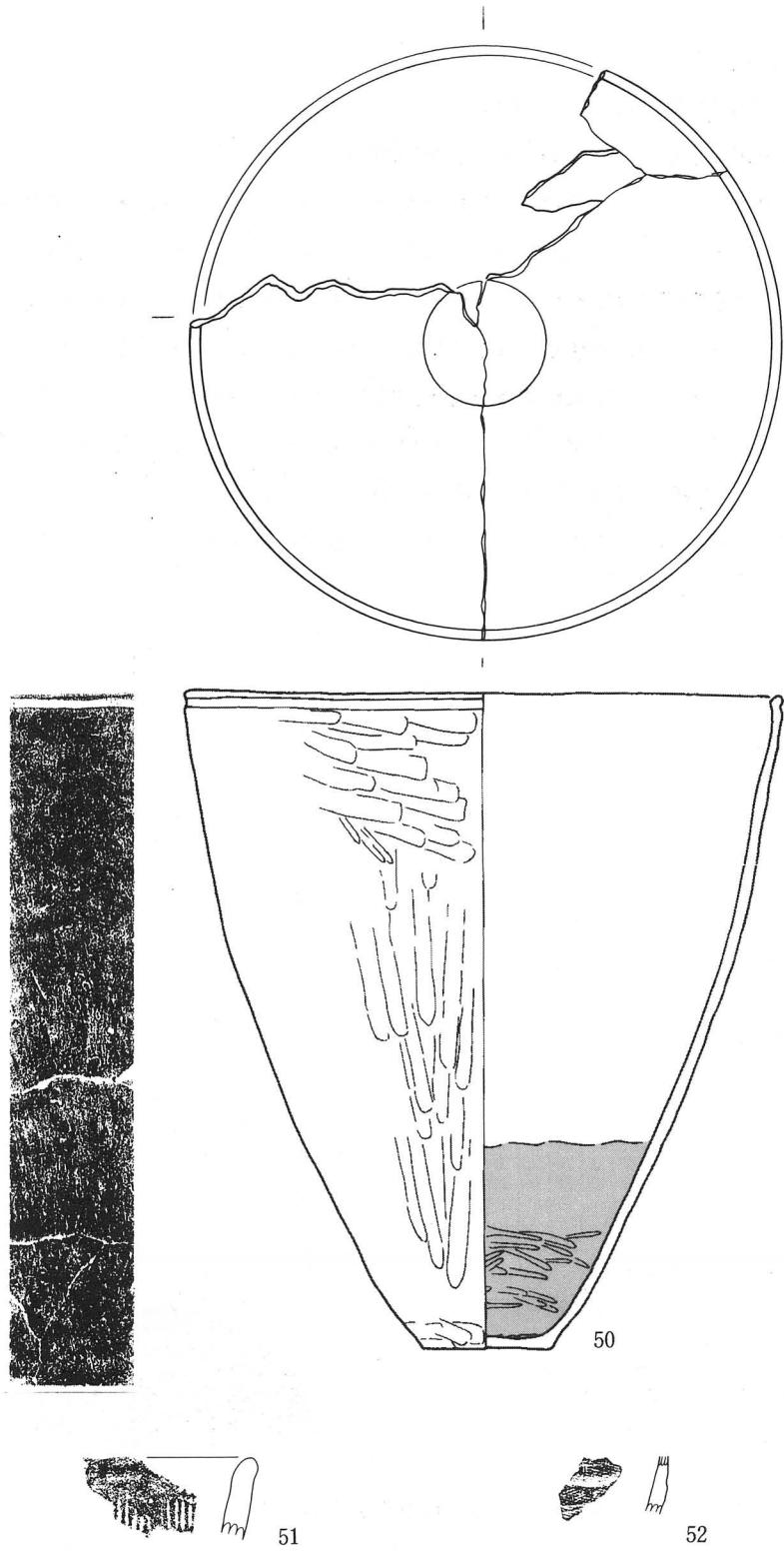
- ・8号配石土坑出土土器

覆土から無文胴部片57 g・口縁部片20 gが出土している。

- ・9号配石土坑出土土器（第37図44、第2表）



第37図 2号・3号土坑、配石、配石土坑群出土土器 (1/3)



第38図 1号配石土坑出土土器 (1/6・1/3)

44は内外面に浅い条痕文が認められる。

その他に無文胴部片300gが出土している。

・配石土坑群周辺出土土器（第37図45～49、第39図53～55、第2表）

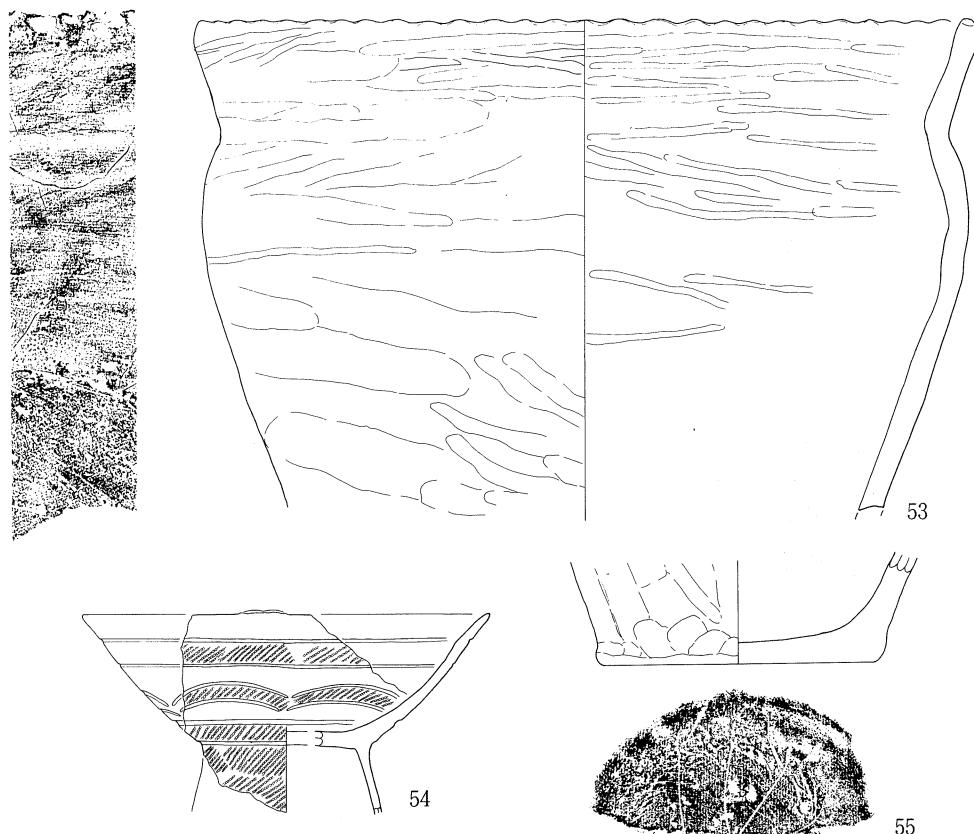
配石土坑群のあるグリッドからは縄文時代晩期前半を中心として晩期終末から弥生初頭などの土器片が大量に出土している。出土位置を記録しているもの一部を中心に報告する。

45は沈線により渦巻状の文様を施し、区画内に刺突文を充填したものである。

53は5号配石土坑と9号配石土坑の間から出土したものである。口唇部上に刻みの施文された深鉢形土器である。内外面ともに粗いヘラなで調整が行われている。

54は台付皿である。台部は単節LR縄文が横位に施文されている。皿部は沈線による弧状文等が施文されている。内面は丁寧なミガキ調整が行われている。

55は底面に木葉痕のある底部片である。下半には指頭痕がつけられている。



第39図 配石土坑群出土土器（1／3）

No.	グリッド	遺構	部位	色	胎土	調整・文様・特徴など
第35図1	A-3	1号住居址	胴～口縁部	にぶい褐色	雲母、黒・白色粒子	口径36.4cm・残存高23.0cm
第35図2	A-3	1号住居址	胸部	灰褐色	黒・白・赤色粒子	残存高34.0cm
第35図3	A-3	1号住居址	胴～口縁部	灰褐色	雲母、黒・白色粒子	口径44.4cm・残存高15.0cm
第36図1	Z-17	1号土坑	半完形	明赤褐色	雲母、黒・白・赤色粒子	口径44.2cm・底径6.4cm・器高15.3cm、内面横みがき・外縁部下横みがき
第36図2	Z-17	1号土坑	口縁部	明赤褐色	雲母、黒・白・赤色粒子	口径44.2cm・底径6.4cm・器高15.3cm、内面横みがき・外縁部下横みがき
第36図3	Z-17	1号土坑	口縁部	褐色	白・黒色粒子	口径上刻み
第36図4	Z-17	1号土坑	胸部	にぶい褐色	雲母、白・黒色粒子	右傾健の手文
第36図5	Z-17	1号土坑	口縁部	暗赤褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	浅い条痕文
第36図6	Z-17	1号土坑	口縁部	黒褐色	雲母、赤・白色粒子	羊齒状文
第36図7	Z-17	1号土坑	胸部	にぶい橙色	雲母、赤・白・黒色粒子	単節LR繩文
第36図8	Z-17	1号土坑	口縁部	にぶい褐色	雲母、黒・白・赤色粒子	
第36図9	Z-17	1号土坑	口縁部	にぶい赤褐色	雲母、白・黒色粒子	
第36図10	A-17	3号土坑	口縁部	にぶい赤褐色	雲母、白・黒色粒子	
第36図11	A-17	3号土坑	口縁部	にぶい赤褐色	赤・白色粒子	
第36図12	A-17	3号土坑	口縁部	黒褐色	雲母、白・黒色粒子	突帯上指頭、条痕文
第36図13	Z-18	2号土坑	口縁部	にぶい褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	右傾健の手文→単節LR繩文
第36図14	Z-18	2号土坑	口縁部	にぶい褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	
第36図15	Z-18	2号土坑	胸部	灰褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	
第36図16	Z-18	2号土坑	胸部	灰褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	
第36図17	Z-18	2号土坑	口縁部	黒褐色	雲母、白・黒色粒子	
第37図18	Z-18	2号土坑	胸部	黒褐色	雲母、白色粒子	単節LR繩文
第37図19	Z-18	2号土坑	口縁部	明褐色	雲母、白・黒色粒子	
第37図20	Z-18	2号土坑	口縁部	灰褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	
第37図21	Z-18	2号土坑	口縁部	黒褐色	白色粒子	
第37図22	Z-18	2号土坑	口縁部	橙色	雲母、赤・白・黒色粒子	
第37図23	Z-18	2号土坑	口縁部	明褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	浅い条痕文、波状口縁・波頂部刻み
第37図24	Z-18	2号土坑	口縁部	にぶい褐色	雲母、白・黒色粒子	突帯上指頭
第37図25	Z-18	2号土坑	口縁部	にぶい橙色	雲母、赤・白・黒色粒子	突帯上指頭

第1表 遺構内出土土器観察表(1)

No	グリッド	遺構	部位	色調	胎	土	調整・文様・特徴など
第37図26	A-17	3号土坑	胴部	橙色	雲母、白・黒色粒子		右頸鍵の手文→単節LR繩文
第37図27	A-17	3号土坑	胴部	黒褐色	雲母、白色粒子		弧状文→単節LR繩文
第37図28	A-17	3号土坑	口縁部	黒褐色	雲母、白・黒色粒子		口唇部上突起
第37図29	A-17	3号土坑	胴部	黒褐色	雲母、白・黒色粒子		
第37図30	A-17	3号土坑	口縁部	暗赤褐色	雲母、赤・白・黒色粒子		
第37図31	A-17	3号土坑	口縁部	にぶい褐色	雲母、赤・白・黒色粒子		
第37図32	Z-21	1号配石遺構	口縁部	にぶい黄褐色	白・黒色粒子		玉挽三叉文等→単節LR繩文
第37図33	Z-21	1号配石遺構	口縁部	にぶい黄褐色	白・黒色粒子		隆線上刺突、一部赤形
第37図34	Z-21	1号配石遺構	胴部	灰黃褐色	白・黒色粒子		単節RL繩文→沈線
第37図35	Z-21	1号配石遺構	胴部	にぶい赤褐色	白・黒色粒子		隆線上刺突
第37図36	Z-21	1号配石遺構	胴部	黒褐色	白・黒色粒子		三叉文等
第37図37	Z-21	1号配石遺構	胴部	灰褐色	雲母、白・黒色粒子		単節LR繩文
第37図38	Z-19	2号配石土坑	口縁部	褐色	白・黒色粒子		隆線上指頭
第37図39	Z-19	2号配石土坑	胴部	にぶい褐色	赤・白・黒色粒子		単節LR繩文
第37図40	Z-19	2号配石土坑	胴部	灰褐色	白色粒子		単節LR繩文
第37図41	Z-19	2号配石土坑	口縁部	灰褐色	白・黒色粒子		補修孔
第37図42	Z-19	5号配石土坑	胴部	にぶい赤褐色	白・黒色粒子		単節RL繩文
第37図43	Z-19	6号配石土坑	胴部	にぶい褐色	赤・白・黒色粒子		
第37図44	Z-19	9号配石土坑	胴部	にぶい褐色	赤・白・黒色粒子		内・外面深い条痕文
第37図45	Z-19	配石土坑群	胴部	にぶい赤褐色	白・黒色粒子		沈線による渦巻状文→刺突状文
第37図46	Z-19	配石土坑群	口縁部	にぶい褐色	白・黒色粒子		
第37図47	Z-19	配石土坑群	胴部	にぶい褐色	白・黒色粒子		
第37図48	Z-19	配石土坑群	胴部	黒褐色	白色粒子		
第37図49	Z-19	配石土坑群	口縁部	褐灰色	白色粒子		
第38図50	Z-19	1号配石土坑	半完形	にぶい褐色	白・赤粒子		口径46.0cm・底部10.0cm・器高51.8cm・内面横みがき、外面胴部縦へらなで→底部・口縁部横へらなで
第38図51	Z-19	1号配石土坑	口縁部	にぶい褐色	赤・白・黒色粒子		条痕文
第38図52	Z-19	1号配石土坑	胴部	灰褐色	白色粒子		沈線→単節LR繩文
第39図53	Z-19	配石土坑群	口縁部	にぶい赤褐色	白・赤色粒子		口径30.6cm・残存高20.0cm、口唇部上指頭刻み、内外面細いへらなで
第39図54	Z-19	配石土坑群	口縁部	にぶい黄褐色	雲母、白・黒色粒子		口径16.4cm・残存高7.8cm、単節LR繩文→弧状文
第39図55	Z-19	配石土坑群	底部	明赤褐色	白色粒子		底部11.0cm・残存高4.3cm、底部指頭痕、底面木葉痕

第2表 遺構内出土土器観察表(2)

第2節 繩文時代の土製品

<土偶>（第40図1～6、第3表）

1は頭部がZ-20グリッド、胴部がA-19グリッド（7配石土坑の東側）から出土したものである。頭部は横長の楕円形であり、頭頂部は二股状に割け、顔面部は隆線により眼部と鼻部を表出している。右耳に相当する部分には刻みが施文される。左耳に相当する部分には指頭押圧によるくぼみがある。頸部と胴部はほぼ同じ太さである。両手は先端を欠損しているが下向きに付けられていることは明確である。乳房はやや縦長の楕円形を呈している。頭部と胴部の接合面の観察から分割塊技法により製作されていることがわかる。

2はZ-19から出土したものである。脚部である。

3はA-19グリッドから出土したものである。胴部左半分のものと考えられる。背面には沈線により三叉文が、腹面の文様は不詳であるが沈線文が施文されている。欠損面の観察から胴部を二つの粘土塊から製作されていることがわかる。

4はZ-19から出土したものである。腕部であり、掌部は外側に向いている。

5は11号住居跡覆土内（B-9グリッド）から出土したものである。胴部と右腕部のみ遺存している。腕部は水平に付され、先端下部に2条の刻みが施文されている。乳房はやや縦長の楕円形で先端がややとがっている。正中線は幅3mm程度の半截竹管による角押文により施文されている。

6は12号住居跡覆土内（A-10グリッド）から出土したものである。顔面部には、三角押文により眼部が、それと同一工具と考えられるものによる刺突で口部が表出されている。頭頂部から後頭部にかけては、円形貼付文や隆線による三叉文等が施文されている。

<土製耳飾り>（第41図1～5、第3表）

1、2は1号配石内から出土したものである。三叉文や玉抱三叉などが施文され、文様部分は赤彩されている。1は内面が大きくえぐられている。2は環状で内面に張り出しによる円孔文が施文されている。

3は2号土坑から出土したものである。内外両面が凹面を呈し、やや粗い調整が行われている。

4はA-18グリッドから出土したものである。内外面が凹状を呈し、棒状工具による刺突により十字状文や弧状文などが施文されている。5はA-11グリッドから出土したものである。内外面が凹面を呈し、内外面の径はほぼ同じである。

<土器片製円盤>（第41図6・7、第3表）

6はA-10グリッドから出土したものである。側縁は全周にわたり磨滅している。

7はZ-18から出土したものである。楕円形状に打ち欠かれたものであり、側縁の一部が磨滅している。

<ミニチュア土器>（第41図8、第3表）

Z-18グリッドから出土したものである。手づくねであり、表面には指頭痕があり、内面はナデ調整が行われている。

<土製蓋>（第41図9、第3表）

A-17グリッドから出土したものである。つまみ部は穿孔されいる。体部には、磨滅のために判然としないがおそらく単節R L縄文が施文されている。

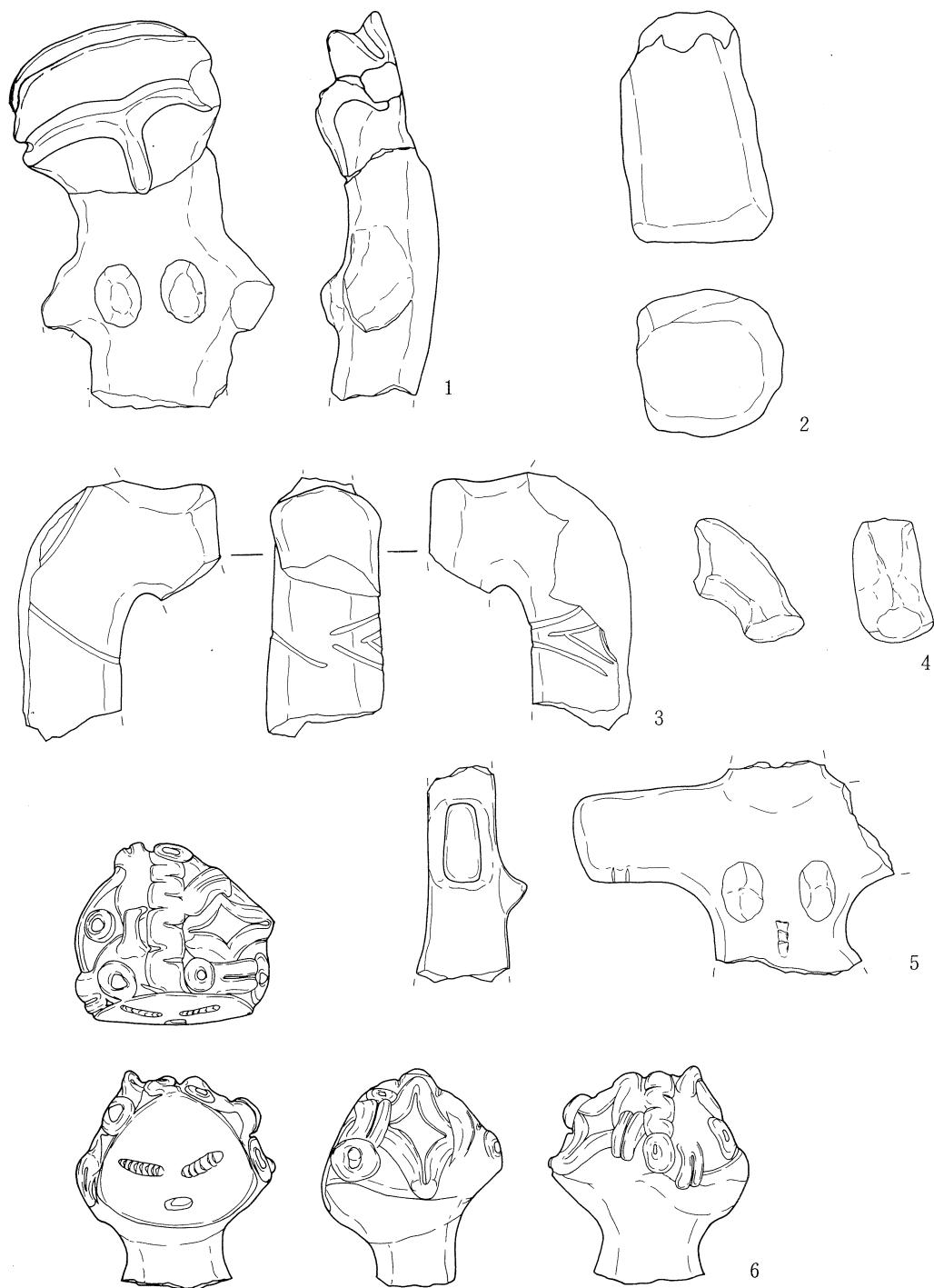
<その他の土製品>（第41図10・11、第3表）

10は、断面略円形の棒状土製品である。先端部は剥落したような痕跡があり、土偶の腕部の可能性もある。

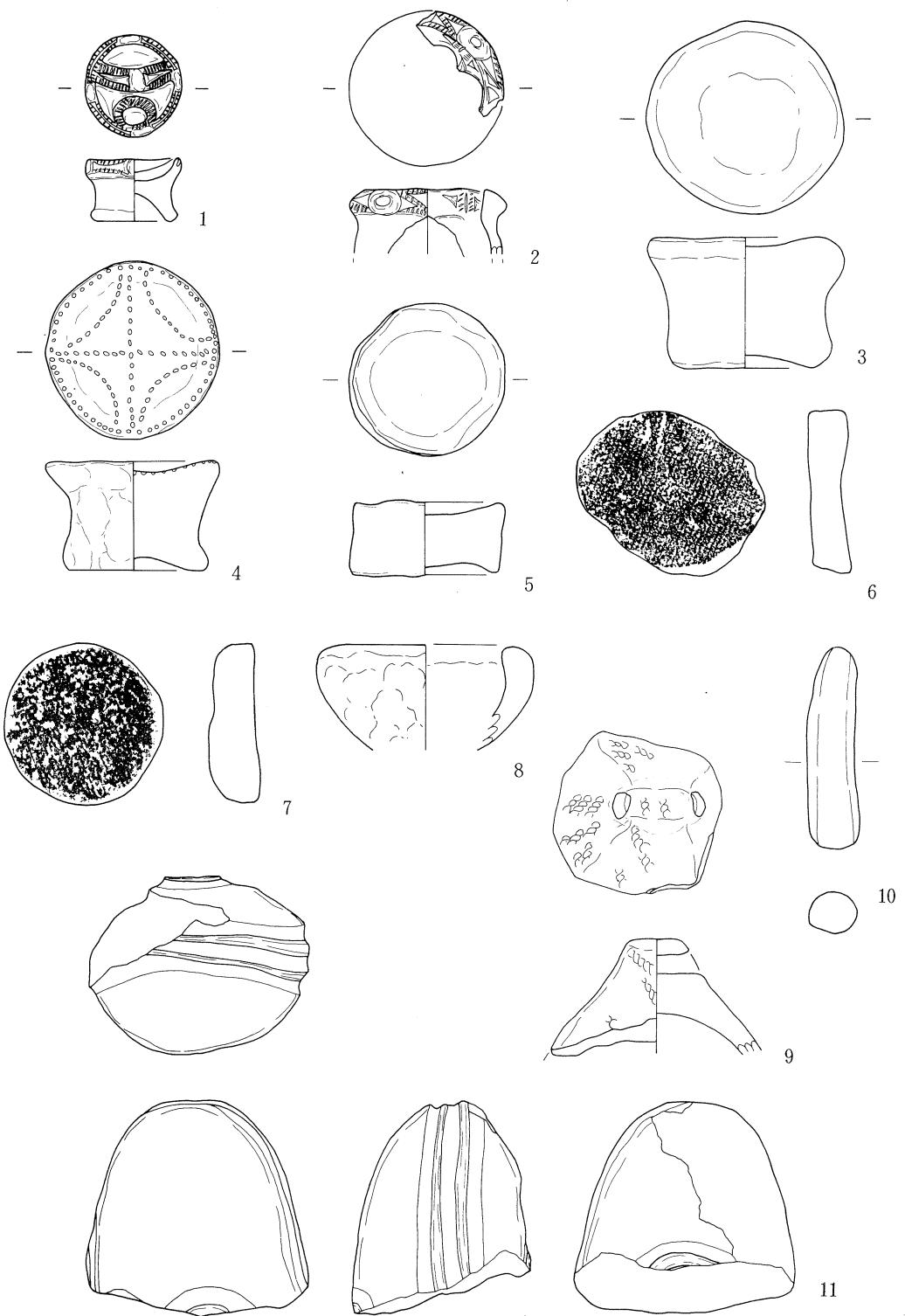
11は、Z-20グリッドから出土したものである。おそらく卵形をしたものであると考えられる。側縁には幅3mmの沈線が平行に3条めぐる。体部には隆線と沈線により文様施文されているが、具体的な文様は不詳である。

No	グリッド	出土遺構	種類	色調	胎土	調整・文様・特徴など
第40図1	Z-20	包含層	土偶(頭～胴部)	にぶい黄橙色	白・黒色粒子	頭部と胴部に接合関係
第40図2	Z-19	包含層	土偶(脚部)	赤褐色	雲母、白・赤色粒子	
第40図3	A-19	包含層	土偶(胴部)	暗黒褐色	白色粒子	沈線による三叉文
第40図4	Z-19	包含層	土偶(腕部)	黒褐色	白色粒子	
第40図5	B-9	11号住居跡	土偶(胴部)	暗褐色	白色粒子	角押文による正中線
第40図6	A-10	12号住居跡	土偶(頭部)	にぶい橙色	白・黒色粒子	三角押文による眼部施文
第41図1	Z-21	1号配石遺構	耳飾り	にぶい赤褐色	白・黒色粒子	赤彩
第41図2	Z-21	1号配石遺構	耳飾り	にぶい黄橙色	白色粒子	赤彩
第41図3	Z-18	2号土坑	耳飾り	赤褐色	白・黒色粒子	
第41図4	A-18	包含層	耳飾り	にぶい赤褐色	白色粒子	
第41図5	A-11	包含層	耳飾り	にぶい赤褐色	白色粒子	
第41図6	A-10	包含層	土器片製円盤	にぶい橙色	白・黒・赤色粒子	周縁全摩滅、胴部片
第41図7	Z-18	包含層	土器片製円盤	褐灰色	雲母、白色粒子	周縁一部摩滅、胴部片
第41図8	Z-18	包含層	ミニチュア土器	にぶい橙色	白色粒子	手捏ね土器
第41図9	A-17	包含層	土製蓋	黄褐色	白色粒子	単節R L縄文
第41図10	B-14	包含層	棒状土製品	褐色	白・赤色粒子	
第41図11	Z-20	包含層	卵形土製品	にぶい黄橙色	白・黒・赤色粒子	

第3表 出土土製品観察表



第40図 土 偶 (2/3)



第41図 土製品 (2/3)

第3節 弥生時代の土器

遺構には伴っていないが包含層からは、縄文時代晚期終末から弥生時代前期の条痕文系土器や後期の櫛描波状文が出土している。

- ・条痕文系土器（第42図1～16、第4表）

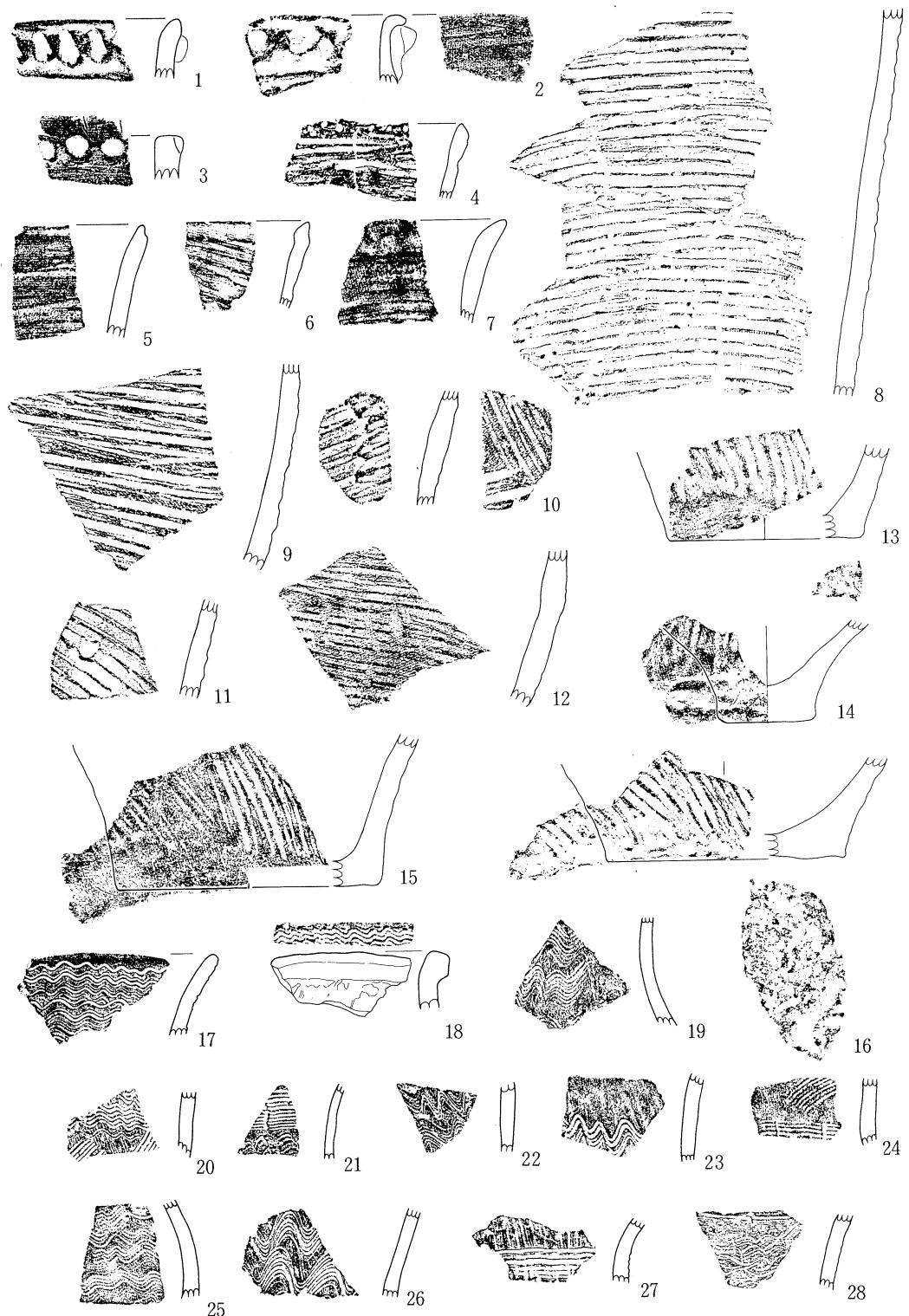
条痕文系土器は調査区全体から出土しているが、特に西側（Z-19・20グリッド）から2,520g出土し破片も大型であり、調査区内の分布の中心がそこにあることがわかる。この分布範囲には、縄文時代晚期前半の土器片が集中しているが、条痕文系土器と層位的には区分できない。

- ・櫛描波状文土器（第42図17～28、第4表）

・櫛描波状文土器は調査区中央（12～14ライン）に若干ではあるが出土している。

No.	グリッド	出土遺構	部 位	器種	色 調	胎 土	調整・文様・特徴など
第42図1	A-14	包 含 層	口縁部	壺	明褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	突带上指頭
第42図2	A-14	包 含 層	口縁部	壺	にぶい褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	突带上指頭
第42図3	A-14	包 含 層	口縁部	壺	にぶい橙色	雲母、赤・白・黒色粒子	突带上指頭
第42図4	Z-19	包 含 層	口縁部	甕	灰黄褐色	金色雲母多	やや浅い条痕文
第42図5	Z-19	包 含 層	口縁部	甕	にぶい褐色	赤・白・黒色粒子	やや浅い条痕文
第42図6	Z-20	包 含 層	口縁部	甕	にぶい褐色	赤・白色粒子	やや浅い条痕文
第42図7	Z-19	包 含 層	口縁部	甕	にぶい黄橙色	白色粒子	やや浅い条痕文
第42図8	A-19	包 含 層	胴 部	壺	にぶい黄褐色	雲母、白・黒色粒子	太く粗い条痕文
第42図9	Z-20	包 含 層	胴 部	壺	にぶい黄褐色	白・黑色粒子	太く粗い条痕文
第42図10	Z-20	包 含 層	胴 部	壺	にぶい橙色	白・黑色粒子	太く粗い条痕文
第42図11	Z-20	包 含 層	胴 部	壺	にぶい褐色	雲母、白色粒子	太く粗い条痕文
第42図12	Z-19	包 含 層	胴 部	壺	灰黄褐色	雲母、白色粒子	太く粗い条痕文
第42図13	A-19	包 含 層	底 部	壺	にぶい褐色	雲母、赤・白・黒色粒子	太く粗い条痕文
第42図14	Z-18	包 含 層	底 部	壺	にぶい褐色	赤・白色粒子	太く粗い条痕文
第42図15	Z-19	包 含 層	底 部	壺	にぶい褐色	雲母、白・黒色粒子	太く粗い条痕文
第42図16	Z-19	包 含 層	底 部	壺	にぶい黄褐色	白・黑色粒子	太く粗い条痕文
第42図17	B-14	包 含 層	口縁部	甕	灰褐色	白・黒・赤色粒子	櫛描波状文
第42図18	B-13	包 含 層	口縁部	甕	橙色	雲母、白・黒色粒子	口唇部上櫛描波状文
第42図19	A-11	包 含 層	頸 部	壺	明赤褐色	雲母、白・黒色粒子	櫛描波状文
第42図20	B-12	包 含 層	胴 部	甕	にぶい赤褐色	白・赤色粒子	櫛描波状文+櫛描斜走短線文
第42図21	B-12	包 含 層	頸 部	甕	にぶい橙色	白色粒子	櫛描廉状文+櫛描波状文
第42図22	B-13	包 含 層	胴 部	甕	橙色	白・赤色粒子	櫛描波状文
第42図23	B-12	包 含 層	胴 部	甕	にぶい橙色	白・赤色粒子	櫛描く波状文
第42図24	B-12	包 含 層	胴 部	甕	褐色	白色粒子	櫛描斜走短線文+櫛描廉状文
第42図25	A-11	包 含 層	胴 部	甕	にぶい赤褐色	雲母、白・黒色粒子	櫛描波状文
第42図26	B-14	包 含 層	胴 部	甕	にぶい橙色	白・黑色粒子	櫛描波状文
第42図27	B-14	包 含 層	頸 部	甕	灰褐色	白・黑色粒子	櫛描横走文
第42図28		5号住居跡	胴 部	甕	灰黄褐色	白・黒・赤色粒子	櫛描波状文

第4表 出土弥生土器観察表



第42図 包含層出土弥生土器 (1/3)

第4節 繩文時代の石器

図No.	取上No.	器種	石材	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	破損状況	備考
—	—	打製石斧	粘板岩	2住	84	43	17	60		
43 1	—	打製石斧	砂岩	3住	122	42	18	100		
43 2	—	凹石	安山岩	4住	84	72	52	430		
43 3	—	敲石	安山岩	5住	82	61	46	300	上半欠	
43 4	1	打製石斧	砂岩	6住	103	49	16	100		
43 5	2	石棒	凝灰石	6住	69	45	35	140	磨り痕あり	
—	—	打製石斧	砂岩	6住	103	48	14	98		
—	—	石棒	玄武岩	6住	70	43	35	140	一部欠	
43 7	—	蜂の巣石	安山岩	9住	112	149	69	1,320	破片	
—	—	加工痕ある剥片	粘板岩	14住	91	54	14	60	一部欠	
43 6	1	磨製石斧	ホルンフェルス	16住	134	60	38	460	上半欠	
47 9	1	台石	安山岩	配石土坑群	238	204	60	4,340		
—	2	磨石	安山岩	配石土坑群	108	93	65	980		
47 6	3	凹石	安山岩	配石土坑群	82	73	60	420		
—	4	礫	安山岩	配石土坑群	132	89	71	1,150		
47 1	5	磨石	安山岩	配石土坑群	95	86	40	560		
—	6	剥片	泥岩	配石土坑群	58	70	17	40		
47 7	7	石皿	安山岩	配石土坑群	217	76	40	780	破片	
—	8	礫	凝灰岩	配石土坑群	149	92	70	1,160		
—	9	礫	安山岩	配石土坑群	151	125	77	1,950		
—	10	礫	安山岩	配石土坑群	131	135	80	2,300		
47 3	11	磨石	安山岩	配石土坑群	117	88	60	920		
—	12	礫	安山岩	配石土坑群	120	97	76	1,010		
—	13	礫	安山岩	配石土坑群	96	81	56	640		
—	14	礫	安山岩	配石土坑群	95	71	60	540		
—	15	礫	アブライト	配石土坑群	96	84	50	590		
—	16	礫	安山岩	配石土坑群	90	76	39	340		
47 2	17	磨石	安山岩	配石土坑群	95	68	40	480	半分欠	
—	18	礫器	砂岩	配石土坑群	144	65	57	700		
47 4	19	凹石	安山岩	配石土坑群	146	114	70	1,420		
47 8	20	凹石	凝灰岩	配石土坑群	276	220	126	8,600	半分欠	
—	21	台石	安山岩	配石土坑群	248	188	68	4,040		
46 5	22	凹石	安山岩	配石土坑群	160	150	81	2,220		
46 7	23	台石	安山岩	配石土坑群	420	264	126	2,420		
47 5	24	凹石	安山岩	配石土坑群	87	85	66	500		
—	黒曜石1	原石	黒曜石	配石土坑群	45	43	21	60		
48	黒曜石2	原石	黒曜石	配石土坑群	66	48	26	80		
—	黒曜石3	原石	黒曜石	配石土坑群	51	40	32	70		
—	黒曜石4	原石	黒曜石	配石土坑群	46	35	24	50		
—	黒曜石5	原石	黒曜石	配石土坑群	61	44	38	120		
46 1	1	磨石	安山岩	1号配石土坑	145	90	62	1,170		
—	1	礫	凝灰岩	3号配石土坑	118	87	54	540	裏面割れ	
46 6	1	台石	安山岩	5号配石土坑	346	210	90	1,180	磨り痕・凹みあり	
46 4	2	凹石	安山岩	5号配石土坑	96	75	42	420		
46 2	3	凹石	安山岩	5号配石土坑	128	75	40	600		
46 3	4	凹石	安山岩	5号配石土坑	123	62	60	540		
—	1	礫	安山岩	7号配石土坑	95	69	47	380	半分欠	
—	1	石剣	粘板岩	A13	51	27	4	7	破片	
—	2	加工痕ある剥片	粘板岩	A13	69	41	5	20		
—	3	加工痕ある剥片	ホルンフェルス	A14	150	36	14	100		
50 10	5	打製石斧	粘板岩	A14	130	61	26	280		
49 7	4	磨石	安山岩	A14	56	56	44	200		
50 13	1	打製石斧	砂岩	A14	133	93	20	315		
50 2	2	打製石斧	安山岩	A14	118	67	25	300	上部欠	
49 5	1	石錐	安山岩	A18	58	40	12	200		
50 4	1	打製石斧	ホルンフェルス	Z18	83	47	20	140		
49 3	2	磨製石斧	玄武岩	Z18	113	47	34	280	上部欠	
49 2(マフ1)	3	磨製石斧	玄武岩	Z18	75	36	15	70		
49 1	4	石棒	貢岩	Z18	90	30	22	90	破片	
50 11	—	打製石斧	貢岩	Z18	137	60	25	90		
50 7	2	打製石斧	粘板岩	Z19	101	54	15	120		
49 6	—	凹石	安山岩	Z19	111	93	66	825		
—	3	打製石斧	貢岩	Z19	72	36	17	45	上部欠	
50 8	—	打製石斧	粘板岩	B10	88	72	11	100		
50 6	—	打製石斧	ホルンフェルス	B12	110	46	15	80		
50 5	1	打製石斧	粘板岩	B13	109	58	20	140		
50 12	3	打製石斧	砂岩	B13	113	67	15	130		
50 9	1	打製石斧	粘板岩	B14	99	75	19	170		
50 1	2	打製石斧	粘板岩	B14	134	73	28	380		
49 8	3	凹石	安山岩	B14	83	65	51	260	裏面割れ	
—	1	加工痕ある剥片	泥岩	1号土坑	59	102	21	120		
—	2	磨石	安山岩	1号土坑	76	70	49	340		
—	3	礫	アブライト	1号土坑	118	89	46	620		
—	4	磨石	安山岩	1号土坑	140	103	60	1,230		

第5表(1) 出土石器一覧

図	No.	取上No.	器種	石材	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	破損状況	備考
	—	1	磨石	安山岩	3号土坑	171	119	82	2,200		
	—	2	磨石	安山岩	3号土坑	245	88	50	860		
45	3	3	凹石	安山岩	3号土坑	195	134	201	3,220		
—	—	4	礫	安山岩	3号土坑	207	156	114	5,090		
—	—	5	礫	安山岩	3号土坑	103	103	100	1,380		
44	1	6	磨石	安山岩	3号土坑	156	108	50	1,160		
44	2	7	磨石	安山岩	3号土坑	124	95	69	1,280		
45	2	8	凹石	安山岩	3号土坑	135	153	125	2,990		
—	—	9	磨石	安山岩	3号土坑	90	54	38	280		
44	4	10	凹石	安山岩	3号土坑	131	85	49	460		
44	7	11	礫器	玄武岩	3号土坑	81	90	45	270		
—	—	12	礫	安山岩	3号土坑	105	67	27	270	15と接合	
—	—	13	礫	安山岩	3号土坑	100	68	55	460		
—	—	14	礫	安山岩	3号土坑	141	127	69	1,620		
—	—	15	礫	安山岩	3号土坑	130	101	27	460	12と接合	
45	4	16	台石	安山岩	3号土坑	234	124	—	3,670	裏面全面割れ	
—	—	17	礫	ホルンフェルス	3号土坑	176	161	74	2,620		
—	—	18	礫	安山岩	3号土坑	178	118	80	2,100		
—	—	19	台石	安山岩	3号土坑	280	142	118	7,350		
—	—	20	礫	安山岩	3号土坑	190	150	90	3,880	半分欠	
—	—	21	礫	安山岩	3号土坑	128	74	42	280	破片	
—	—	22	礫	安山岩	3号土坑	177	150	74	2,880		
44	5	23	磨石	安山岩	3号土坑	115	73	62	680		
—	—	24	磨石	安山岩	3号土坑	128	92	65	910		
—	—	25	磨石	安山岩	3号土坑	111	85	44	600		
—	—	26	礫	安山岩	3号土坑	198	122	86	2,830		
—	—	27	礫	安山岩	3号土坑	167	151	110	3,780		
—	—	28	礫	安山岩	3号土坑	210	156	96	2,980		
—	—	29	礫	安山岩	3号土坑	188	119	83	2,540		
—	—	30	磨石	安山岩	3号土坑	131	63	59	780		
—	—	31	磨石	安山岩	3号土坑	128	106	78	1,270		
—	—	32	礫	安山岩	3号土坑	121	145	58	1,260	半分欠	
—	—	33	礫	安山岩	3号土坑	140	78	69	900		
—	—	34	礫	安山岩	3号土坑	185	156	92	3,460		
44	6	35	凹石	安山岩	3号土坑	132	108	66	1,200		
—	—	36	礫	安山岩	3号土坑	170	187	116	3,800	半分欠	
—	—	37	礫	安山岩	3号土坑	137	133	97	2,120		
—	—	38	礫	玄武岩	3号土坑	105	90	70	600		
—	—	39	礫	安山岩	3号土坑	74	48	39	160		
—	—	40	礫	安山岩	3号土坑	194	155	106	3,760		
—	—	41	礫	安山岩	3号土坑	200	140	84	3,580		
—	—	42	礫	安山岩	3号土坑	105	115	120	740	破片	
—	—	43	礫	安山岩	3号土坑	192	131	37	1,080	破片	
45	1	44	台石	安山岩	3号土坑	187	168	68	3,300		
—	—	45	礫	安山岩	3号土坑	156	129	83	1,980		
44	3	46	磨石	安山岩	3号土坑	86	82	59	620		
45	5	1	敲石	安山岩	1号配石	170	103	44	1,060		
45	7	3	削器	粘板岩	1号配石	152	53	11	80		
45	6	8	敲石	安山岩	1号配石	174	106	55	1,560		
45	8	9	台石	安山岩	1号配石	365	218	124	12,600	凹みあり	
49	11	ダフ1	打製石斧	粘板岩	A18~Z19	100	47	16	100		
49	9	ダフ2	打製石斧	粘板岩	A18~Z19	95	65	19	160		
49	10	ダフ3	打製石斧	粘板岩	A18~Z19	—	—	—	—	4と接合	
49	10	ダフ4	打製石斧	粘板岩	A18~Z19	105	74	19	140	3と接合	
—	—	5	磨石	安山岩	A18~Z19	87	82	77	650		
—	—	6	磨石	凝灰岩	A18~Z19	125	90	67	990		
—	—	7	礫器	砂岩	A18~Z19	115	102	62	970		
—	—	8	凹石	凝灰岩	A18~Z19	155	101	51	920		
—	—	9	台石	安山岩	A18~Z19	224	194	97	5,560		
—	—	10	磨石	安山岩	A18~Z19	81	65	43	300		
—	—	11	磨石	安山岩	A18~Z19	112	103	76	1,130		
—	—	12	凹石	凝灰岩	A18~Z19	205	156	105	3,630		
49	4	1	石匙	粘板岩	遺構外	73	108	15	80		
50	3	2	打製石斧	砂岩	遺構外	110	64	17	160		

第5表(2) 出土石器一覧

(黒曜石)

出土地点	石 鎌												石鎌未成品	スクレイパー	ピエスエスキュー	石核	剥片	UF	RF					
	I類				II類				III類															
	a1	a2	b1	b2	c1	c2	a1	a2	b1	b2	c1	c2												
SD1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	10	0	4					
SD2フク土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
SD3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2'	0	0	0	4	0	2					
15住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0					
16住B区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	12	2					
16住D区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0					
17住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21	1					
A14	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1	3	4	3	0	1	6	226	15					
A18	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	92	7					
A19	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	38	3					
Z18	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	3	0	0	4	90					
Z19	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	8	2	1	5	165					
Z20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2'	0	0	2	29					
Z21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0					
17住SD2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0					
SD4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0					
01住	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0					
B13	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	93	0					
B14	1	2	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	5(3')	0	1	3	203					
A13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0					
B11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0					
A11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
A12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0					
B09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
A10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2					
B10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1					
B08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
B12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0					
11住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0					
04住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					
13住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					
07住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3					
13住カマド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5					
14住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0					
10住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
17住SD1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					
17住SD3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					
17住SD5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	12	0	0					
A18pit1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
A17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	4					
B15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					
Z17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0					
SD2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0					
17住SD4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	0					
17住SD6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0					
燒土址(A17)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
02住カマド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					
05住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0					
16住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	16					
16住A区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0					
16住C区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0					

(チャート)

出土地点	石 鎌												石鎌未成品	スクレイパー	ピエスエスキュー	石核	剥片	UF	RF					
	I類				II類				III類															
	a1	a2	b1	b2	c1	c2	a1	a2	b1	b2	c1	c2												
1住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
15住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
16住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					
16住B区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0					
16住D区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
17住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
17住SD2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
17住SD4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					
17住SD6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
SD1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
SD2フク土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					
SD3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
SD4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
A14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
A17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
A18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
A18pit1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0					
A19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
B10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
B13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
B14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
Z18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0					
Z19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0					
Z20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
Z21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0					

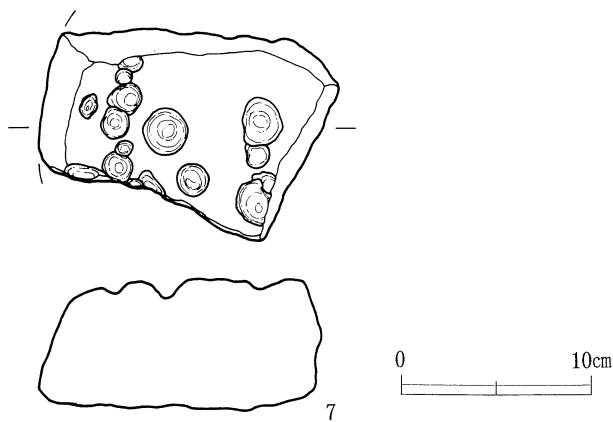
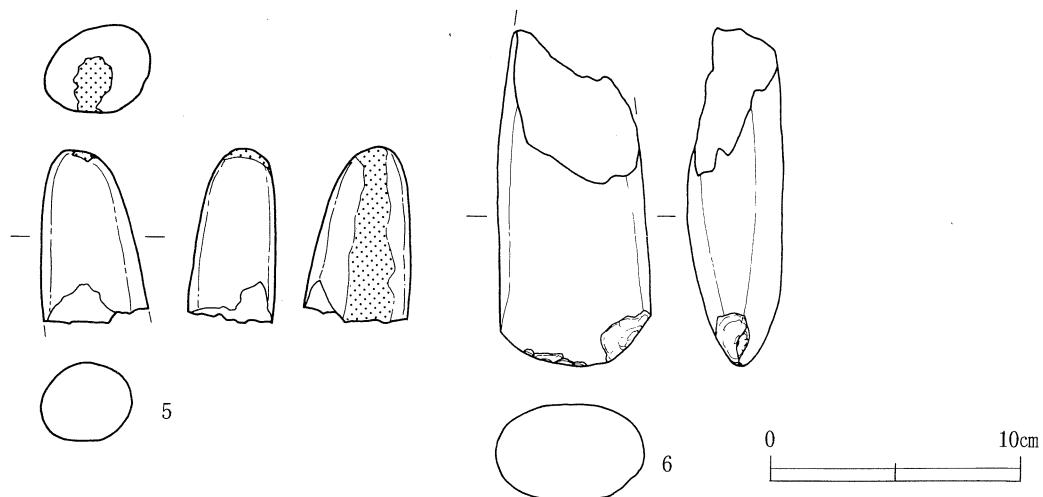
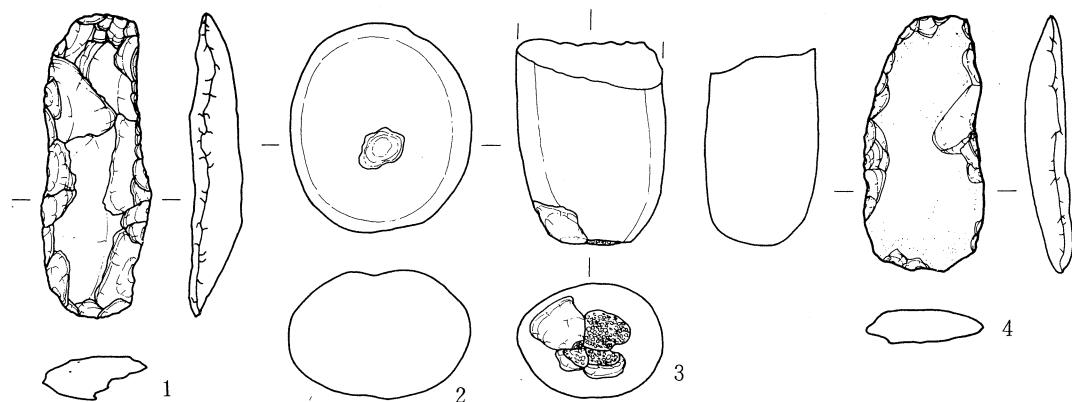
第5表(3) 出土石器一覧

図	No.	取上No.	器種	石 材	赤色化	黒色化	はじけ	ひび	敲打痕	磨り面	凹み(表:裏)	破損状況
—	1	磨石	安山岩	×	×	×	×	×	○	×		
—	2	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
45	3	3	凹石	安山岩	○	○	×	×	×	×	3:3	
—	4	礫	安山岩	○	○	○	×	×	○	×		
—	5	礫	安山岩	×	○	×	×	○	○	×		
44	1	6	磨石	安山岩	○	×	○	×	×	×	×	
44	2	7	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	×	×	
45	2	8	凹石	安山岩	○	×	○	×	×	×	3:3	
—	9	磨石	安山岩	×	×	×	×	×	○	×		
44	4	10	凹石	安山岩	×	○	×	×	×	×	4:8	
44	7	11	礫器	玄武岩	×	×	×	×	×	×	×	
—	12	礫	安山岩	○	×	×	×	×	×	×	15と接合	
—	13	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	14	礫	安山岩	×	×	×	×	○	○	×		
—	15	礫	安山岩	○	×	×	×	×	×	×	12と接合	
45	4	16	台石	安山岩	○	○	×	×	×	×	裏面全面割れ	
—	17	礫	ホルンフェンス	×	○	×	×	×	○	×		
—	18	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×		
—	19	台石	安山岩	×	○	○	×	×	○	×		
—	20	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×	半分欠	
—	21	礫	安山岩	×	○	○	×	×	○	×	破片	
—	22	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×		
44	5	23	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	×	×	
—	24	磨石	安山岩	○	×	×	×	×	○	×		
—	25	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	26	礫	安山岩	×	○	○	×	×	○	×		
—	27	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	28	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	29	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×		
—	30	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	31	磨石	安山岩	○	○	×	×	×	○	×		
—	32	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×	半分欠	
—	33	礫	安山岩	×	○	○	×	×	○	×		
—	34	礫	安山岩	○	○	○	×	×	○	×		
44	6	35	凹石	安山岩	×	○	×	×	×	×	4:4	
—	36	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×	半分欠	
—	37	礫	安山岩	○	×	×	×	×	○	×		
—	38	礫	玄武岩	×	×	×	×	×	×	×		
—	39	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	40	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
—	41	礫	安山岩	○	○	×	×	×	○	×		
—	42	礫	安山岩	○	×	○	×	×	○	×	破片	
—	43	礫	安山岩	○	○	○	×	×	×	×	破片	
45	1	44	台石	安山岩	×	○	×	○	×	×	×	
—	45	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	×		
44	3	46	磨石	安山岩	×	○	×	×	×	×	×	

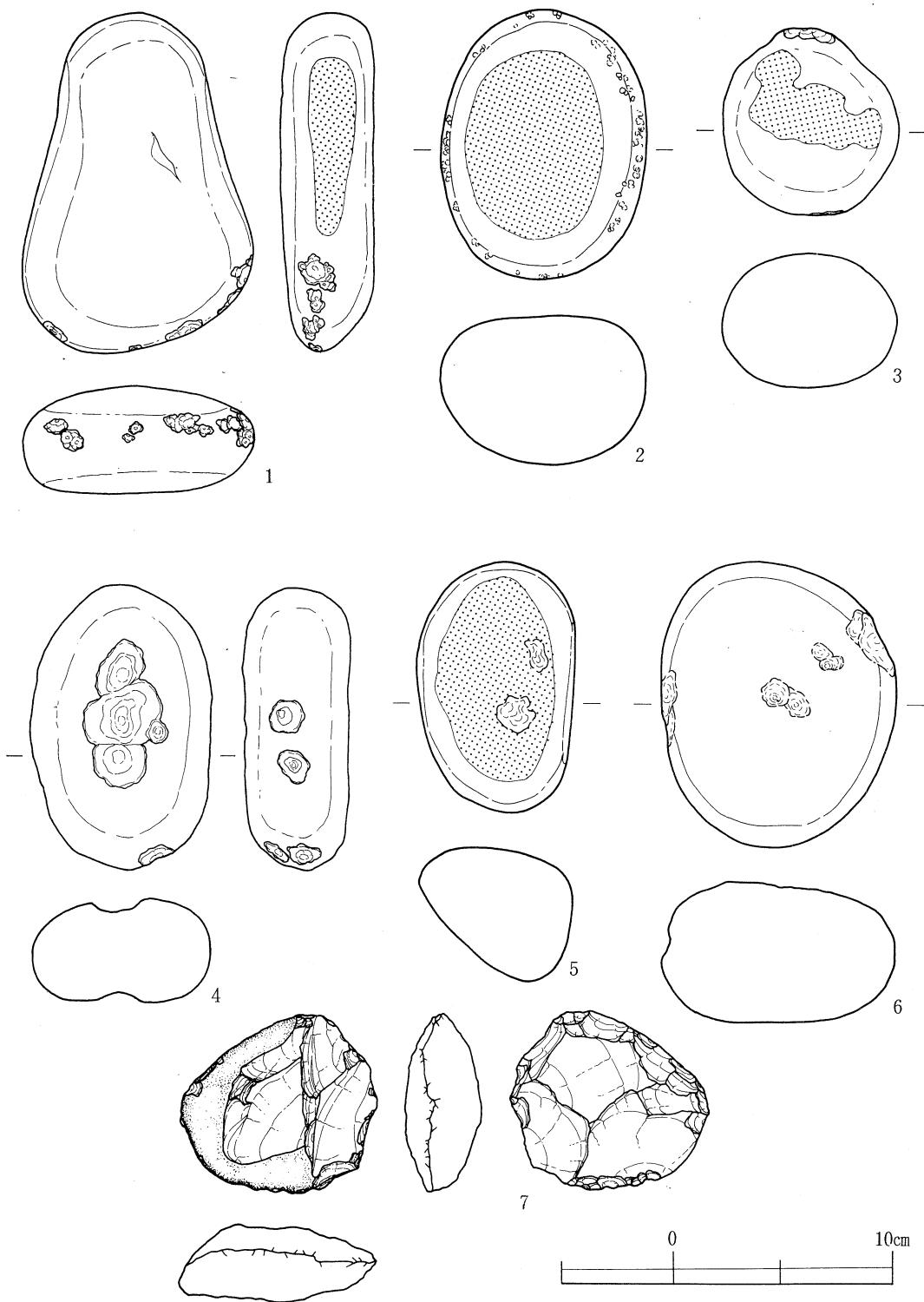
第6表 3号土坑出土石器

図 No.	取上No.	器種	石 材	赤色化	黒色化	はじけ	ひび	敲打痕	磨り面	凹み(表:裏)	破損状況
47 9	1	台石	安山岩	×	×	×	×	×	○	0:2	
—	2	磨石	安山岩	×	×	×	×	○	○	0:2	
47 6	3	凹石	安山岩	○	×	×	×	○	○	1:2	
—	4	礫	安山岩	×	×	×	×	×	○	0:2	
47 1	5	磨石	安山岩	×	×	×	×	○	○	0:4	
—	6	剥片	泥岩	—	—	—	—	—	—	—	
46 7	7	石皿	安山岩	○	×	×	×	×	○	—	破片
—	8	礫	凝灰岩	×	×	×	○	○	○	1:3	
—	9	礫	安山岩	×	×	×	×	○	○	1:2	
—	10	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	0:4	
47 3	11	磨石	安山岩	×	×	×	×	○	○	0:4	
—	12	礫	安山岩	○	×	×	×	○	○	1:2	
—	13	礫	安山岩	×	×	×	×	○	○	0:3	
—	14	礫	安山岩	×	○	×	×	×	○	0:3	
—	15	礫	アブライト	○	×	×	×	×	○	0:2	
—	16	礫	安山岩	○	×	×	×	○	○	1:2	
47 2	17	磨石	安山岩	×	×	×	×	×	○	0:4	半分欠
—	18	石刻	砂岩	×	×	×	×	×	×	0:5	
47 4	19	凹石	安山岩	○	×	×	×	○	×	1:4	
47 8	20	凹石	凝灰岩	×	×	×	×	×	○	3:3	半分欠
—	21	台石	安山岩	×	×	×	×	×	×	1:1	
5	22	凹石	安山岩	×	×	×	×	×	×	3:5	
7	23	台石	安山岩	×	×	×	×	×	×	0:3	
5	24	凹石	安山岩	×	×	×	×	×	×	1:3	
—	黒曜石1	原石	黒曜石	配石土坑群		—	—	—	—	—	
48 —	黒曜石2	原石	黒曜石	配石土坑群		—	—	—	—	—	
	黒曜石3	原石	黒曜石	配石土坑群		—	—	—	—	—	
	黒曜石4	原石	黒曜石	配石土坑群		—	—	—	—	—	
	黒曜石5	原石	黒曜石	配石土坑群		—	—	—	—	—	

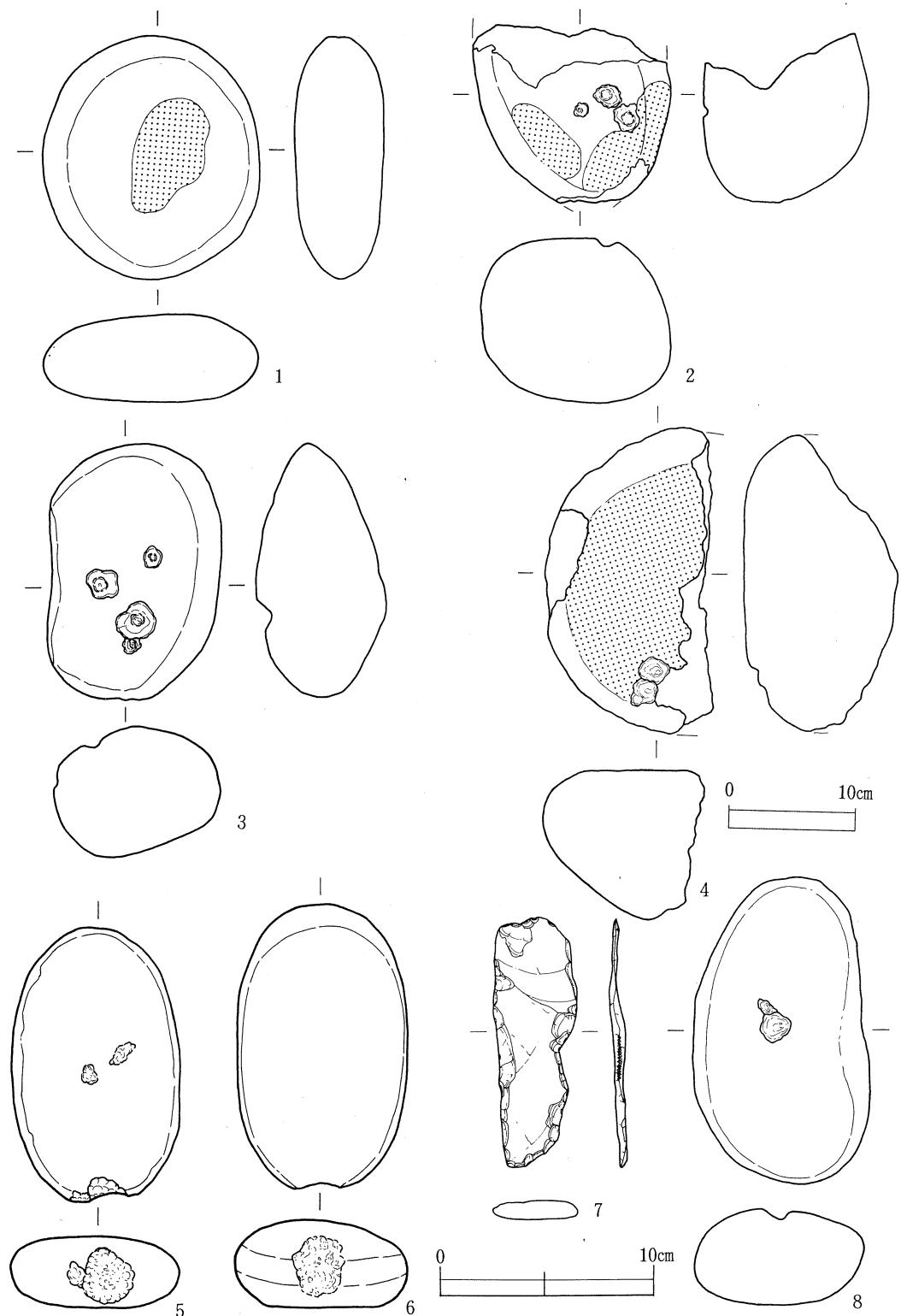
第7表 配石土坑群出土石器



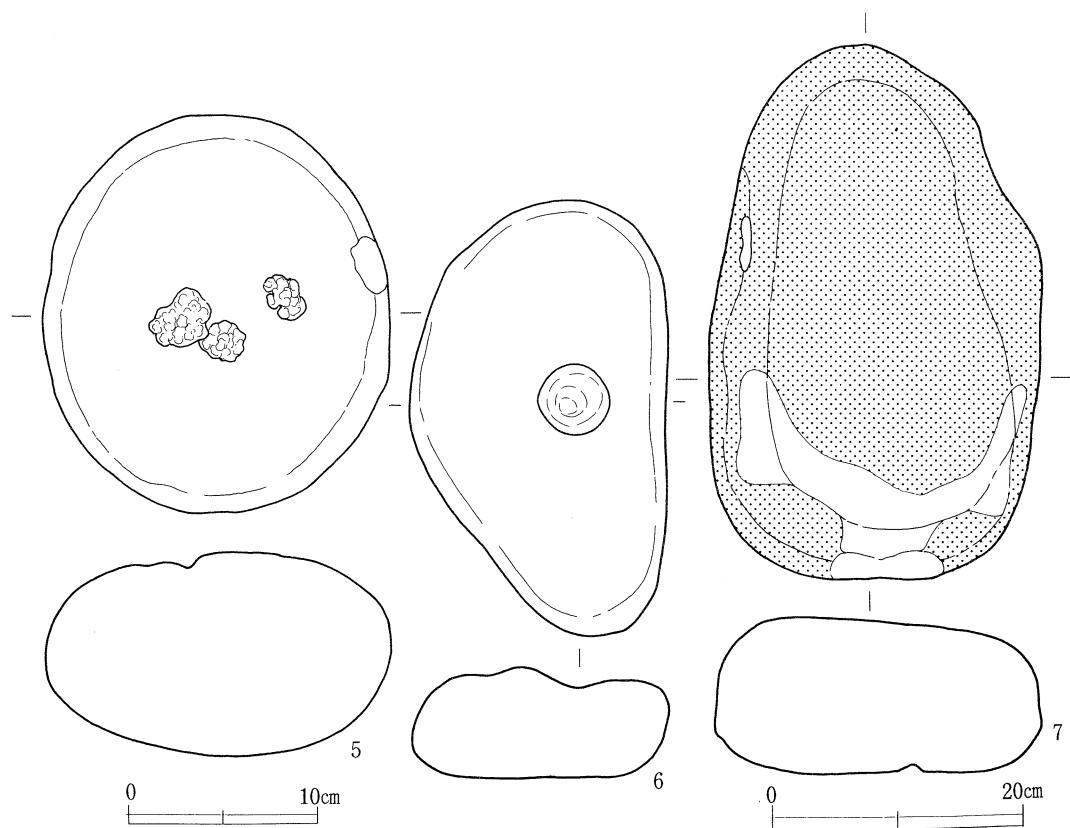
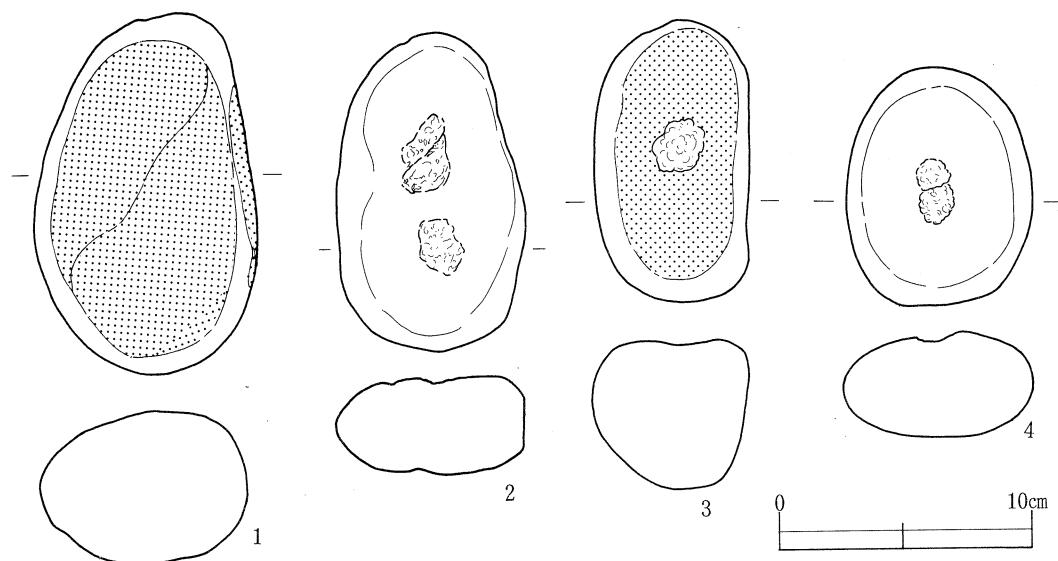
第43図 3・4・5・6・9・16号住居址出土石器(1/3・1/4)



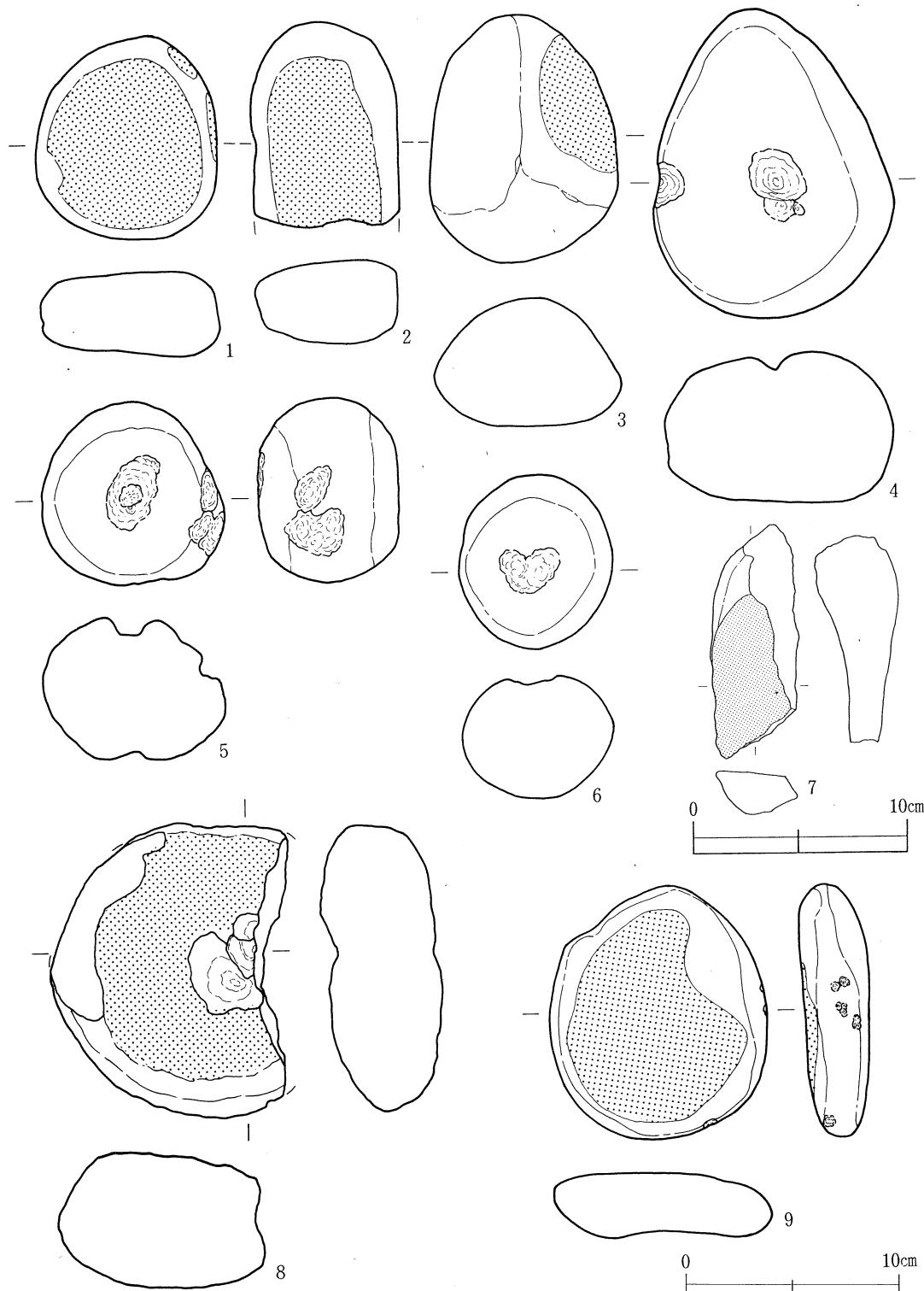
第44図 3号土坑出土石器(1／3)



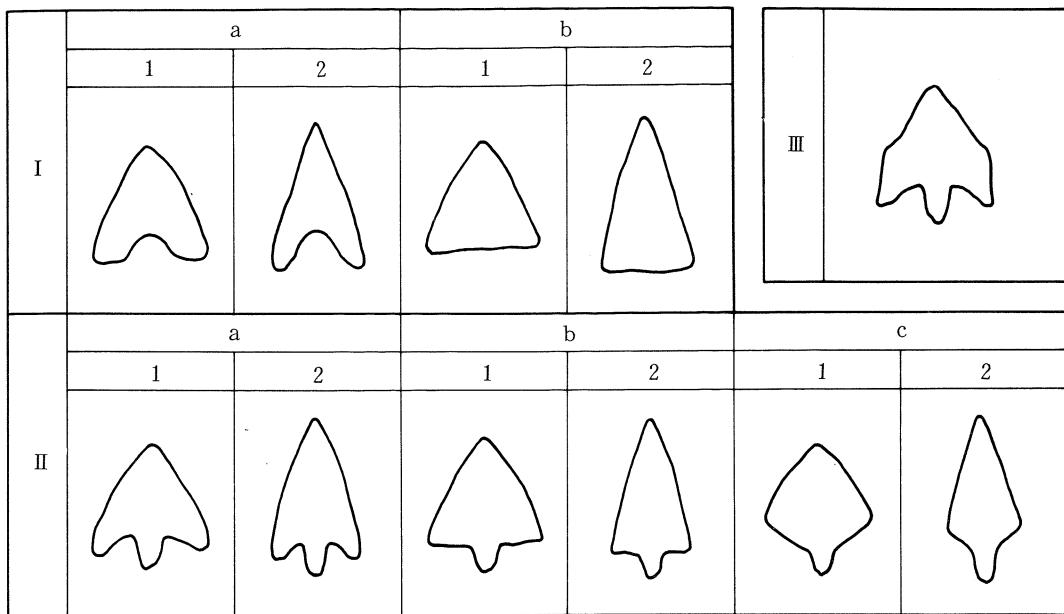
第45図 3号土坑・1号配石出土石器 (1/10・1/3)



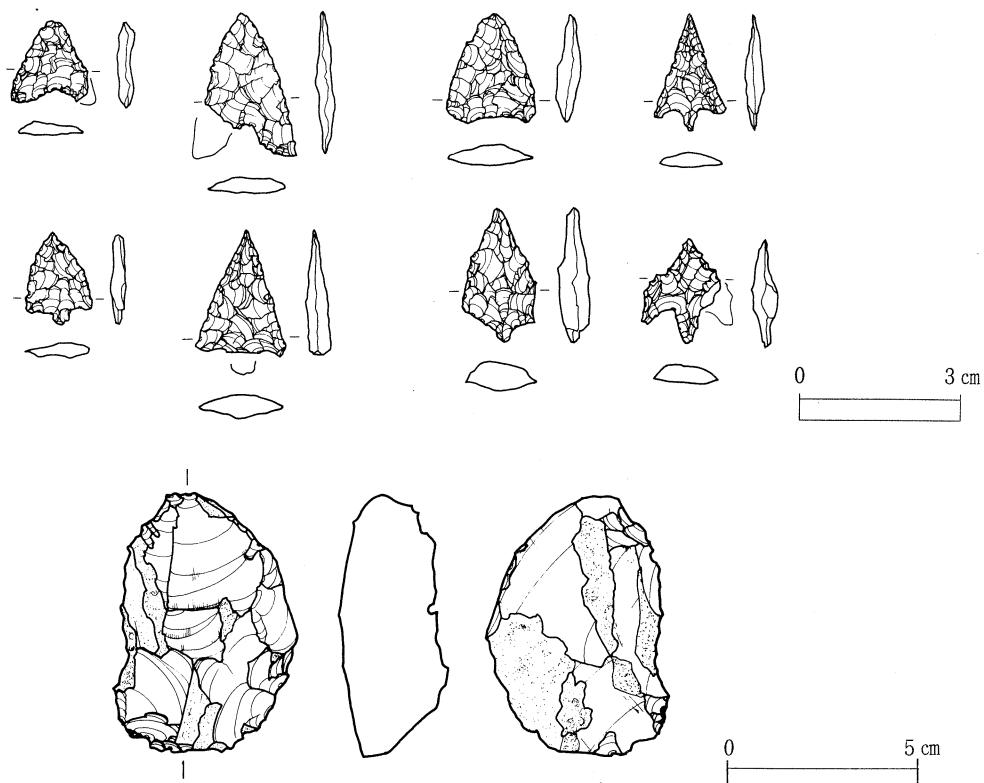
第46図 配石土坑群出土石器(1) (1/3・1/6)



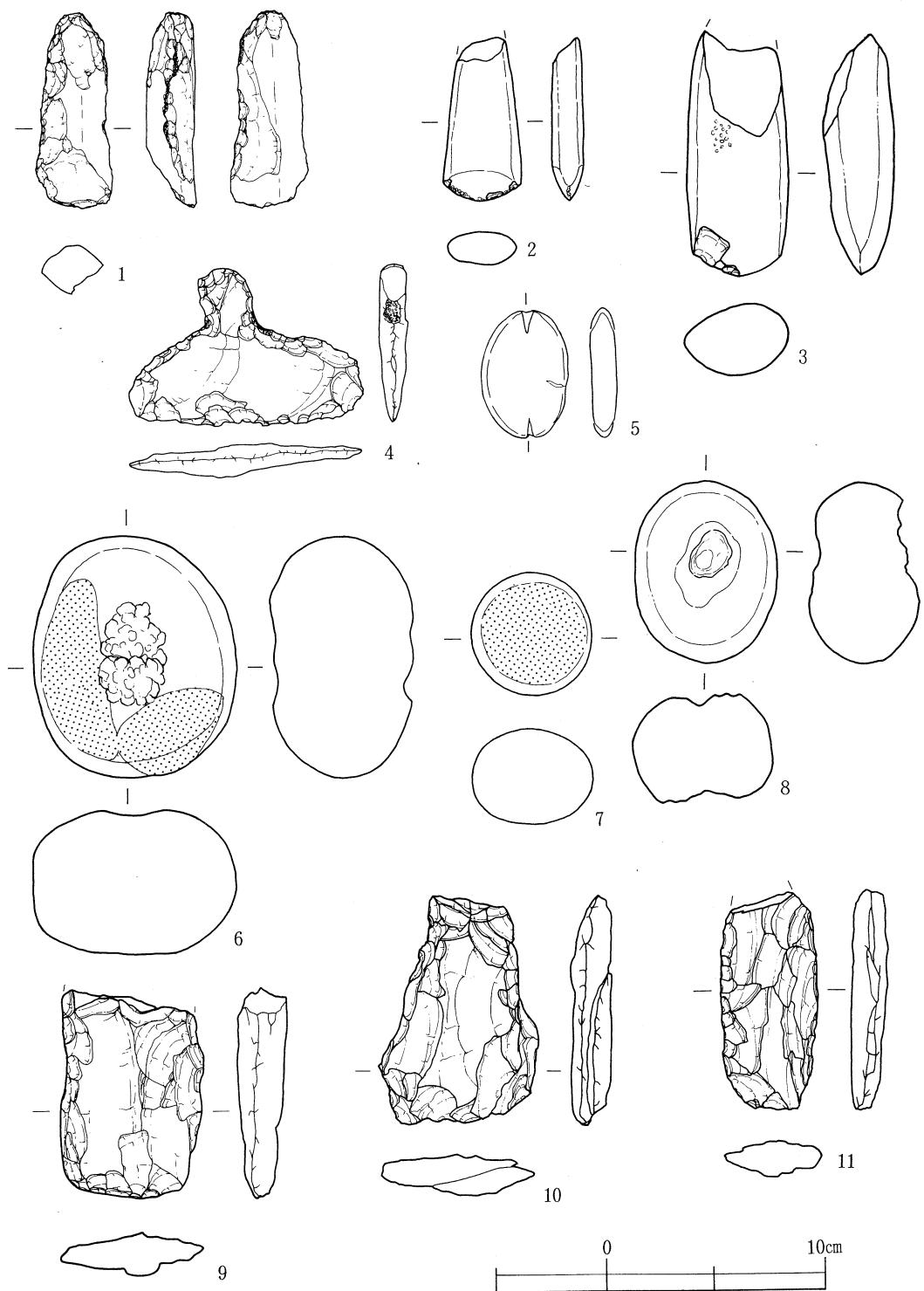
第47図 配石土坑群出土石器(2) (1/3・1/6)



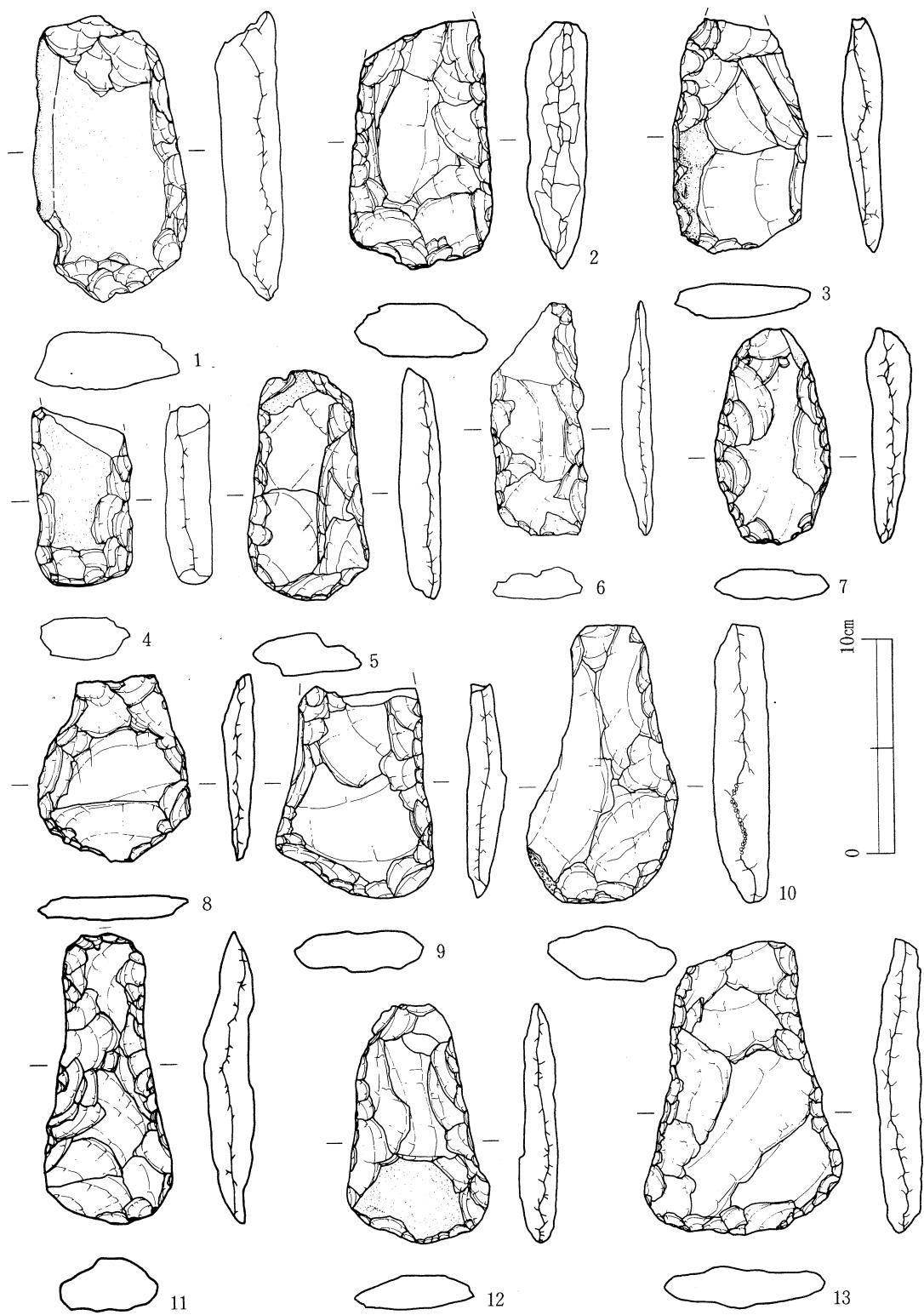
第8図 石鎚分類表



第48図 遺構外出土石鎚・黒曜石 (2/3・1/2)



第49図 遺構外出土石器 (1/3)



第50図 遺構外出土石器 (1 / 3)

第5節 平安時代の遺物

平安時代の遺物の堅穴住居址を中心に出土している。各遺構別の遺物は一覧表でみていくことにし、ここでは出土土器によって各遺構のおおまかな時間的位置付けを概観しておく。なお、編年の基準は『甲斐型土器－その編年と年代－』（山梨県考古学協会1992年）に拠った。

2号住居址はXII期で、伴出の灰釉陶器片は光ヶ丘1号窯式～大原2号窯式と思われ、10世紀前半～中頃。3号住居址・4号住居址は坏体部内面に暗文がありX期。5号住居址・6号住居址は坏体部内面の暗文が無くXI期～XII期の10世紀前半頃。6号住居址からは灰釉陶器硯破片が出土している。7号住居址の灰釉陶器皿は黒笹90号窯式かも知れず、9世紀後半～10世紀。8号住居址は不明。9号住居址は肥厚した口縁部の坏によりXI期の10世紀前後。本住居址からは石鎧が出土している。10号住居址はXI期～XII期。本遺跡内で一番遺物出土量の多い11号住居址は肥厚した口縁部の坏によりXI期の10世紀前後。11号住居址は内黒土器が比較的多く、また搬入品と思われる灰白色の刷毛整形甕の破片が出土している。12号住居址はやや不明ながらX期～XI期。13号住居址はXI期で10世紀前後であるが、伴出の灰釉陶器片は大原2号窯式と思われる。13号住居址からは陰刻雲形文の施された綠釉陶器段皿破片、墨書土器が「征」？が出土している。14号住居址・15号住居址はXI期～XII期の10世紀前半頃。5号掘立柱建物址の柱穴掘り方から出土した坏は体部内面に暗文がありX期に比定でき、掘立柱建物址は住居址よりもやや古く9世紀代に位置付けられよう。

〈2号住居址出土遺物〉（第51図）

(単位: cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色 調 (内面) (外 面)	整 形・特 徴・その他の 記述	残存率
			器高・口径・底径					
1	土師器	坏	3.8 , 11.9 , 4.6		赤・白色粒子を含む	明赤褐色	外面一体部ヘラ削り、底部ヘラ削り	1/3残
2	土師器	鉢	— , 25.0 , —		赤・白・黒色粒子と雲母を含む	黒色 橙色	内面－ていねいな磨き 外面－横撫で 内黒土器	1/5残
3	灰釉 陶器	台付 碗	— , — , 7.2		白色粒子と少量の黒色粒子を含む	灰オリーブ色	高台は細長く、外側下半に稜を有し、内側はやや内湾、体部下半はヘラ削り、釉は浸けがけか？	底部破片
4	灰釉 陶器	段皿	— , 17.0 , —		白・黒色粒子を含む	灰オリーブ色	釉は浸けがけ？刷毛ぬり？	口縁部破片

〈3号住居址出土遺物〉(第52図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	須恵器	壺	—	—	白・黒色粒子を含む	褐灰色	外面—僅かに削り痕がみられる	胴部破片
2	土師器	壺	4.3	11.4	4.5	赤・白色粒子を含む	橙色	面内—放射状暗文 外面—体部ヘラ削り 底部ヘラ削り
3	土師器	皿	—	—	6.0	赤・白色粒子と雲母を含む	橙色	底部回転糸切り痕
4	土師器	甕	—	33.0	—	雲母、白・赤・黒色粒子を含む	橙色	口縁—横撫で 内面—撫で、指頭痕あり 外面—縦斜め方向刷毛目

〈4号住居址出土遺物〉(第53図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	須恵器	甕	—	—	白色・黒色粒子を含む	にぶい赤色 にぶい赤褐色～赤黒色	外面—叩き目	胴部破片
2	土師器	壺	4.0	11.2	4.5	赤・白色粒子と少量の雲母を含む	橙色	面内—花弁状暗文 外面—体部下半ヘラ削り、墨書あり 底部回転糸切り後ヘラ削り
3	土師器	盤状壺	3.5	12.7	7.6	赤・白色粒子と雲母を含む	橙色 浅黄橙～橙色	内面—みこみ部磨きがみられる 外面—体部下半～底部回転ヘラ削り
4	土師器	皿	2.6	12.6	6.6	白・赤色粒子と少量の雲母を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	外面—体部下部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り
5	土師器	皿	2.5	13.7	5.0	赤・白色粒子と雲母を含む	橙色	内面—渦巻き状暗文 外面—体部下部回転ヘラ削り 底部回転糸切り
6	土師器	甕	—	27.6	—	粗い雲母、白・黒・赤色粒子を含む	にぶい赤褐色	内面—口縁～胴部横刷毛目 外面—口縁横撫で 胴部、縦刷毛目

〈5号住居址出土遺物〉(第54図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	土師器	壺	2.9	12.0	5.0	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	外面—体部下部ヘラ削り 底部—回転糸切り後ヘラ削り
2	土師器	壺	3.6	12.9	5.2	赤・白色粒子を含む	橙色	外面—体部下部ヘラ削り
3	土師器	壺	—	—	6.0	赤・白色粒子を含む	にぶい褐色 橙色	内面—暗文がみられる 外面—回転糸切り痕
4	土師器	壺	—	—	6.0	赤・白色粒子を含む	黒色 橙色	内黒土器 外面—体部ヘラ削り
5	土師器	壺	6.1	17.7	6.4	白・赤色粒子を含む	にぶい黄橙色	外面—体部下部ヘラ削り 底部—ヘラ削り

番号	種類	器形	法量		胎 土	色 調 (内面) (外面)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径・底径					
6	土師器	甕	—	, 27.5, —	白色粒子と雲母を含む	明赤褐色 橙色	内面-口縁～体部横刷毛目 外面-頸部、棒状工具痕がみられる 体部縦刷毛目	破片
7	土師器	甕	—	, 25.3, —	白・赤色粒子と雲母を含む	明赤褐色	内面-口縁～体部にかけて横刷毛目 外面-体部縦刷毛目	破片
8	土師器	小型甕	—	, 14.4, —	白・赤・黒色粒子と雲母を含む	灰褐色 赤褐色	内面-横刷毛目と指頭痕がみられる 外面-横撫でと指頭痕がみられる	口縁～体部破片
9	土師器	甕	—	, —, 8.0	白・黒色粒子と雲母を含む	にぶい橙色 褐色	内面-刷毛目 外面-縦刷毛目 底部-木葉痕	体部～底部破片
10	土師器	羽釜	—	, 27.0, —	白・赤色粒子と雲母を含む	にぶい赤褐色 にぶい橙色～暗赤褐色	内面-横刷毛目と指頭痕がみられる 外部-縦刷毛目	破片

〈6号住居址出土遺物〉(第55図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色 調 (内面) (外面)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径・底径					
1	土師器	坏	3.9	, 12.4, 4.4	白・赤・黒色粒子を含む	橙色	外面-体部下半ヘラ削り 底部-回転糸切り後ヘラ削り	1/2残
2	土師器	坏	3.6	, 11.4, 4.6	赤・白・黒色粒子を含む	にぶい橙色	外面-体部下半ヘラ削り 底部-ヘラ削り	破片
3	土師器	坏	—	, —, 5.0	赤・黒色粒子を含む	黒色 にぶい黄橙色	内黒土器 内面-暗文がみられる 外面-体部下半ヘラ削り 底部-ヘラ削り	破片
4	灰釉陶器	硯	—	, —, —	白・黒色粒子を含む	灰白色	内面-撫で痕多数、使用痕 縁に薄く釉がかかっている 外面-全体に釉がかかっている 足が剥離した痕、足形成時の工具痕	1/3残

〈7号住居址出土遺物〉(第56図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色 調 (内面) (外面)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径・底径					
1	土師器	坏	—	, 14.2, —	赤色粒子を含む	明赤褐色	外面-体部下半ヘラ削り	破片
2	土師器	坏	—	, 14.4, —	赤・黒色粒子を含む	明赤褐色	外面-体部下半ヘラ削り	破片
3	灰釉陶器	碗	—	, —, 6.8	黒・白色粒子を含む	灰白色	内面-釉がかかっている 付高台	破片
4	灰釉陶器	碗	—	, —, 5.6	黒・白色粒子を含む	灰白色	付高台	破片
5	土師器	皿	2.1	, 12.7, 4.0	白・黒・赤色粒子を含む	明赤褐色	外面-体部ヘラ削り 底部-ヘラ削り	1/5残
6	灰釉陶器	皿	2.1	, 13.7, 7.0	白・黒色粒子を含む	灰オリーブ色 灰黄色	内面-釉がかかっている 外面-回転ヘラ削り 付高台	4/5残

〈9号住居址出土遺物〉 (第57図)

(単位 : cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調 (内面) (外面)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径	底径				
1	須恵器	甕	— , — , —		白・黒色粒子を含む	褐灰色 黒褐色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
2	須恵器	甕	— , — , —		白・黒色粒子を含む	褐灰色 灰白色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
3	須恵器	甕	— , — , —		白・黒色粒子を含む	オリーブ黒色 暗褐色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
4	土師器	坏	— , 15.0 , —		赤・白・黒色粒子と雲母を含む	橙色 にぶい赤褐色	外面-一体部ヘラ削り	1/5残
5	土師器	坏	— , — , 4.6		白・赤・黒色粒子を含む	橙色 にぶい赤褐色	外面-一体部ヘラ削り 底部-回転糸切り痕	体部~底部破片
6	土師器	坏	5.0 , 13.2 , 5.0		赤色粒子を多く含む	明赤褐色	外面-一体部下半ヘラ削り 底部-回転糸切り後ヘラ削り	3/5残
7	土師器	坏	3.2 , 12.6 , 5.4		赤色粒子を含む	橙色	外面-一体下部ヘラ削り	破片
8	土師器	坏	— , 11.4 , —		赤・白色粒子を含む	橙色	外面-一体部下半ヘラ削り	破片
9	土師器	坏	— , 14.6 , —		赤・白色粒子を含む	黑色 褐色	内黒土器 外面-一体部下半ヘラ削り	1/5残
10	土師器	皿	2.3 , 12.6 , 4.4		白・赤色粒子を含む	橙色	外面-一体部下半ヘラ削り	2/5残
11		石鋤	タテヨコ 厚 4.2 , 3.9 , 0.8			緑色系	蛇紋岩 裏面4角に2個づづ穴がある 表は磨かれている	
12	鉄							
13	鉄	釘						

〈10号住居址出土遺物〉 (第58図)

(単位 : cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調 (内面) (外面)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径	底径				
1	須恵器	甕	— , — , —		白・赤色粒子を含む	褐灰色 暗褐色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
2	須恵器	甕	— , — , —		白・赤色粒子を含む	黒褐色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
3	須恵器	坏	— , 11.0 , —		白・黒・赤色粒子を含む	橙色	外面-一体下半部にヘラ削り	口縁部破片
4	土師器	坏	— , 11.9 , —		白・黒・赤色粒子を含む	橙色	内外面-横撫で	口縁部破片
5	土師器	甕	— , — , 8.2		雲母・白・赤色粒子を含む	明赤褐色 暗赤褐色	内面-横刷毛目、指頭痕あり 外面-綻刷毛目、底部に木葉痕あり	胴下部~底部破片
6	土師器	甕	— , 16.6 , —		雲母・白・黒・赤色粒子を含む	明赤褐色 にぶい赤褐色一部黒変	内面-横刷毛目 外面-綻刷毛目、指頭痕あり	口縁部破片
7	土師器	甕	— , 17.8 , —		白・黒・赤色粒子を含む	にぶい褐色	内面-横刷毛目 外面-綻刷毛目、磨滅により不鮮明	口縁部~胴上部破片
8	灰釉陶器	壺	— , — , —		白・黒色粒子を含む	灰白色 灰オリーブ灰	口クロ成形 外面-釉がかかっている (刷毛がけか?)	胴部破片

〈11号住居址出土遺物〉 (第59・60・61図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色 調 (内面 外顔)	整 形・特 徴・その他	残存率
			器高・口径・底径					
1	須恵器	蓋	—	—	白色粒子を含む	灰白色～黄灰色	転用覗 ロクロによる整形	外周部分 欠損
2	須恵器	小壺	—	—	白・黒色粒子を 含む	灰黄褐色	内面-ロクロ撫で 外面-ロクロ削り	胴部破片
3	須恵器	甕	—	24.0	黒・白色粒子を 含む	灰黄褐色～褐灰 色	ロクロ成形	口縁部破 片
4	須恵器	甕	—	—	赤・白・黒色粒 子を含む	にぶい橙色～灰 褐色 にぶい赤褐色～ 赤灰色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
5	須恵器	甕	—	—	白・赤色粒子を 含む	褐灰色	内面-撫で、當て具痕あり 外面-叩き目	破片
6	須恵器	甕	—	—	白・黒色粒子を 含む	灰色	転用覗 外面-叩き目	破片
7	須恵器	甕	—	—	白・黒・赤色粒 子を含む	灰褐色 褐灰色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
8	須恵器	甕	—	—	白・黒色粒子を 含む	灰色	内面-撫で 外面-叩き目	破片
9	土師器	蓋	鉢径2.2 —	—	赤・白色粒子を 含む	橙色	ロクロ整形	鉢部破片
10	土師器	坏	3.8	12.7	4.6	赤・白色粒子と 細かい雲母少量 を含む	橙色	内面-撫で 外面-体部下半と底部へラ削り
11	土師器	坏	4.4	12.5	5.0	雲母、白・赤色 粒子を含む	橙色、口縁部灰 オリーブ色 橙色	内面-撫で 外面-体部下半と底部へラ削り
12	土師器	坏	—	—	4.6	にぶい橙色～橙 色	内面-体部撫で、みこみ部ロクロ削り 外面-体部下半と底部へラ削り	2/5残
13	土師器	坏	4.2	14.4	5.0	粗い赤色粒子と 黒・白色粒子を 含む	明赤褐色	内面-撫で、暗文あり (磨滅により不鮮明) 外面-体部下半と底部へラ削り
14	土師器	坏	3.9	12.9	4.5	雲母、赤・白色 粒子を含む	橙色 にぶい褐色	内面-撫で 外面-体部下半と底部へラ削り
15	土師器	坏	—	11.9	—	粗い赤・黒色粒 子を含む	橙色	内面-撫で 外面-体部下半と底部へラ削り
16	土師器	坏	3.7	12.0	5.0	粗い黒・赤色粒 子を含む	明赤褐色	内面-撫で 外面-回転糸切り後外周へラ削り
17	土師器	坏	5.0	13.3	4.8	雲母、赤・白色 粒子を含む	橙色～にぶい赤 褐色 褐色	内面-撫で 外面-体部下半へラ削り 底部回転糸切り後へラ削り 器面がザラついている
18	土師器	坏	5.2	13.7	6.0	粗い赤色粒子を 含む	橙色	内面-撫で 外面-体部下半と底部へラ削り
19	土師器	坏	—	14.6	—	やや粗い赤色粒 子を含む	明赤褐色 赤褐色	内面-撫で 外面-体部下半へラ削り
20	土師器	坏	—	13.8	—	白色粒子を含む	黒褐色 にぶい赤褐色	内黒土器 内外面-撫で
21	土師器	坏	—	13.8	—	やや粗い赤色粒 子を含む	黒色 にぶい橙色	内黒土器 外面-体部下半へラ削り
22	土師器	坏	6.3	15.8	5.6	雲母、赤・白色 粒子を含む	暗灰黄色～黒色 橙色	内黒土器 外面-体部下半へラ削り
23	土師器	坏	—	—	5.2	雲母、赤・白色 粒子を含む	黒褐色 にぶい橙色	内黒土器、暗文あり 外面-底部回転糸切り痕
								底部破片

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率	
			器高・口径・底径						
24	土師器	高台付坏	—	—	6.4	雲母、赤・白色粒子を含む	褐色 浅黄橙色	内黒土器 内外面一撫で	底部破片
25	土師器	高台付坏	—	—	8.8	雲母、白・黑色粒子を含む	黒色 橙色～にぶい黄 橙色	内黒土器 内外面一撫で	底部破片
26	土師器	高坏	—	—	—	雲母、赤・白色粒子を含む	橙色	内面一撫で 外面一ヘラにより上半分は面取りをしていたと思われる	脚部破片
27	土師器	皿	2.9	12.7	4.0	赤・白色粒子と細かい雲母を含む	橙色 灰黄褐色 口縁部橙色	内面一撫で 外面一体部下半と底部ヘラ削り	2/5残
28	土師器	皿	2.4	12.1	4.5	雲母、赤・白色粒子を含む	浅黄橙色 橙色	内面一撫で 外面一体部下半と底部ヘラ削り	1/3残
29	土師器	皿	2.2	12.7	2.4	やや粗い赤色粒子、白・黑色粒子を含む	橙色	内面一撫で 外面一回転糸切り後、体部下半～底部ヘラ削り	口縁部一部欠損
30	土師器	甕	—	—	5.2	赤・白・黑色粒子を含む	灰白色	内面一ヘラ撫で 外面一綾刷毛目調整後、横刷毛目調整	胴下部～底部破片
31	土師器	甕	—	31.0	—	粗い雲母、白・黑色粒子を含む	にぶい褐色	内面一横刷毛目 外面一口縁横撫で、胴部綾刷毛目	口縁部破片
32	土師器	甕	—	25.0	—	粗い雲母、白・黑色粒子を含む	褐色	口縁部一内、外横撫で 内面一横刷毛目 外面一綾刷毛目	口縁部破片
33	土師器	甕	—	—	11.0	粗い白色粒子と雲母を含む	明赤褐色	内面一指頭調整痕がみられる 外面一綾刷毛目、底部木葉痕	底部破片
34	土師器	甕	—	29.6	—	雲母、白・黒・赤色粒子を含む	にぶい赤褐色 赤褐色	内面一横刷毛目 外面一綾刷毛目	口縁部破片
35	土師器	甕	—	30.0	—	雲母、白・黑色粒子を含む	明赤褐色	内面一横刷毛目、指頭痕がみられる 外面一口縁部横撫で、胴部綾刷毛目	口縁部～胴部破片
36	鉄	刀子?							

〈12号住居址出土遺物〉 (第62図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率	
			器高・口径・底径						
1	須恵器	?	—	—	—	白・黑色粒子を含む	褐灰色～黒褐色	粘土ひもを撫で整形	把手部破片
2	土師器	羽釜	—	—	—	雲母、赤・白・黑色粒子を含む	にぶい橙色～黒 褐色	外面一横撫で、指頭痕あり	銚部破片

〈13号住居址出土遺物〉 (第63図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率	
			器高・口径・底径						
1	須恵器	壺	—	7.9	—	白色粒子を含む	暗オリーブ灰色	自然釉がかかっている	口縁部破片
2	土師器	坏	—	12.4	—	赤・白色粒子と少量の雲母を含む	にぶい褐色	外面一体部下半ヘラ削り	1/5残
3	土師器	坏	—	12.0	—	赤・白色粒子と雲母を含む	灰黄褐色 橙色	外面一体部下半ヘラ削り	口縁～体部破片

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率	
			器高・口径・底径						
4	土師器	坏	4.2 ,	13.8 ,	4.9	赤・白色粒子と 雲母を含む	橙色～黒褐色	外面一体部下半ヘラ削り	1/6残
5	土師器	坏	— ,	13.6 ,	—	赤・白色粒子と 雲母を含む	橙色	外面一体部ヘラ削りがみられる	口縁～体 部破片
6	土師器	坏	— ,	— ,	4.5	赤・白色粒子を 含む	橙色	外面一体部ヘラ削り、底部ヘラ削り	体部～底 部破片
7	土師器	坏	3.7 ,	12.6 ,	4.9	やや粗い赤・白・ 黒色粒子と雲母 を含む	橙色 一部黒変	外面一体部下部ヘラ削り 底部一回転糸切り後ヘラ削り	完形
8	土師器	坏	5.9 ,	16.2 ,	6.0	赤・白色粒子と 雲母を含む	黒色 橙色	外面一体部下半ヘラ削り 墨書あり 底部一回転糸切り後ヘラ削り 内黒土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
9	土師器	皿	2.7 ,	13.0 ,	3.4	赤・白色粒子と 雲母を含む	橙色	外面一体部下半ヘラ削り 底部一回転糸切り後ヘラ削り	4/5残
10	土師器	皿	— ,	— ,	—	赤・白色粒子を 含む	にぶい黄橙色 橙色	外面一体部ヘラ削り、墨書らしきもの がみられる	破片
11	土師器	皿	2.3 ,	12.3 ,	4.0	粗い赤色粒子と 白色粒子、雲母 を含む	橙色～浅黄橙色	外面一体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り	2/3残
12	土師器	皿	2.1 ,	12.7 ,	5.0	赤・白色粒子と 細かい雲母を含 む	橙色	外面一体部下半ヘラ削り、墨書あり 底部一回転糸切り後ヘラ削り	2/3残
13	土師器	甕	— ,	25.4 ,	—	粗い雲母、白・ 赤・黒色粒子を 含む	橙色	内面一横刷毛目 外面一口縁横撫で 胴部縦斜め刷毛目	口縁部破 片
14	土師器	甕	— ,	24.0 ,	—	粗い雲母、白・ 赤・黒色粒子を 含む	橙色 明褐色	内面一口縁部横刷毛目 胴部撫で 外面一口縁部撫で、胴部縦刷毛目	口縁部破 片
15	灰釉陶器	坏	— ,	11.0 ,	—	細かい白・黒色 粒子を含む	灰オリーブ色 灰白色	口縁部外反している	口縁部破 片
16	灰釉陶器	皿	— ,	15.8 ,	—	細かい白・赤色 粒子を含む	灰白～灰オリーブ色	釉は刷毛ぬり？	口縁～体 部破片
17	灰釉陶器	段皿	— ,	— ,	9.6	白・黒色粒子を 含む	灰オリーブ色 灰白色	高台は、外側下半に稜があり 内側は直線的 釉は浸けがけ	底部破片
18	綠釉陶器	段皿	— ,	13.9 ,	—	密・白色粒子を 含む	灰オリーブ色	陰刻雲形文	口縁～体 部破片

〈14号住居址出土遺物〉 (第64図)

(単位: cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率	
			器高・口径・底径						
1	土師器	皿	— ,	11.6 ,	—	赤・白色粒子と 細かい雲母を含 む	橙色	外面一体部下半にヘラ削り	底部欠損
2	土師器	甕	— ,	28.2 ,	—	粗い雲母、白・ 赤・黒色粒子を 多く含む	赤褐色	内面一横刷毛目 外面一縦刷毛目	口縁～体 部破片

〈15号住居址出土遺物〉 (第65図)

(単位 : cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	土師器	壺	3.6	11.8, 5.0	赤色粒子と少量の白色粒子、細かい雲母含む	にぶい赤褐色 内面一部黒変	外面一体部下半へラ削り 底部一回転糸切り後へラ削り	1/4残
2	土師器	壺	—	10.0, —	赤色粒子と少量の雲母を含む	橙色	外面一体部へラ削り	口縁部破片
3	土師器	壺	—	—, 6.0	赤・白色粒子を含む	橙色	外面一体部へラ削り 底部一へラ削り、墨書?あり	底部破片
4	土師器	壺	—	14.5, —	赤・白色粒子を含む	黒褐色 橙色	内面一暗文 外面一体部下半へラ削り 内黒土器	体部破片
5	土師器	甕	—	36.0, —	粗い雲母、白・赤・黒色粒子を含む	褐色 にぶい赤褐色	内面一横刷毛目 外面一口縁横撫で 胴部縦斜刷毛目	口縁～胴部破片
6	鉄	刀子						

〈4号掘立柱建物址出土遺物〉 (第66図)

(単位 : cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	土師器	壺	3.9	11.9, 4.5	赤・白色粒子を含む	橙色	外面一体部下半へラ削り 底部一へラ削り	1/3残

〈5号掘立柱建物址出土遺物〉 (第67図)

(単位 : cm)

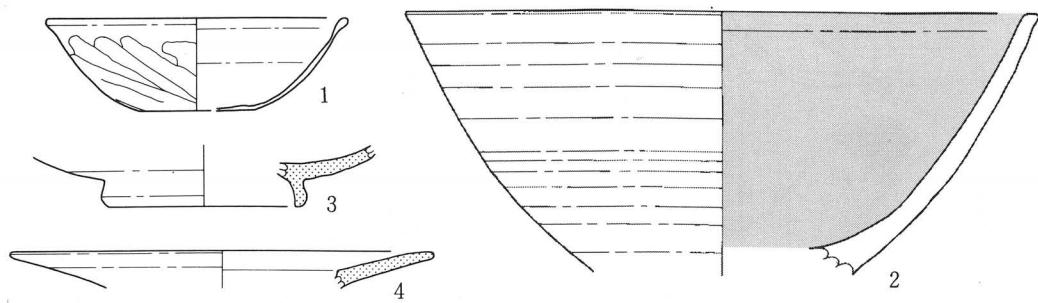
番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	土師器	壺	4.2	11.0, 4.9	粗い多量の赤色粒子と少量の白色粒子を含む	橙色	内面一暗文がみられる 外面一体下部へラ削り 底部一へラ削り	3/4残

〈遺構外出土遺物〉 (第68図)

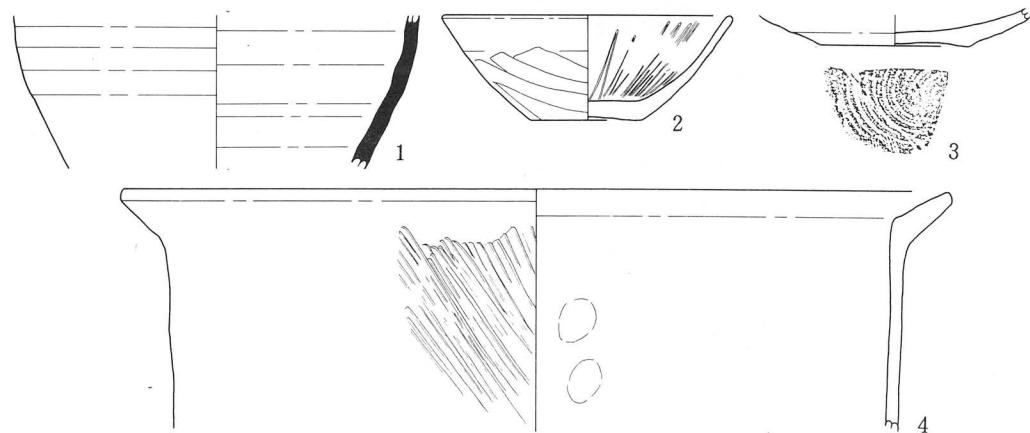
(単位 : cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高	口径・底径				
1	須恵器	甕	—	40.0, —	細かい砂粒を含む	灰色	外面一自然釉がかかっている 叩き目あり	口縁部破片
2	須恵器	甕	—	—, —, —	白色粒子を含む	灰色	内面一磨き 外面一叩き目 転用硯	胴部破片
3	須恵器	壺	—	—, —, 13.0	白色粒子の目立つ細かな砂粒を含む	暗灰黄褐色	付高台	底部破片
4	土師器	壺	—	12.2, —	赤・黒・白色粒子を含む	橙色 橙色～にぶい橙色	外面一体部下半へラ削り	1/2残

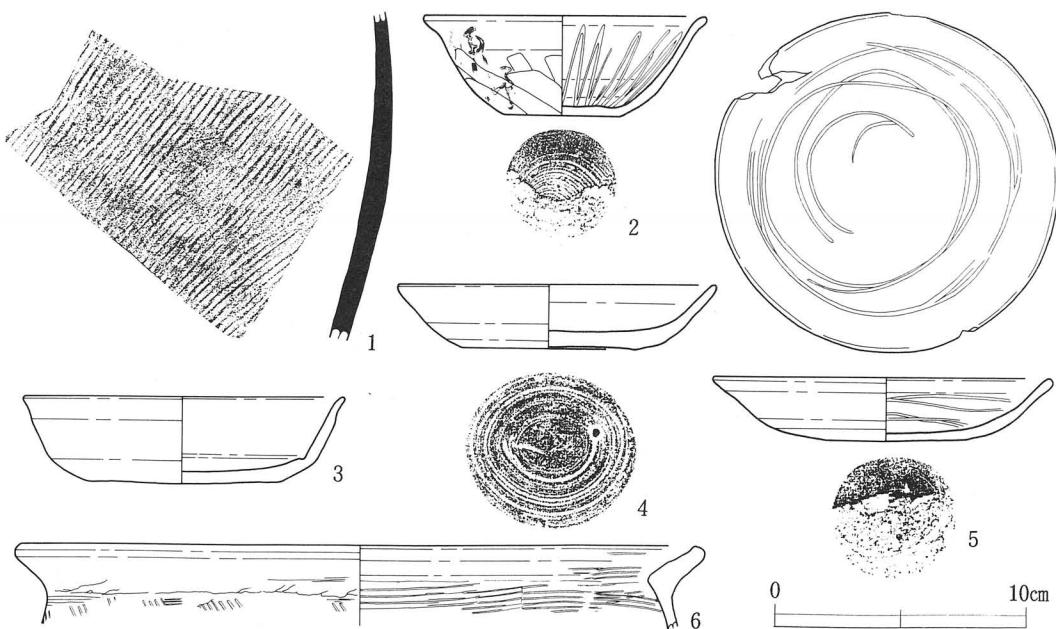
番号	種類	器形	法量		胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他	残存率
			器高・口径・底径					
5	土師器	壺	—	10.7, —	細かい砂粒を含む	明赤褐色	口縁部は外側に湾曲している	口縁部破片
6	土師器	壺	—	13.5, —	赤・白色粒子を含む	橙色	外面一体部下半雑なヘラ削り	1/5残
7	土師器	壺	—	19.0, —	赤色粒子を含む	黒色 にぶい黄橙色	内面一口縁部横磨き 体部暗文 内黒土器	口縁部～ 体部破片
8	土師器	壺	—	19.0, —	赤色粒子を含む	黒色 にぶい黄橙色	内面一口縁部横磨き 体部暗文 内黒土器	口縁～ 体部破片
9	土師器	壺	—	—, 6.8	雲母、白・赤・ 黒色粒子を含む	黒色 浅黄橙色	内面一暗文 外面底部回転糸切り後、付高台 内黒土器	体下部～ 底部破片
10	土師器	壺	—	—, 5.9	雲母、赤・白色 粒子を含む	黒色 橙色	内面一体部みこみ部に暗文 外面一部、底部ヘラ削り 底部に墨書きしきものがみられる 内黒土器	底部破片
11	土師器	壺	4.0, 13.2, 4.5	—	白・赤・黒色粒 子と雲母を含む	黒色 黄橙色	内面一暗文 外面底部回転糸切り跡	1/4残
12	土師器	皿	2.6, 13.2, 4.0	—	赤・白色粒子を 含む	にぶい橙色 橙色	外面一体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り	1/4残
13	土師器	皿	—, 12.4, —	—	赤・白色粒子と 細かい雲母を少 量含む	橙色	外面一体部下半ヘラ削り 墨書きあり	1/5残
14	土師器	鉢	—, —, —	—	白色粒子の目立 つ細かい砂粒を 含む	黒色 橙色	鉢の把手 体部側面に粘土を貼りつけヘラ削りにて整形 内黒土器	把手破片
15	土師器	甕	—, —, 6.2	—	雲母、白・赤・ 黒色粒子を含む	にぶい赤褐色 明赤褐色	内面、横刷毛目 外面一縦刷毛目 胴下部に斜め方向の削り? 底部木葉痕	底部破片
16	土師器	甕	—, —, 7.8	—	雲母、白・赤・ 黒色粒子を含む	にぶい赤褐色 明赤褐色	内面一横刷毛目 外面一縦刷毛目 胴下部に斜め方向の削り? 底部木葉痕	底部破片
17	土師器	壺	—, 18.5, —	—	雲母、砂粒を含 む	褐色	内面一口縁部一横刷毛目 外面一縦刷毛目	口縁部破 片
18	灰釉 陶器	碗	—, —, 7.2	—	細かい砂粒を含 む	浅黄色	内外面一灰釉がかかっているが薄い 付高台	底部破片



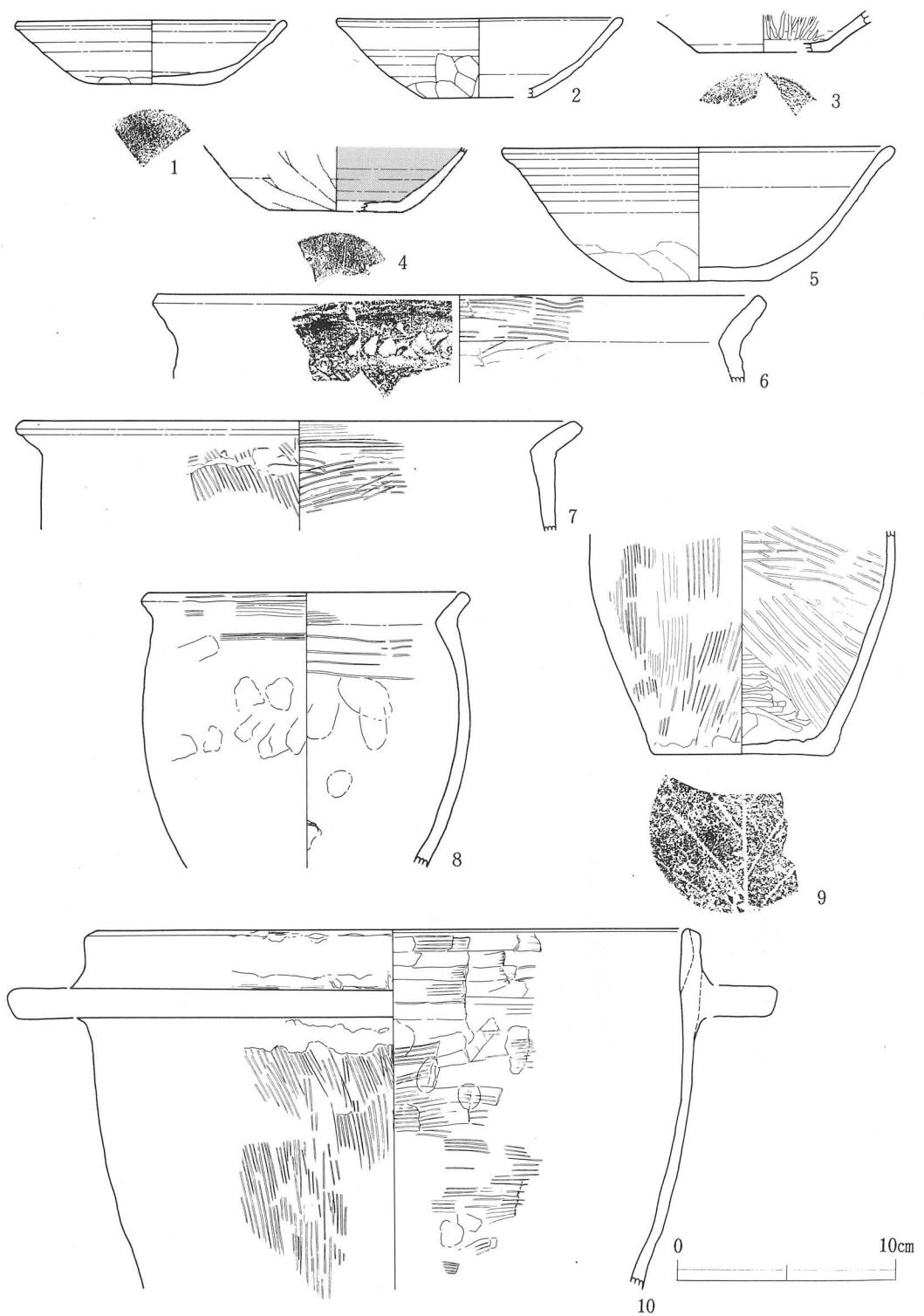
第51図 2号住居址出土遺物 (1/3)



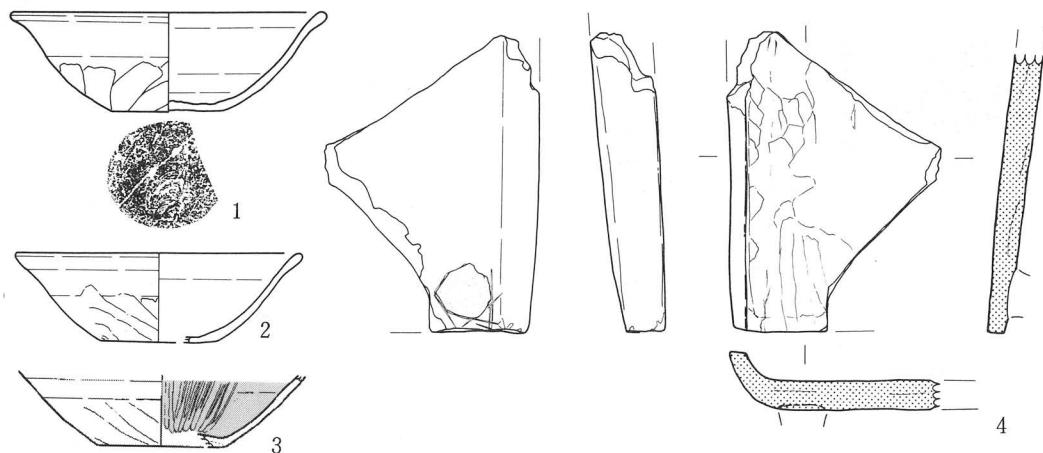
第52図 3号住居址出土遺物 (1/3)



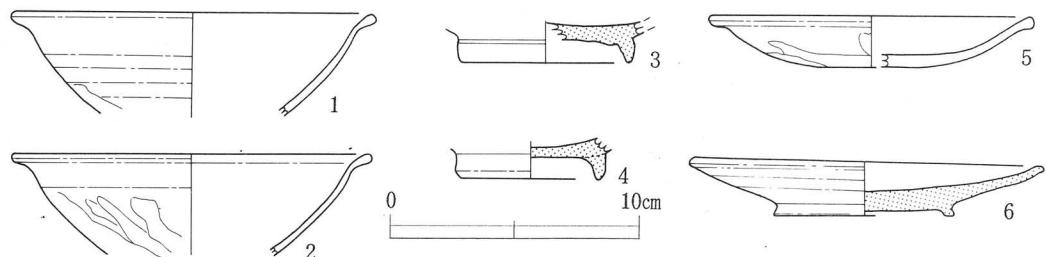
第53図 4号住居址出土遺物 (1/3)



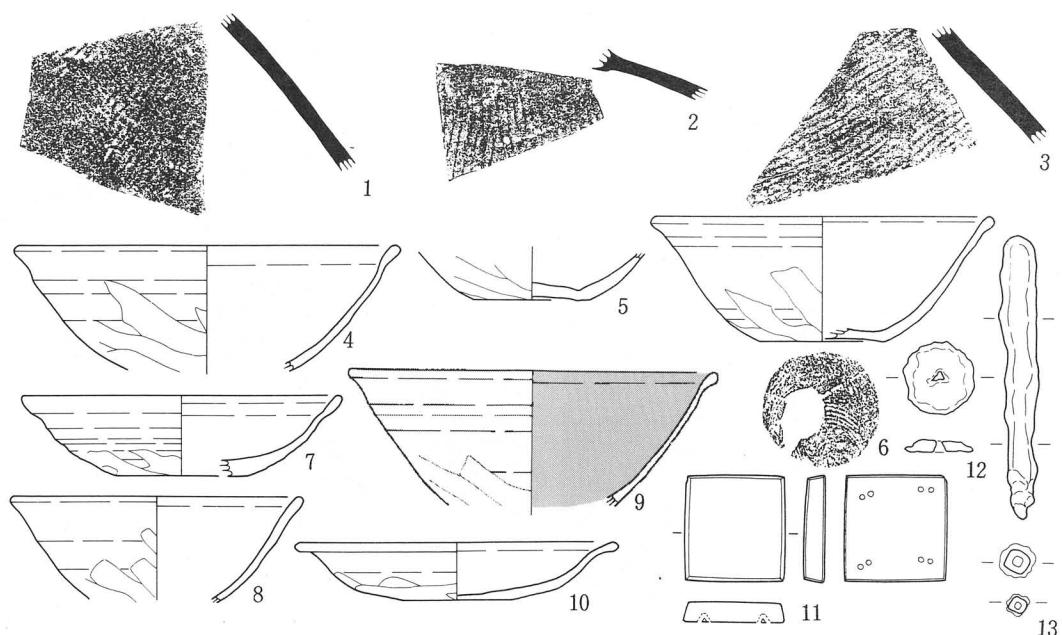
第54図 5号住居址出土遺物 (1/3)



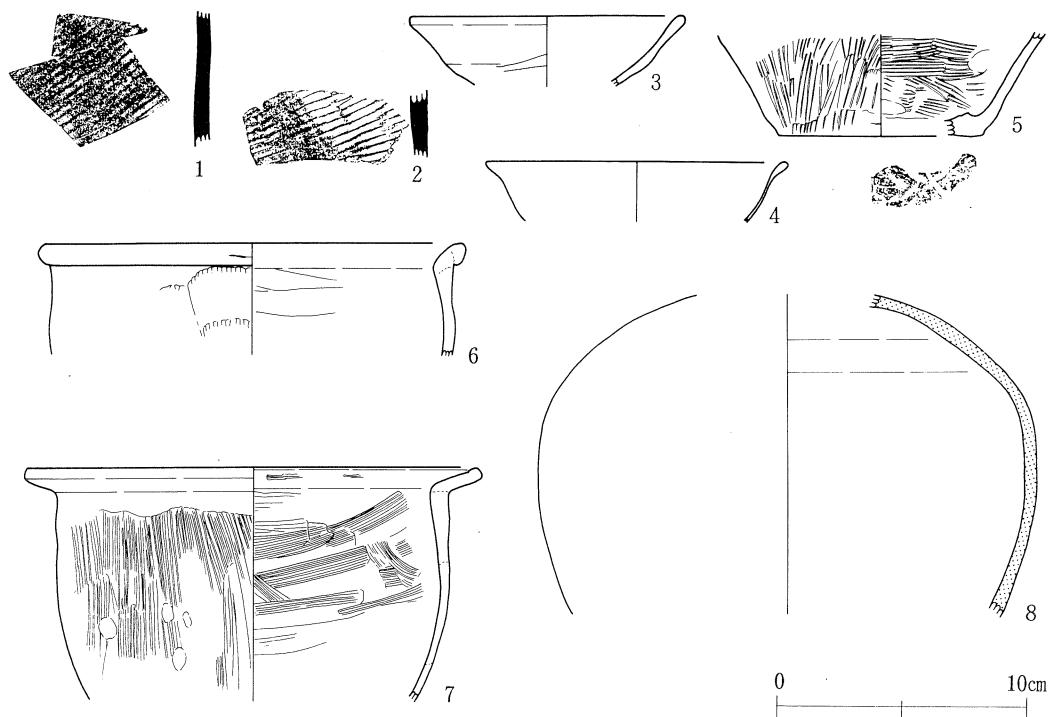
第55図 6号住居址出土遺物 (1/3)



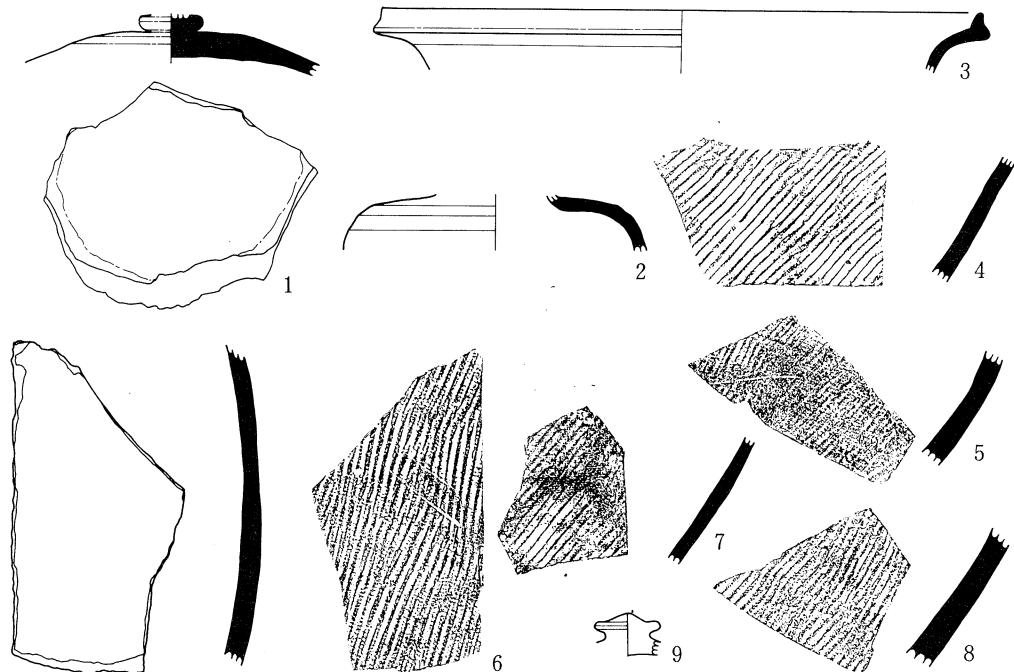
第56図 7号住居址出土遺物 (1/3)



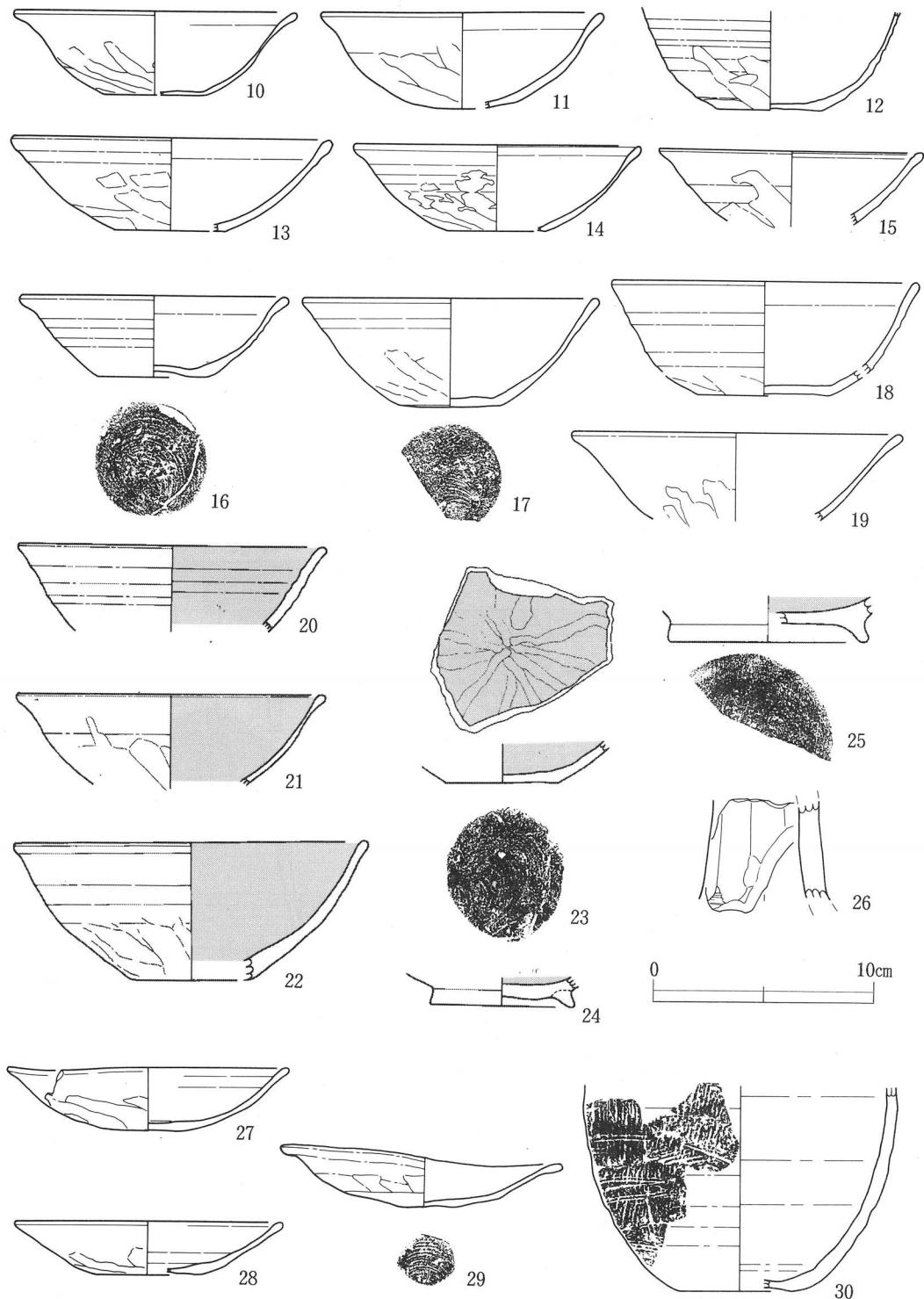
第57図 9号住居址出土遺物 (1/3)



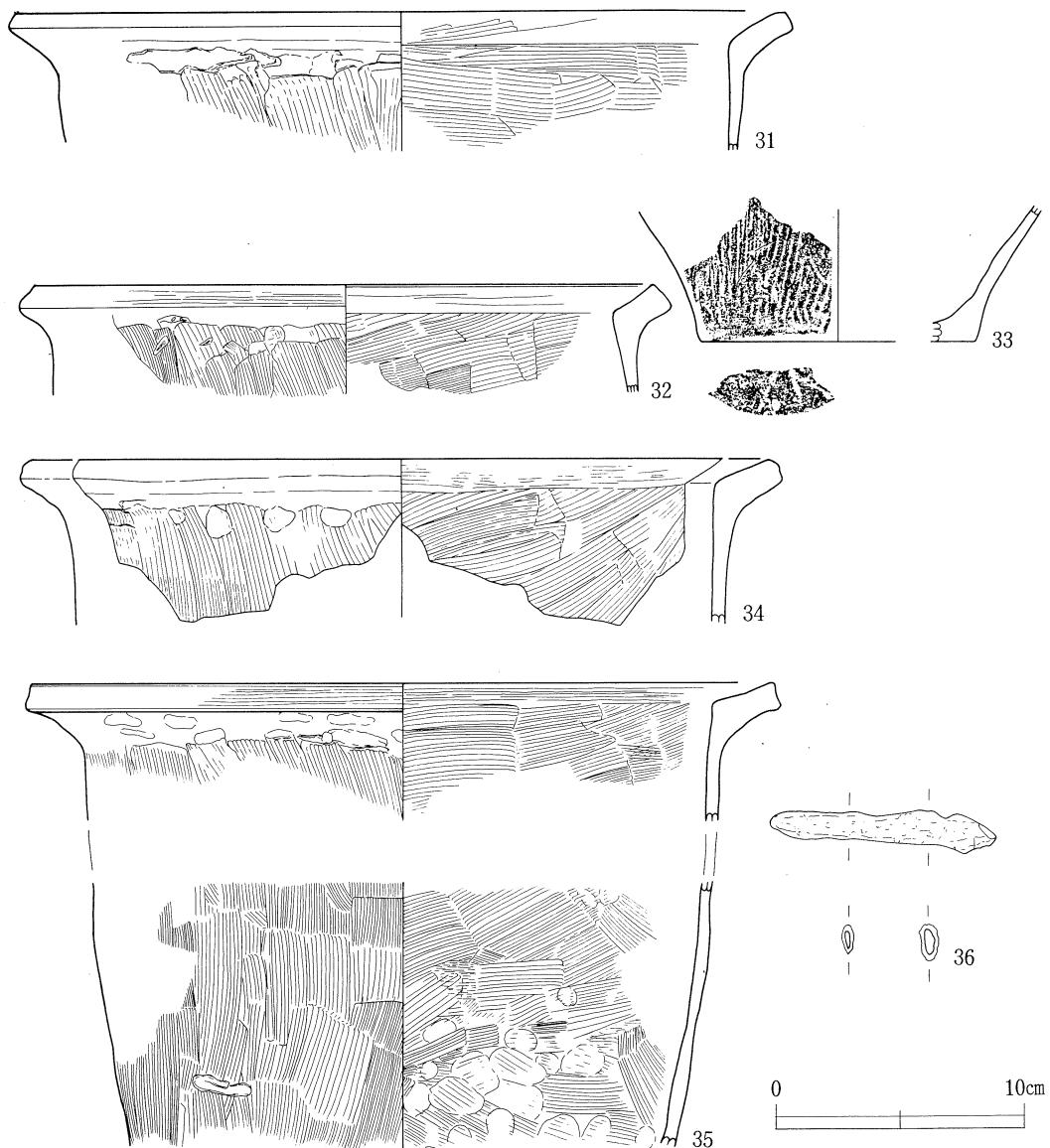
第58図 10号住居址出土遺物 (1／3)



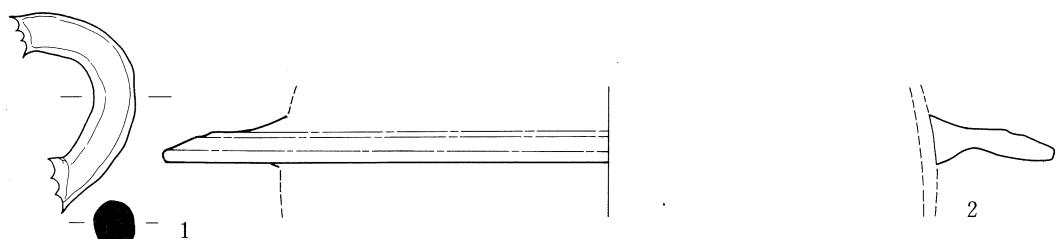
第59図 11号住居址出土遺物 (1／3)



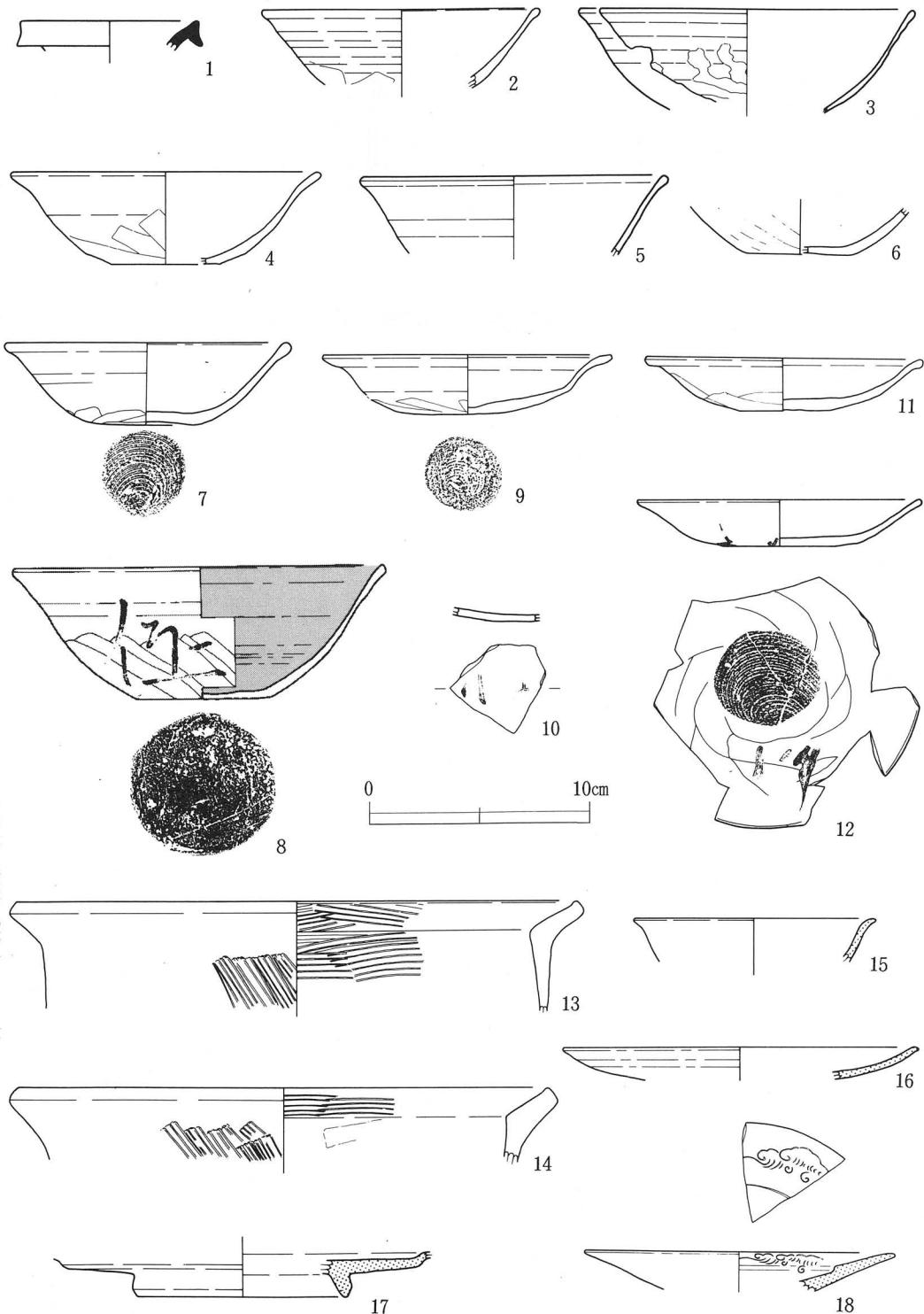
第60図 11号住居址出土遺物 (1 / 3)



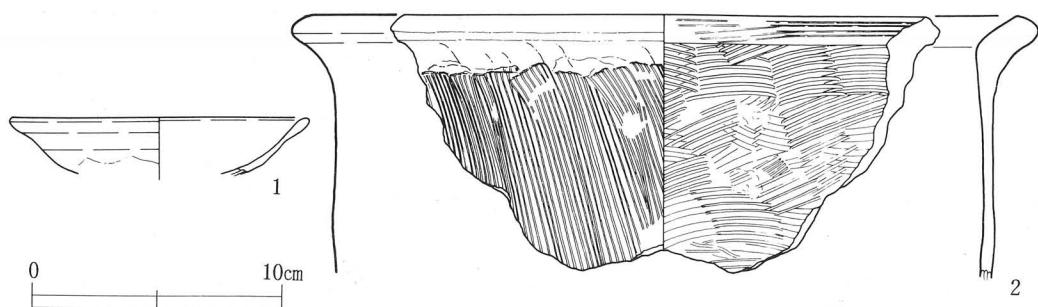
第61図 11号住居址出土遺物（1／3）



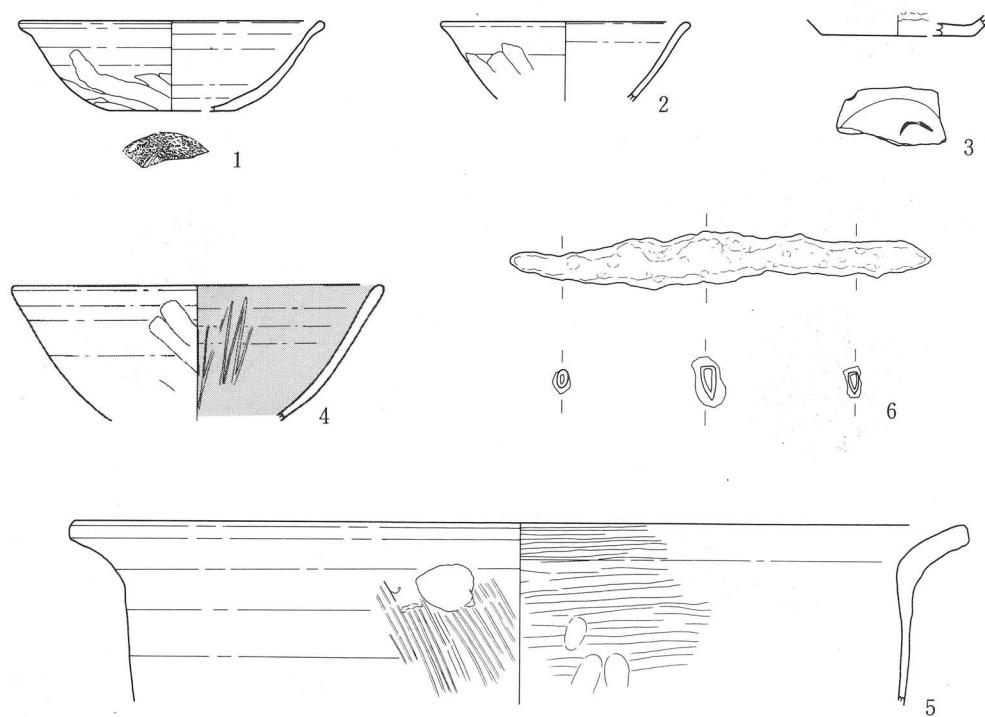
第62図 12号住居址出土遺物（1／3）



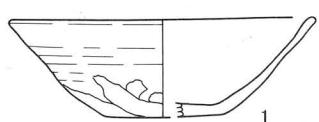
第63図 13号住居址出土遺物 (1 / 3)



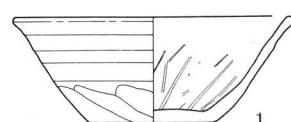
第64図 14号住居址出土遺物 (1／3)



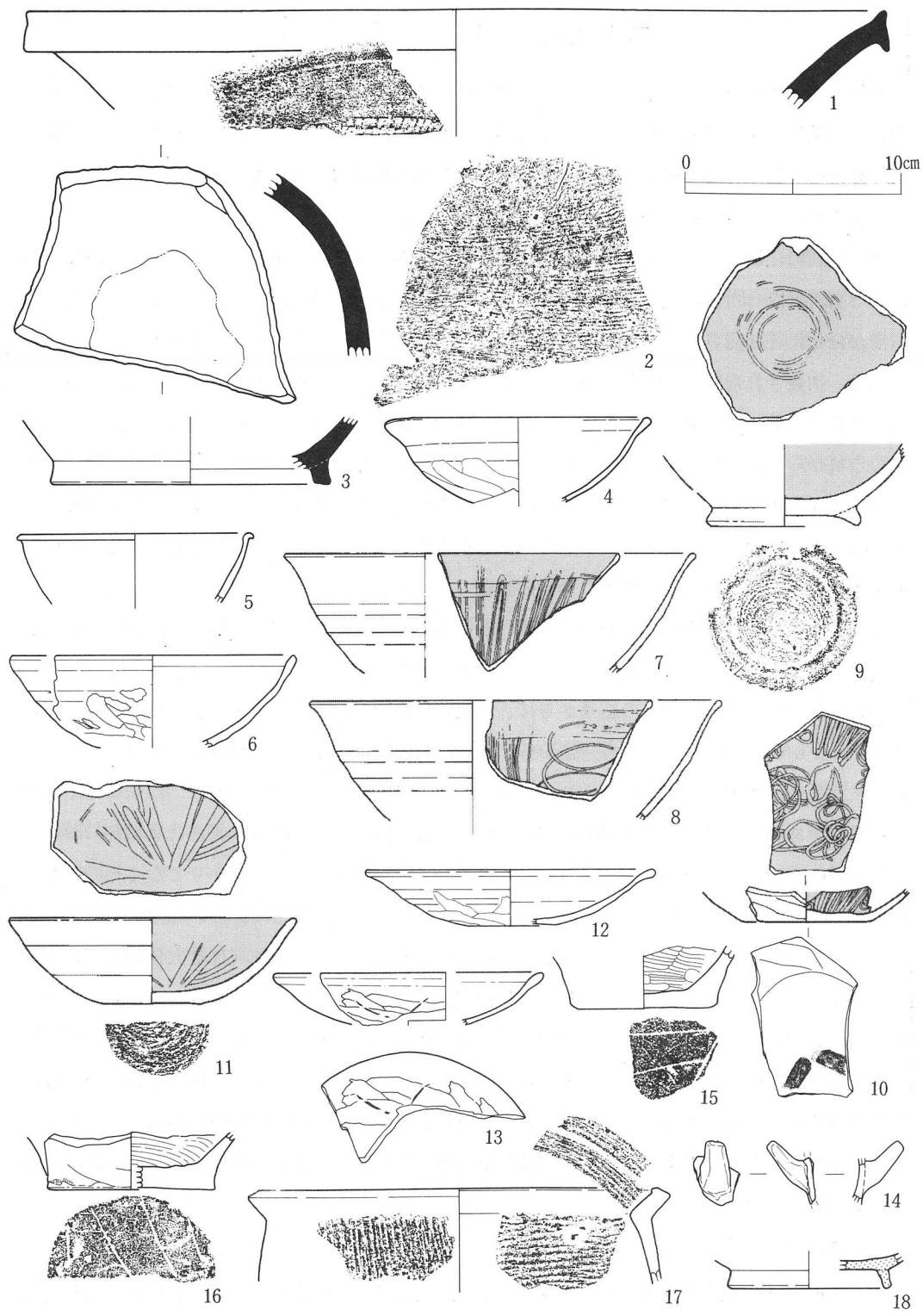
第65図 15号住居址出土遺物 (1／3)



第66図 4号掘立柱建物址出土遺物(1／3)



第67図 5号掘立柱建物址出土遺物(1／3)



第68図 遺構外出土遺物（1／3）

第V章 まとめ

今回の調査で発見された遺構は、縄文時代中期中葉の住居址1軒、縄文時代晚期前半の土坑3基、配石遺構1基、配石土坑群、平安時代の竪穴住居址15軒、掘立柱建物址5棟で、出土遺物は縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器片、平安時代の土師器・灰釉陶器など多岐にわたっており、縄文時代・弥生時代・平安時代の複合遺構となっている。

縄文時代の住居は1軒だけで出土土器も少なかったが、重なって出土した炉体土器は編年上興味深い資料となった。縄文時代晚期前半の配石遺構や土坑と土器の出土は、これまで当該時期の遺構がほとんど確認されなかつた藤井平において、貴重な発見となった。なかでも一号配石土坑からは、切断された深鉢形土器が外面を上にして口縁部をずらした状態で出土しており、甕棺の類いと思われ数少ない発見例となった。石器も晚期に特徴的な飛行機鎌など種類は豊富であった。1号土坑からは、被熱を受けた石群とともに焼かれて炭化したトチの実が多量に出土した。通常トチの実などの堅果類はアクを抜くために水で晒されたりし、遺構としても水晒し場が確認されている。本土坑のような焼かれた状態で出土したものは非常に珍しく、その意味や性格などの解説は民俗事例や民族例などを含めて今後の課題であろう。

弥生時代は、前期の土器片と後期の土器片が僅かに出土したのみで、遺構は確認されなかつた。しかし、遺物の出土は当然当該時期における人間活動の証拠となるもので、重要な発見であった。

平安時代に関しては、調査の結果からは、本遺跡では10世紀前半頃を中心とした集落が営まれていたことが明らかになった。各遺構から出土した遺物は、土師器や灰釉陶器、鉄製品といった日常生活品などが中心で当時の生活を窺い知ることができる発見となっており、ほかにやや特徴的な遺物である、石鎧や灰釉陶器の硯破片の出土が目を引いた。石鎧は本来古代官僚制において位階束帯の帯に10個・12個と多く付けられたもので、官位身分により石ばかりでなくその材質や色が異なっていた。今回出土したのは9号住居址で一般的な竪穴住居であり、北巨摩地域でも大泉村城下遺跡例などこの石鎧はいくつか知られているが、やはり本遺跡同様竪穴住居からの1点出土がほとんどである。現状ではそれが実際の官僚制に係わるものなのかどうかは分からないが、硯の出土などを考えると、庶民とは異なった文字のかける識字層の存在ということが推測される。本遺跡は地域に展開した豊かな古代史像の一端を物語っているといえよう。藤井平においてはこれまで数多くの発掘調査によって古代の遺跡が発見されており、地域の歴史が明らかになりつつある。今回の平安時代の遺構発見も、当該地域の埋もれた歴史解明の貴重な資料として蓄積されるところとなった。

おわりに

本報告は限られた時間のなかでの作業によりまとめられたものであり、遺構と各遺構から出土した遺物を中心に資料化を試み、それらを掲載・掲示したに過ぎない。調査の成果と資料の詳細な検討・考察が行われず、不十分なことは否めないが、今後の調査研究に資すれば幸いである。

第VI章 付編 萩崎市三宮地遺跡の自然科学分析

新山雅広・山形秀樹（パレオ・ラボ）

1. はじめに

萩崎市三宮地遺跡で縄文時代晚期前半と考えられる3号土坑と縄文時代晚期と考えられる1号土坑が確認された。3号土坑の埋土は、炭化物を非常に多く含んでおり、種子・果実などの植物遺体を多く含んでいることが予想され、埋土中の大型植物化石の検討を行い、同じ埋土を用いて放射性炭素年代測定も行った。1号土坑からは焼骨が出土しており、骨の種類の検討を行った。なお、焼骨の分析は国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生に同定して頂き、ご助言を賜った。

2. 大型植物化石

a. 試料と方法

大型植物化石の検討は、3号土坑の埋土より採取された1試料について行った。試料は黒色砂礫混じり粘土で炭化物を非常に多く含む。なお、この土坑埋土を用いて放射性炭素年代測定も行われ、 $2,700 \pm 100$ yrBPの年代値が得られている。この年代値に従えば、3号土坑の時代は縄文時代晚期と考えられる。

大型植物化石の採集は、試料約200ccを0.25mm目の篩を用いて水洗篩分けをすることにより行った。

b. 結果と若干の考察

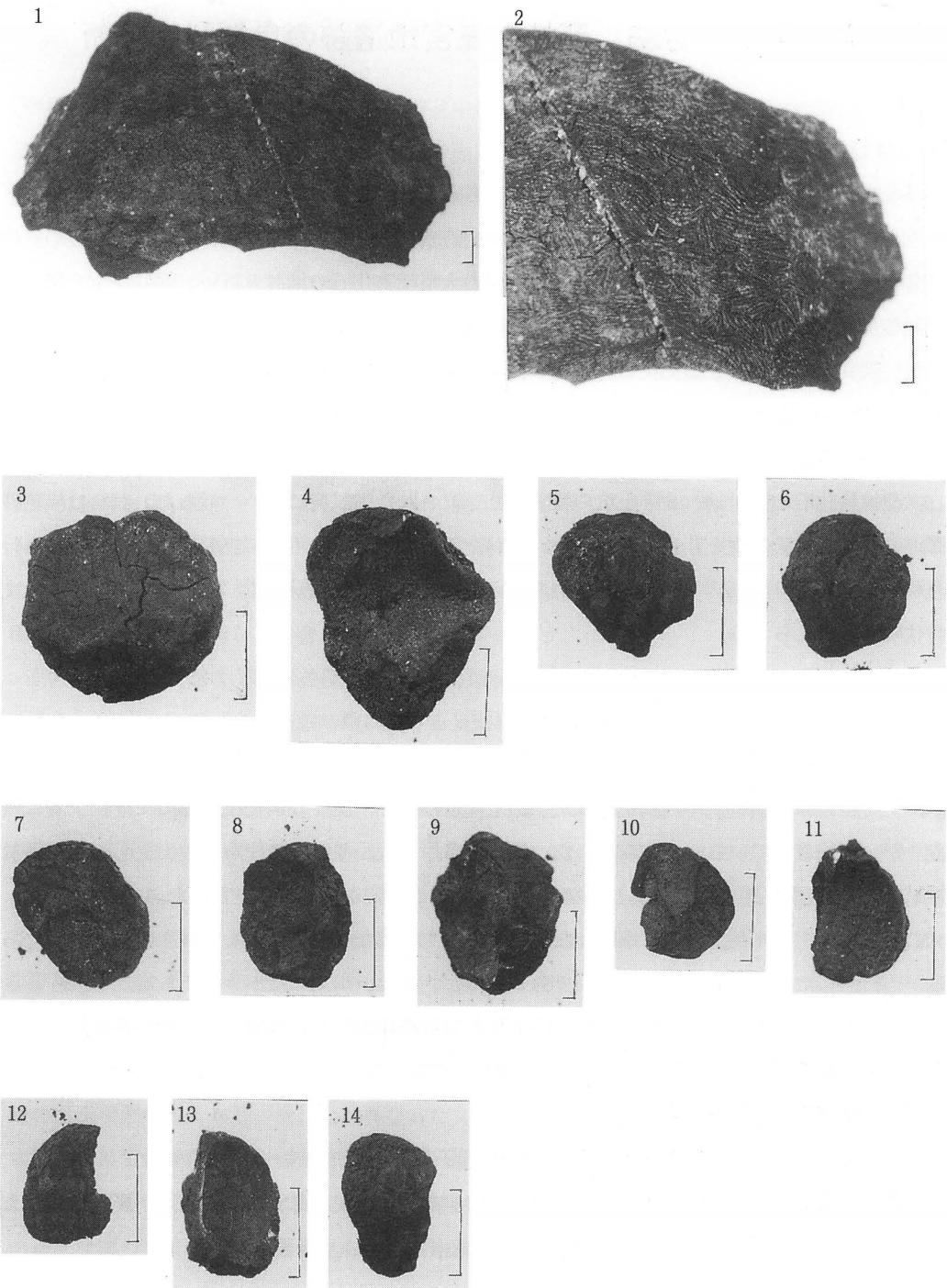
出土したのは、トチノキのみであった。出土部位は炭化子葉片と炭化種皮片であり、子葉に種皮片が一部付着しているものもみられた。炭化子葉片は大小様々な破片を多数出土したが、堆積物試料約200cc中に20～30個程度とかなりの密度で入っていることが推定された。

この炭化トチノキが土坑内に堆積したのは、炭化する前なのか、炭化した後なのかは不明であるが、出土した分類群がトチノキのみであったこと、また、出土したトチノキも炭化子葉片と炭化種皮片のみを出土したことなどから、流水などで自然に土坑内に堆積したことは考え難く、人為的なものと予想される。

c. 大型植物化石の形態記載

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化子葉片、炭化種皮片

子葉は完形であれば、橢円球形で不規則な凸凹がある。種皮は薄くてやや堅く、炭化状態がよいと表面には光沢があり、指紋状の模様がみられる。



図版Ⅰ 出土した大型植物化石（スケールは1、2は1mm、3～14は1cm）
1.トチノキ、炭化種子片 2.トチノキ、炭化種子片(1の拡大) 3～14.トチノキ、炭化子葉片

3. 焼骨

a. 試料

縄文時代晩期と考えられる1号土坑より出土した焼骨の種類を検討した。試料は骨-1、骨-2、骨-3の3試料であり、以下にそれぞれの結果を示す。

b. 結果

骨-1：鹿角片

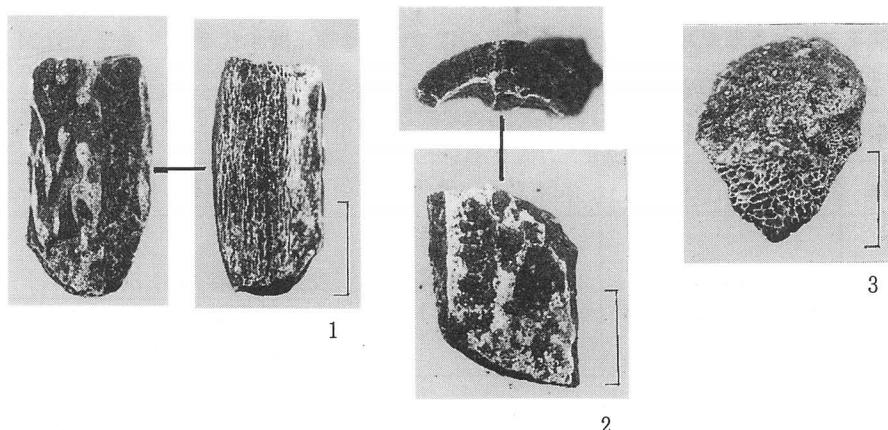
表面に凸凹があり、内側に海綿体があることからシカの角と判断される。

骨-2：シカまたはイノシシの四肢骨

試料は骨の破片であり、わん曲からみて四肢骨である。また、内面の状態、すなわち海綿体が無いことからヒト・海獣・鹿角ではなく、骨の表面が緻密質であることから陸獣である。さらに、陸獣のうち断面の厚さからシカまたはイノシシで内側に栄養孔があることからシカまたはイノシシの四肢骨（大腿骨？）と判断される。

骨-3：骨片

保存状態が非常に悪く、種類は不明である。



図版II 出土した焼骨 (スケールは1cm)

1.鹿角片 2.シカまたはイノシシの四肢骨 3.骨片

4. 放射性炭素年代測定

a. 放射性炭素年代測定について

試料は、酸処理を施して不純物を除去し、酸素気流中で燃焼させて二酸化炭素としたものをアンモニア水に通し、塩化カルシウムの水溶液を加えて炭酸カルシウムを生成する。炭酸カリシウムに過塩素酸を加えて発生させた二酸化炭素を450°Cの反応管内でリチウムに吸収させた後、真空ポンプで引きながら800°Cまで加熱して炭化リチウム（カーバイド）を生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約1ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管（400cc）を用いて、 β -線を計数して年代値を算出した、その結果は下記に示す。

なお、年代値の算出には ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。試料の β -線計数率と自然計数率との差が 2σ 以下の時は、 3σ に相当する年代を下限の年代値として表示し、試料の β -線計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の計数率との差が 2σ 以下の時は、Modernと表示し、 ^{14}C (Sample) / ^{14}C (Modern) の値を付記し、 ^{14}C (Sample) / ^{14}C (Modern) < 1 であれば、yrBPの値を付記する。

曆年代の補正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ^{14}C 年代値（yr BP）に対し、過去の宇宙線強度の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動および半減期の違い（ ^{14}C の半減期5,730±30年）を補正して、より正確な年代を求めるものであり、具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C 年代の詳細な測定値を用いて補正曲線を作成し、これを用いて曆年代を算出する。補正曆年代の算出にCALIB3.0 (Stuiver and Reimer, 1993: IBM-PC用: Reference (Pearson & Stuiver, 1993)) を使用した。なお、交点年代値は ^{14}C 年代値に相当する補正曲線上の年代値であり、 1σ 年代幅は ^{14}C 年代誤差に相当する補正曲線上の年代範囲を示す。年代を検討する場合は、68%の確率で 1σ 年代幅に示すいずれかの年代になる。曆年代の補正是約1万年前からAD1,950年までが有効であり、該当しないものについては補正曆年代を***またはModernと表示する。また、AD1,955*はModernを意味する。

b. 放射性炭素年代測定結果

測定No.	試 料	14 C 年代 値	補 正 曆 年 代
PLD-322	土壤有機物 (SD-3 サンプル4)	$2,700 \pm 100 \text{ yrBP}$ (BC 750年)	交点年代値 BC 830年 1σ 年代幅 BC 920 to 800

引用文献

Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended ^{14}C database and revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program.

写 真 図 版

図 版 1



1号住居址



1号住居址炉

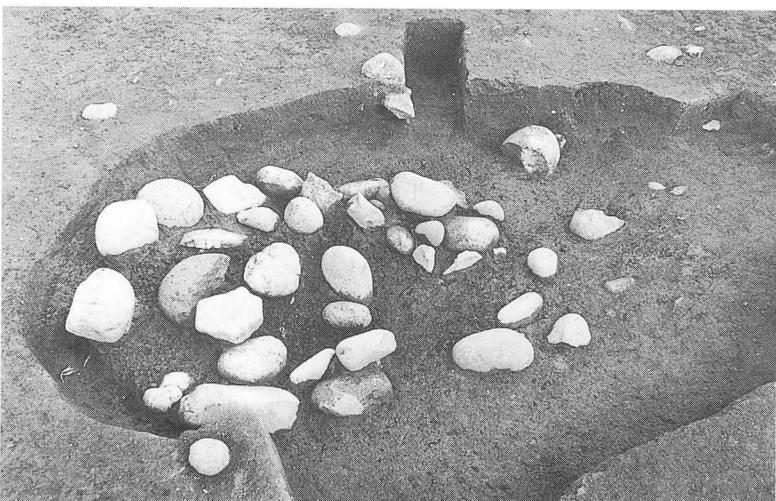


1号土坑遺物
出土状況

図版 2



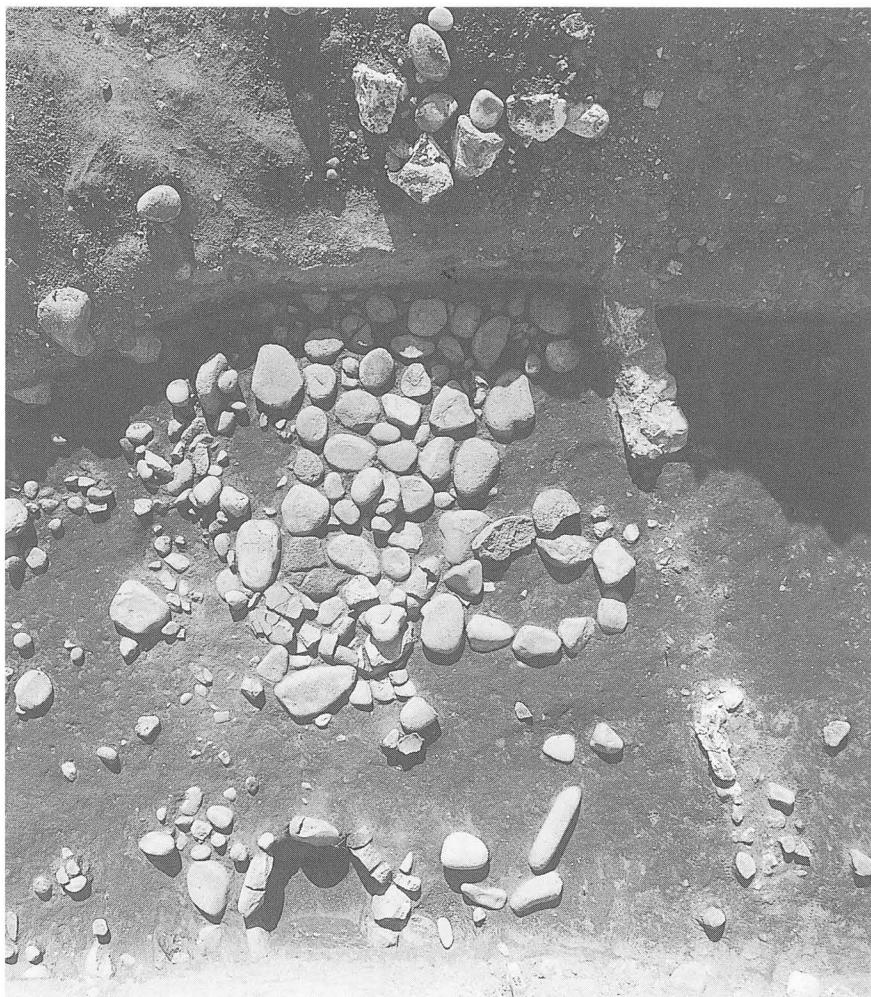
2号土坑完掘状況



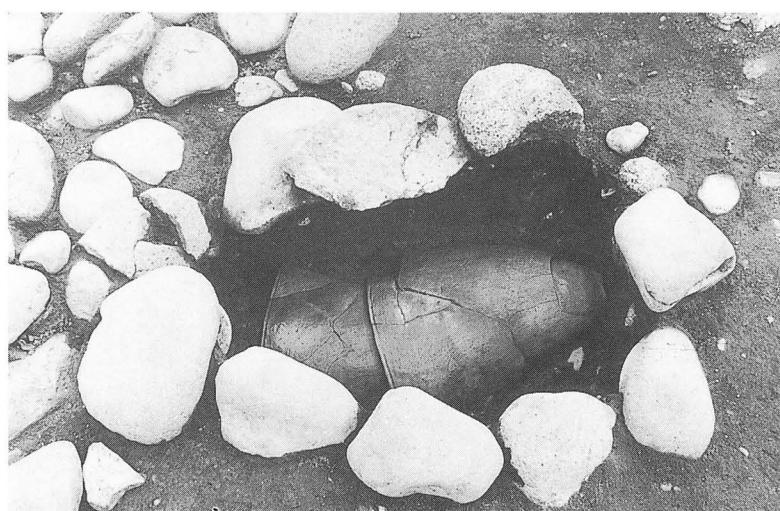
3号土坑礪出土
状況



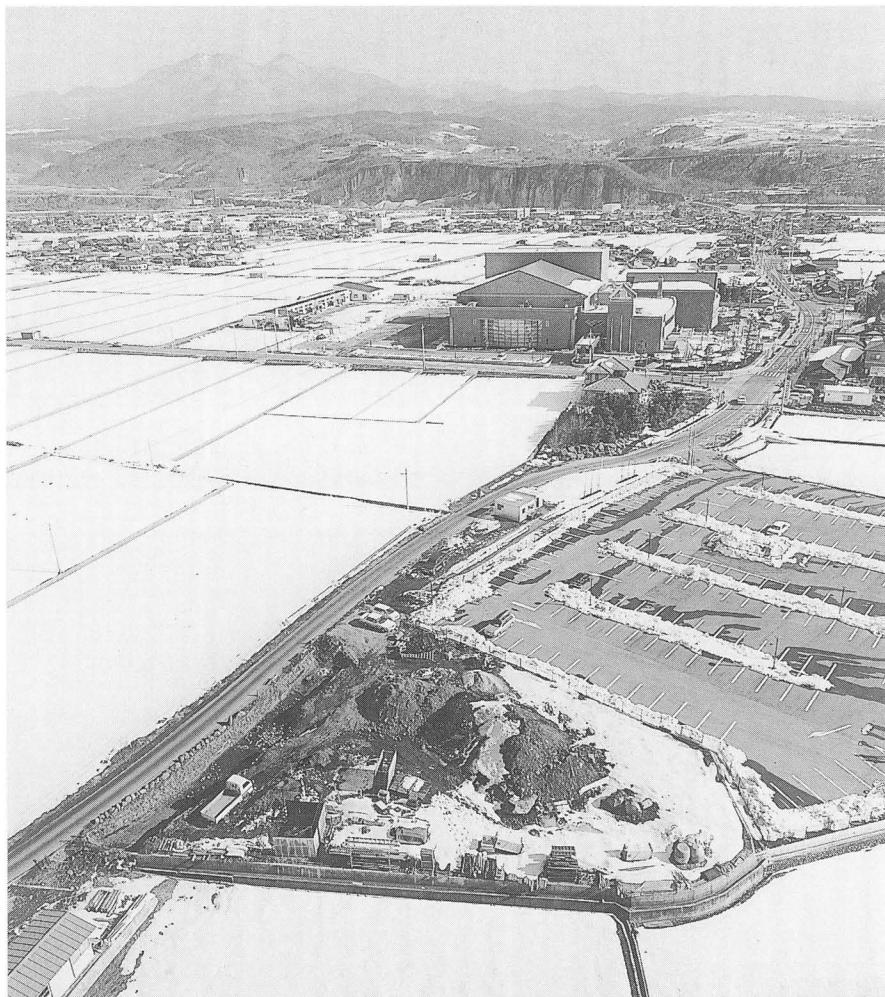
3号土坑完掘状況



配石遺構群



1号配石土坑



真冬の調査区と茅ヶ岳



調査風景



1号住居址出土土器

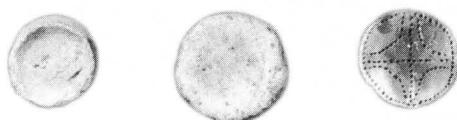


1号配石土坑出土土器

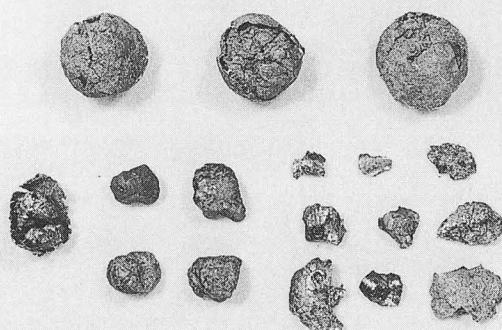
1号土坑出土土器



土偶

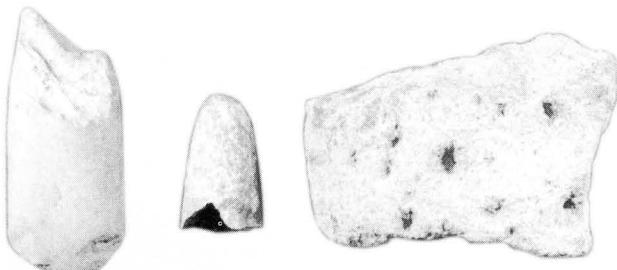


耳飾り



1 2 3 4 5 6

3号土坑出土
トチの実



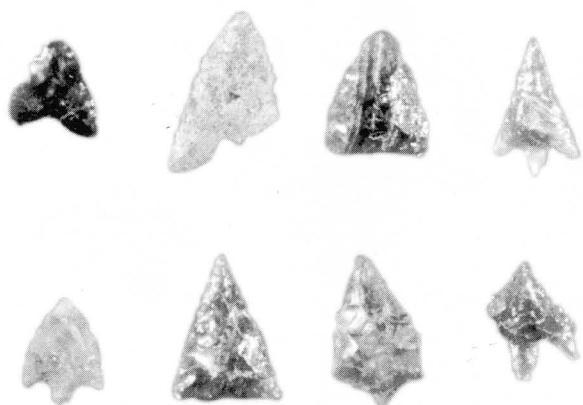
住居出土石器



3号土坑・1号配石
出土石器



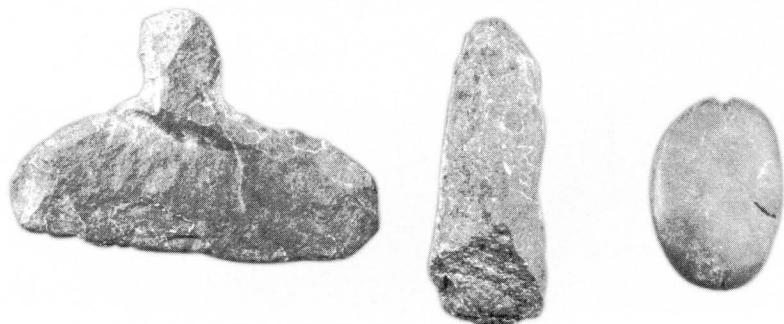
配石土坑群
出土石器



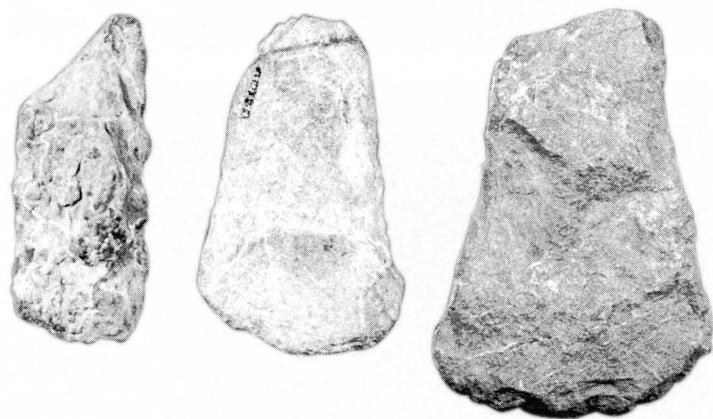
遺構外出土石鏃



遺構外出土
黒曜石



遺構外出土石器



遺構外出土石器

図 版 10



2号住居址



3号住居址



4号住居址



5号住居址



6号住居址



7号住居址

図 版 12



9号住居址



10号住居址



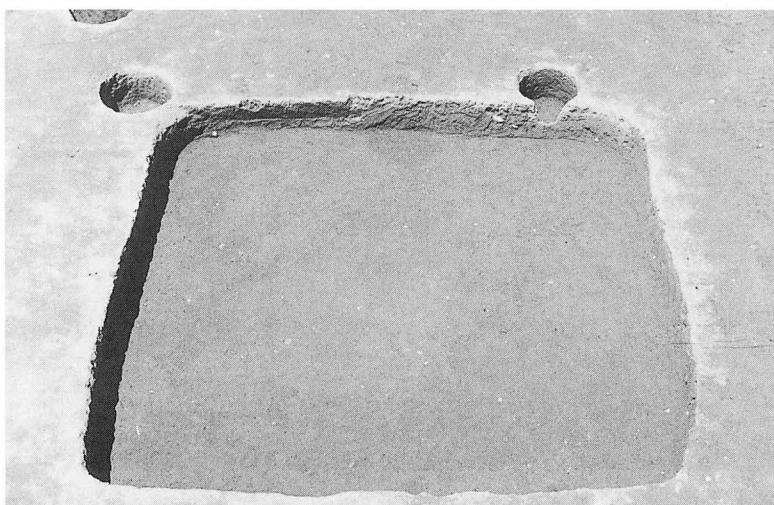
11号住居址



12号住居址



13号住居址



14号住居址



調査風景



15号住居址



2号掘立柱建物址



遺跡近景



3号掘立柱建物址



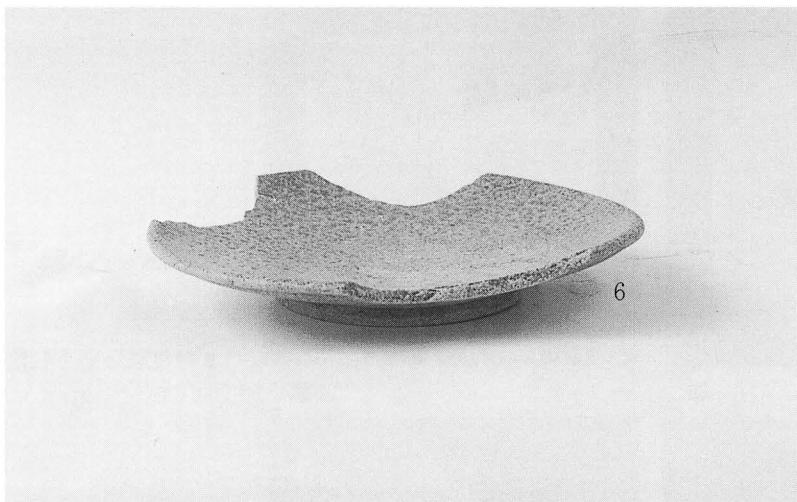
4号掘立柱建物址



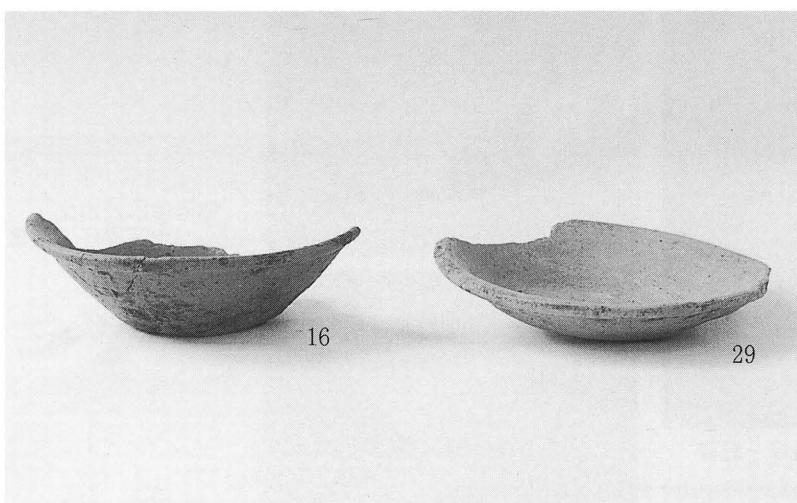
5号掘立柱建物址



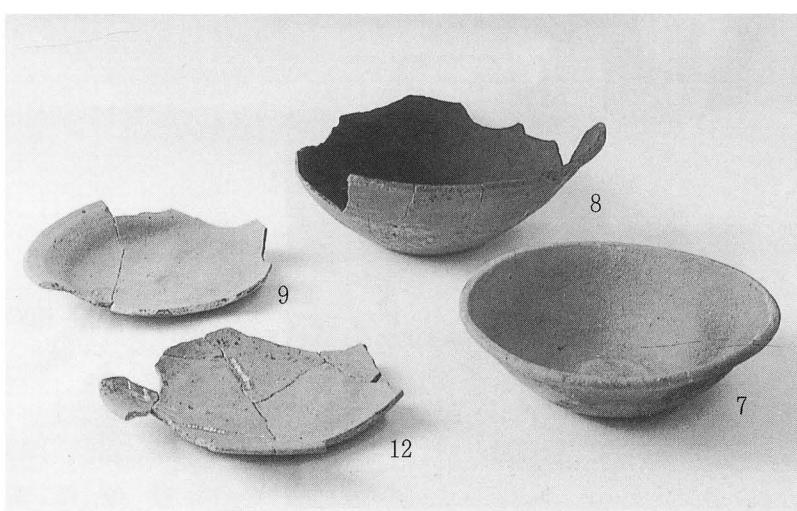
遺跡航空写真



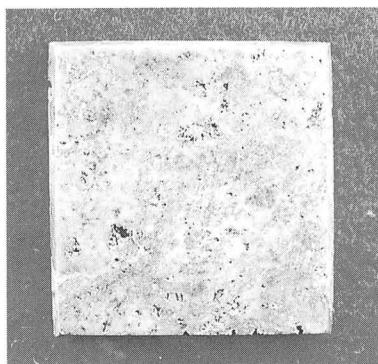
7号住居址出土遺物



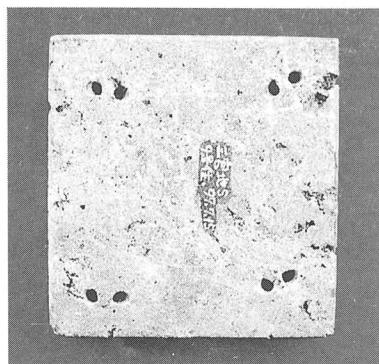
11号住居址出土遺物



13号住居址出土遺物



表

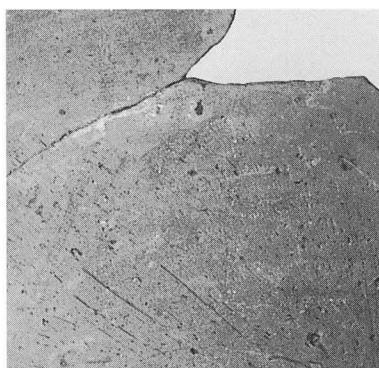


裏

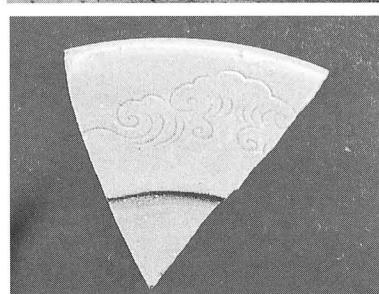
9号住居址出土石鎧



4号住居出土土師器坏・墨書



13号住居址出土
土師器坏・墨書



13号住居址出土
綠釉陶器片



整 理 作 業

三宮地遺跡

発行日 平成10年(1998)3月31日

編集・発行 莩崎市遺跡調査会

菩崎市教育委員会

〒407-8501

山梨県菩崎市水神一丁目3-1

TEL 0551-22-1111(代)

印 刷 アートプリント社
